佐久市埋蔵文化財調査報告書　第70集

岩村田遺跡群

観音堂遺跡

かん　のん　どう

長野県佐久市大字岩村田観音堂遺跡発掘調査報告書
（中世集落）

1999.3

株式会社エス・エス・ブイ
佐久市教育委員会

佐久市埋蔵文化財調査報告書　第70集

岩村田遺跡群

観音堂遺跡

（かんのんどう）

長野県佐久市大字岩村田観音堂遺跡発掘調査報告書
（中世集落）

1999.3

株式会社エス・エス・ブイ
佐久市教育委員会

巻頭図版　一　航空写真

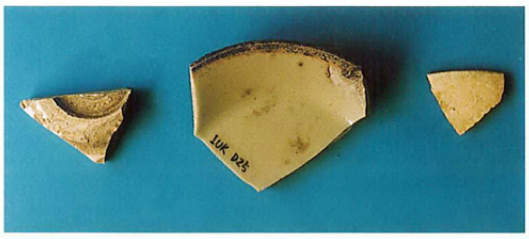
観音堂遺跡全景航空写真（撮影　㈱こうそく　1997.10）

巻頭図版　二　航空写真

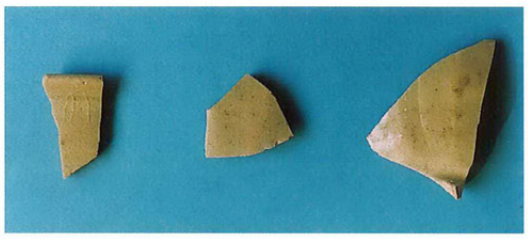
観音堂遺跡遠景（撮影　㈱こうそく）

観音堂遺跡近景（撮影　㈱こうそく）

巻頭図版　三　観音堂遺跡出土の陶磁器

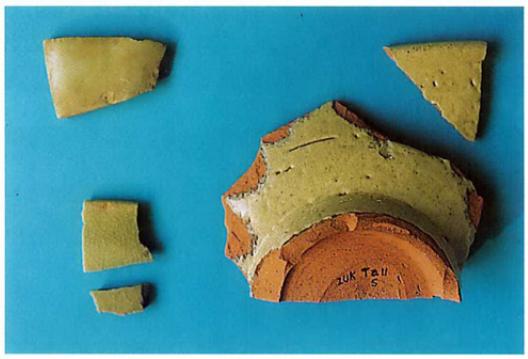


白磁（1 ～ 3）



青磁（4 ～ 6）

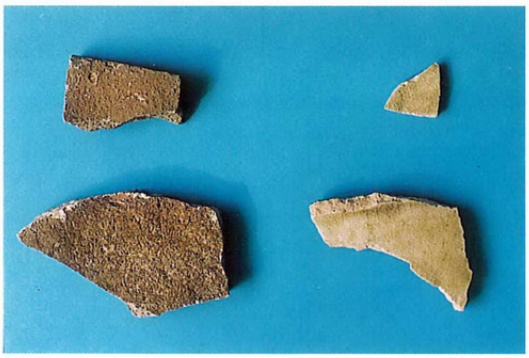
青磁（7 ～ 12）



青磁（13 ～ 16）

青磁（17 ～ 21）

古瀬戸（22 ～ 24）



古瀬戸（25 ～ 28）

古瀬戸（29・30）

（　）の数字は第８表　観音堂遺跡出土陶磁器一覧表の番号

巻頭図版　四　観音堂遺跡出土の陶磁器

古瀬戸（31・32）

古瀬戸（33 ～ 37）

山茶碗系（38 ～ 41）

山茶碗系（42 ～ 44）

山茶碗系（45 ～ 48）

山茶碗系（49 ～ 51）

常滑（52 ～ 54）

巻頭図版　五　観音堂遺跡出土の陶磁器

瓦質擂鉢（55 ～ 58）

瓦質擂鉢（59 ～ 62）

瓦質擂鉢（63 ～ 65）

瓦質香炉・火鉢（66 ～ 68）

近世・近代陶磁器（69 ～ 76）

近世・近代陶磁器（77 ～ 81）

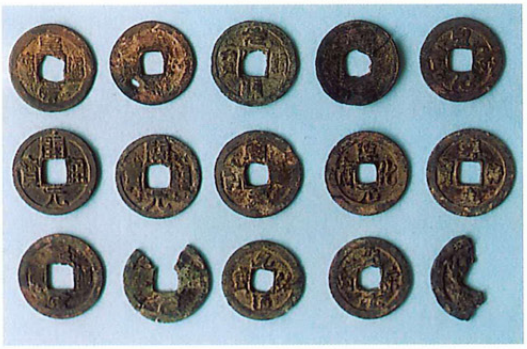
近世・近代陶磁器（82 ～ 89）

近世・近代陶磁器（90 ～ 95）

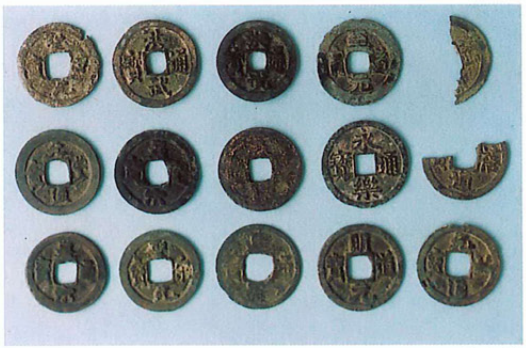
巻頭図版　六　観音堂遺跡出土の陶磁器・渡来銭

近世・近代陶磁器（96 ～ 101）

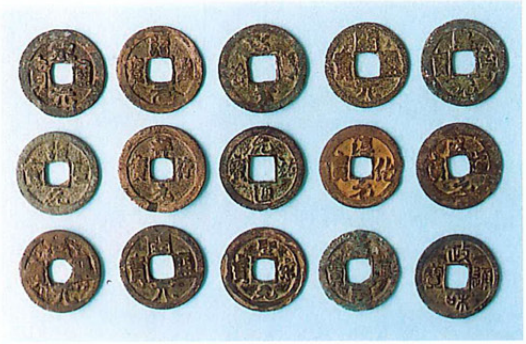
近世・近代陶磁器（102 ～ 107）



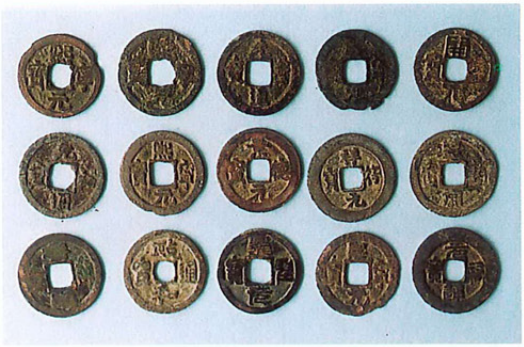
渡来銭



渡来銭



渡来銭



渡来銭

渡来銭

硯（Ta1）

例　　言

1．　本書は平成９年９月22日～11月４日まで発掘調査を行った、株式会社エス・エス・ブイの店舗新築事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書である。

2．　発掘調査は株式会社エス・エス・ブイの委託を受け、佐久市教育委員会埋蔵文化財課が担当した。

3．　本遺跡は平成７年７月10～17日に佐久市教育委員会埋蔵文化財課により試掘調査され、佐久市埋蔵文化財調査報告書第54集『市内遺跡発掘調査報告書1995』に試掘の結果が掲載されている。

4．　本書で掲載した地図は建設省国土地理院発行の地形図（1:25,000・1:50,000)、佐久市発行の基本図（１:2,500）を使用した。

5．　航空写真は㈱こうそくに委託し、それを使用した。

6．　自然科学分析・鑑定関係では次の方々に依頼し、原稿を賜り報告書に記載した。

　樹種・貝類鑑定　パリノ・サーヴェイ株式会社

　人骨鑑定　　聖マリアンヌ大学　平田和明・奥千奈美氏

　獣骨・魚類鑑定　群馬県立大間々高校教諭　宮崎重雄氏

　陶磁器鑑定　長野県埋蔵文化財センター　市川隆之氏

　歴史的環境　佐久考古学会顧問　井出正義氏

7．　本書の編集・執筆は三石宗一指導下、森泉かよ子が担当した。

8．　本遺跡の遺物は佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

凡　　例

1．　遺構番号は、発掘調査時の番号を変更しないでそのまま使用しているため、欠番がある。

2．　遺構の略号は次の通りである。

　Ｈ－竪穴住居跡、Ta－竪穴建物跡・竪穴状遺構、Ｄ－土坑・土壙墓・井戸跡、

　Ｐ－単独ピット、Ｍ－溝状遺構

3．　挿図中の遺構の縮尺は原則として次の通りである。異なる場合は掲載図に明記する。

竪穴住居跡・竪穴建物跡・竪穴状遺構	1/80
土壙墓・土坑	1/60
単独ピット	1/160
溝状遺構	1/200

4．　挿図中におけるスクリーントーンは以下のことを示す。

遺構

地山断面　　火床・焼土

遺物

須恵器　　黒色処理・煤

礫　　金属断面

5．　中世遺跡から検出された竪穴についての呼称は「竪穴建物跡」と「竪穴状遺構」を使用した。「竪穴建物跡」は柱を建てて上屋を構築したことが想定できるもの。「竪穴状遺構」は配列された柱穴や礎石がなく、容易に上屋の構築物を想定しにくいもの。竪穴状遺構は土坑との分類が判然としない。

6．　挿図中の遺物の縮尺は、土器・かわらけ・陶磁器・鉄製品・石製品は１／４である。古銭の拓影図は遺構図と並列してあるものは１／２、拓影図のみものは原寸である。異なる場合は図中に明記してある。

目　　次

巻頭図版
例言
凡例
本文目次
第Ⅰ章　発掘調査の経緯……1
　第１節　調査に至る動機……1
　第２節　調査組織……2
　第３節　調査日誌……3
　第４節　調査の概要……4
第Ⅱ章　遺跡の立地と環境……6
　第１節　遺跡周辺の地形・地質……6
　第２節　遺跡の歴史的環境……8
第Ⅲ章　基本層序……14
第Ⅳ章　遺構と遺物……15
　　第１節　竪穴住居跡……16
　　第２節　竪穴建物跡・竪穴状遺構……21
　　第３節　井戸跡……53
　　第４節　土壙墓……58
　　第５節　土坑……60
　　第６節　単独ピット……123
　　第７節　溝状遺構……130
第Ⅴ章　総括……184
付編　　佐久市観音堂遺跡の獣骨・・・・・・・宮崎重雄……192
　　佐久市観音堂遺跡出土人骨について・・平田和明・奥千奈美……195
　　観音堂遺跡における遺構構築材と食料残渣について…パリノ・サーヴェイ株式会社…198

挿図目次

第１図　観音堂遺跡位置図 …… 1
第２図　観音堂遺跡遺構配置図 …… 5
第３図　発掘区設定図 …… 7
岩村田町文明・永正度の古図 …… 9
第４図　周辺遺跡分布図 ……11
第５図　基本層序模式図 ……14
第６図　Ｈ１号住居跡 ……16
第７図　Ｈ１号住居跡 ……17
第８図　Ｈ１号住居跡 ……18
第９図　竪穴建物跡・竪穴状遺構全体図 (1:250)
……21
第10図　Ta２・Ta３・Ta４竪穴状遺構 ……22
第11図　Ta13・Ta16竪穴状遺構 ……24
第12図　Ta５竪穴建物跡 ……26
第13図　Ta14竪穴状遺構 ……27
第14図　Ta６竪穴状遺構 ……28
第15図　Ta11竪穴建物跡 ……30
第16図　Ta12竪穴建物跡 ……32
第17図　Ta23竪穴建物跡 ……33
第18図　Ta15竪穴建物跡 ……34
第19図　Ta１竪穴状遺構 ……36
第20図　Ta７・Ta８竪穴建物跡 ……38
第21図　Ta９竪穴状遺構 ……39
第22図　Ta17竪穴状遺構 ……40
第23図　Ta18竪穴建物跡 ……41
第24図　Ta19竪穴建物跡 ……42
第25図　Ta10竪穴建物跡 ……44
第26図　Ta20竪穴状遺構 ……45
第27図　Ta21竪穴状遺構 ……46
第28図　Ta22竪穴状遺構 ……47
第29図　Ｔａ24竪穴状遺構 ……48
第30図　Ｔａ25竪穴状遺構 ……49
第31図　Ｔａ26竪穴建物跡 ……50
第32図　Ｔａ27竪穴建物跡 ……52
第33図　土坑（井戸跡）全体図（１:400）…53
第34図　Ｄ８号井戸跡 ……54
第35図　D80号井戸跡 ……55
第36図　D107号井戸跡 ……56
第37図　D122号井戸跡 ……57
第38図　土壙墓 ……58
第39図　方形基調土坑分布図 ……60
第40図　ＩＡ３土坑 ……62
第41図　ＩＡ３土坑 ……63
第42図　ＩＡ４・ＩＡ５土坑 ……65
第43図　ＩＡ４土坑（D25）……65
第44図　ＩＣ５土坑（D15）……66
第45図　ＩＢ３土坑 ……67
第46図　ＩＢ３土坑・ＩＢ４土坑 ……68
第47図　ＩＣ３土坑・ＩＣ４土坑 ……72
第48図　ＩＣ３土坑 ……74
第49図　ＩＣ３土坑 ……75
第50図　ＩＣ４土坑 ……78
第51図　ＩＤ３・４・５土坑 ……80
第52図　ⅡＡ２土坑 ……83
第53図　ⅡＢ２土坑 ……86
第54図　ⅡＡ３土坑 ……89
第55図　ⅡＡ３土坑 ……90
第56図　ⅡＡ３土坑 ……91
第57図　ⅡＢ３土坑 ……98
第58図　ⅡＢ３土坑 ……100

付表目次

第59図　ⅡＢ３土坑……102
第60図　ⅡＢ３土坑……108
第61図　ⅡＣ３土坑……112
第62図　ⅡＣ４土坑……116
第63図　ⅡＢ４土坑……117
第64図　Ⅰ（方形）土坑……119
第65図　Ⅱ土坑……120
第66図　ⅢＡ３土坑……122
第67図　観音堂遺跡単独ピット全体図……124
第68図　単独ピット（１）……125
第69図　単独ピット（２）……126
第70図　単独ピット（３）……127
第71図　単独ピット（４）……128
第72図　単独ピット出土遺物……129
第73図　グリット・表採……129
第74図　Ｍ１・Ｍ３溝状遺構……130
第75図　Ｍ２溝状遺構……131
第76図　Ｍ２溝状遺構……132
第77図　観音堂遺跡出土かわらけ（１）……138
第78図　観音堂遺跡出土かわらけ（２）……139
第79図　観音堂遺跡出土渡来銭（１）……140
第80図　観音堂遺跡出土渡来銭（２）……141
第81図　観音堂遺跡出土渡来銭（３）……142
第82図　観音堂遺跡出土渡来銭（４）……143
第83図　観音堂遺跡出土渡来銭（５）……144
第84図　観音堂遺跡全測図……184
第85図　観音堂遺跡円形基調の土坑分布図…187

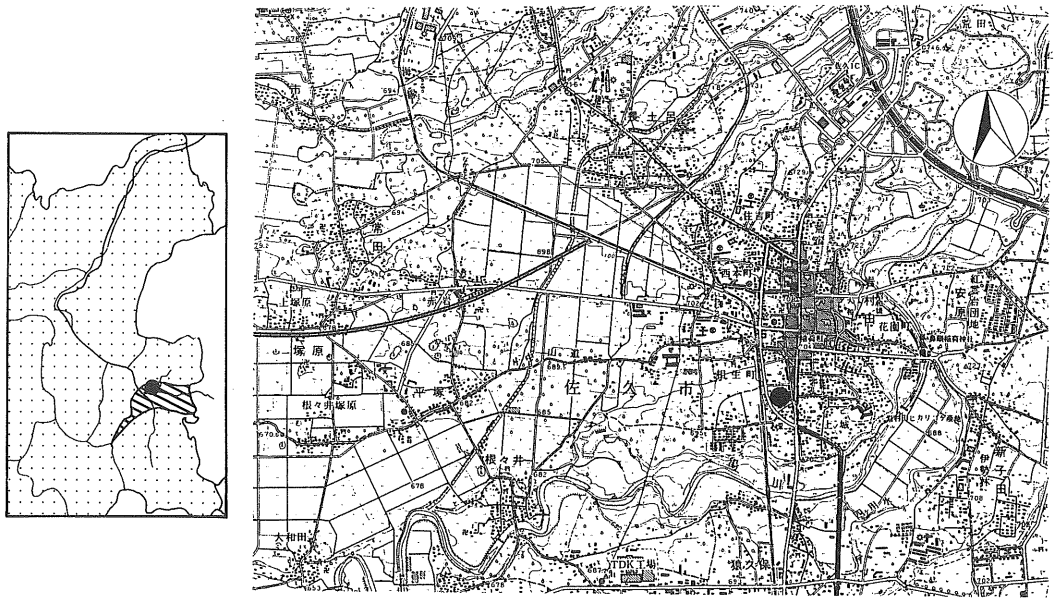
第１表　周辺遺跡一覧表　……12
第２表　Ｈ１号住居跡出土土器観察表 ……149
第３表　観音堂遺跡出土かわらけ観察表 …151
第４表　観音堂遺跡出土渡来銭一覧表 ……154
第５表　観音堂遺跡出土鉄・銅製品一覧表 156
第６表　観音堂遺跡出土羽口一覧表 ……157
第７表　観音堂遺跡出土鉄滓一覧表 ……157
第８表　観音堂遺跡出土陶磁器一覧表 ……158
第９表　観音堂遺跡単独ピット一覧表 ……161
第10表　観音堂遺跡土坑一覧表 ……177
第11表　観音堂遺跡竪穴住居跡・竪穴建物跡
　　・竪穴状遺構一覧表 ……183

第Ⅰ章　発掘調査の経緯

第１節　発掘調査に至る動機

ここ上の城遺跡群は岩村田市街地の南側に当たり、南の崖下に湯川が北から流れこの台地を巻いて西に方向を変えている所である。本遺跡群では昭和48年度に上の城遺跡が調査され、北側には中世の大井城跡が残る岩村田遺跡群、西側には谷を挟んで佐久市でも有数の遺跡にあげられる一本柳遺跡群や北西久保遺跡群がある。

平成７年７月店舗新築に伴い遺跡内の遺構確認を行うため、佐久市教育委員会で試掘調査を行ったところ、竪穴住居跡や竪穴状遺構等のプランが検出された。 平成９年今回の発掘調査に至ったのは、原因者株式会社エス・エス・ブイが店舗新築を行うこととなり、佐久市教育委員会埋蔵文化財課が委託を受け、発掘調査を行うこととなった。 対象面積10,145㎡ の内、駐車場は遺構に影響しないことから埋土保存とし、破壊のやむを得ない店舗部分の3,071㎡ のみ発掘調査を行った。



第１図　観音堂遺跡位置図（1：50,000）

第２節　調査組織

発掘調査受託者　教育長　依田　英夫

〔事務局〕

教育次長　市川　源（平成10年３月退職）・北沢　薫（平成10年４月就任）

埋蔵文化財課長　須江　仁胤

管理係長　楜澤慶子（平成10年３月移動）

埋蔵文化財係長　大塚　達夫（平成10年３月移動）・荻原　一馬（平成10年４月）

埋蔵文化財係　林　幸彦・三石　宗一・須藤　隆司・小林　真寿・羽毛田卓也・冨沢　一明
上原　学

調査担当　三石　宗一・森泉かよ子

調査員　荒井ふみ子・井上　行雄・井出　愛子・上原　幸子・小田川　栄・小幡　弘子
小金沢たけみ・小林　幸子・小林　立江・小林まさ子・清水佐知子・角田すづ子
角田トミエ・東城　友子・東城　幸子・並木ことみ・花里四之助・花里三佐子
林　美智子・水間　雅義・宮川百合子・柳沢千賀子・山崎　直

写真１　調査風景

第3節　調査日誌

1997.9　　重機により表土を剥ぎ始める。

1997.9.26　機材の搬入。

1997.9.29　本日より調査員も参加し発掘調査開始。
遺構の検出作業を行う。
浅間エンジニアリングにグリット杭を依頼する。

1997.9.30　遺構の規模が小さく密集していることが確認されたので、南東から順次遺構を掘り下げ調査することにする。

1997.11.4　本日にて現場における作業が終了する。

1997.11.5　機材の撤収をする。本日より室内にて、報告書作成作業に取りかかる。

1997.11.25　土器洗いを終了し、図面修正を行う。

1999.3.31　報告書を刊行する。

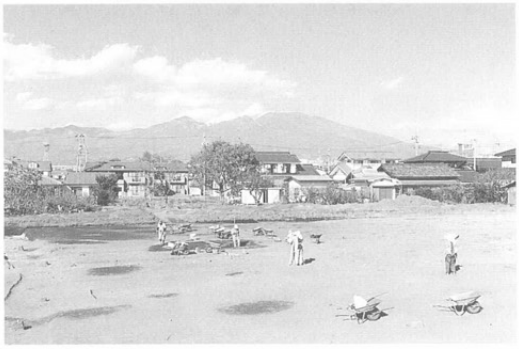


写真2　調査風景

写真3　調査風景

写真4　調査風景

写真5　重機による耕作土除去

写真6　ラジコンヘリによる航空撮影風景

第４節　調査の概要

遺跡名　上の城遺跡群観音堂遺跡（かんのんどう）
（略称　ＩＵＫ）

所在地　長野県佐久市大字岩村田2119-1他

開発主体者　株式会社エス・エス・ブイ

開発事業名　店舗新築

調査期間　発掘調査　平成９年９月22日～11月４日
整理調査　平成９年11月５日～
平成11年３月31日

開発対象面積　10,145㎡

調査面積　3,071㎡

検出遺構

平安時代	竪穴住居跡	１棟
中世	竪穴建物跡・竪穴状遺構	27棟
	土坑	170基
	土壙墓	４基
中～近世	溝状遺構	３本

出土遺物

平安時代	土師器・須恵器
中世	陶器・磁器・渡来銭
	鉄製品（釘・刀子・鋲）
	人骨・獣骨・貝類

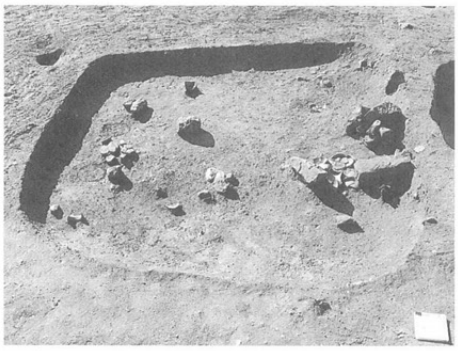


写真７　Ｈ１号住居跡

写真８　Ta11.12号竪穴建物跡

写真９　Ｄ107号井戸跡

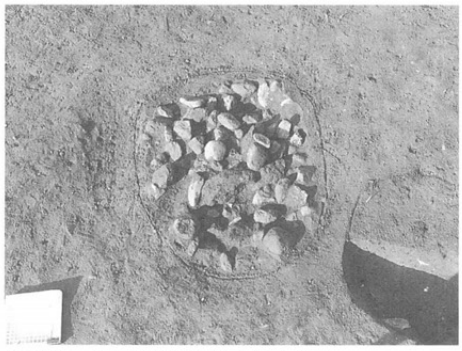


写真10　Ｄ150号石を多く伴う土坑

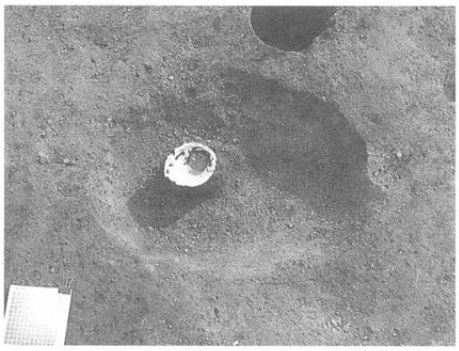


写真11　Ｄ67号貝が出土した土坑

第２図　観音堂遺跡遺構配置図(1:1,000)

第Ⅱ章　遺跡の立地と環境

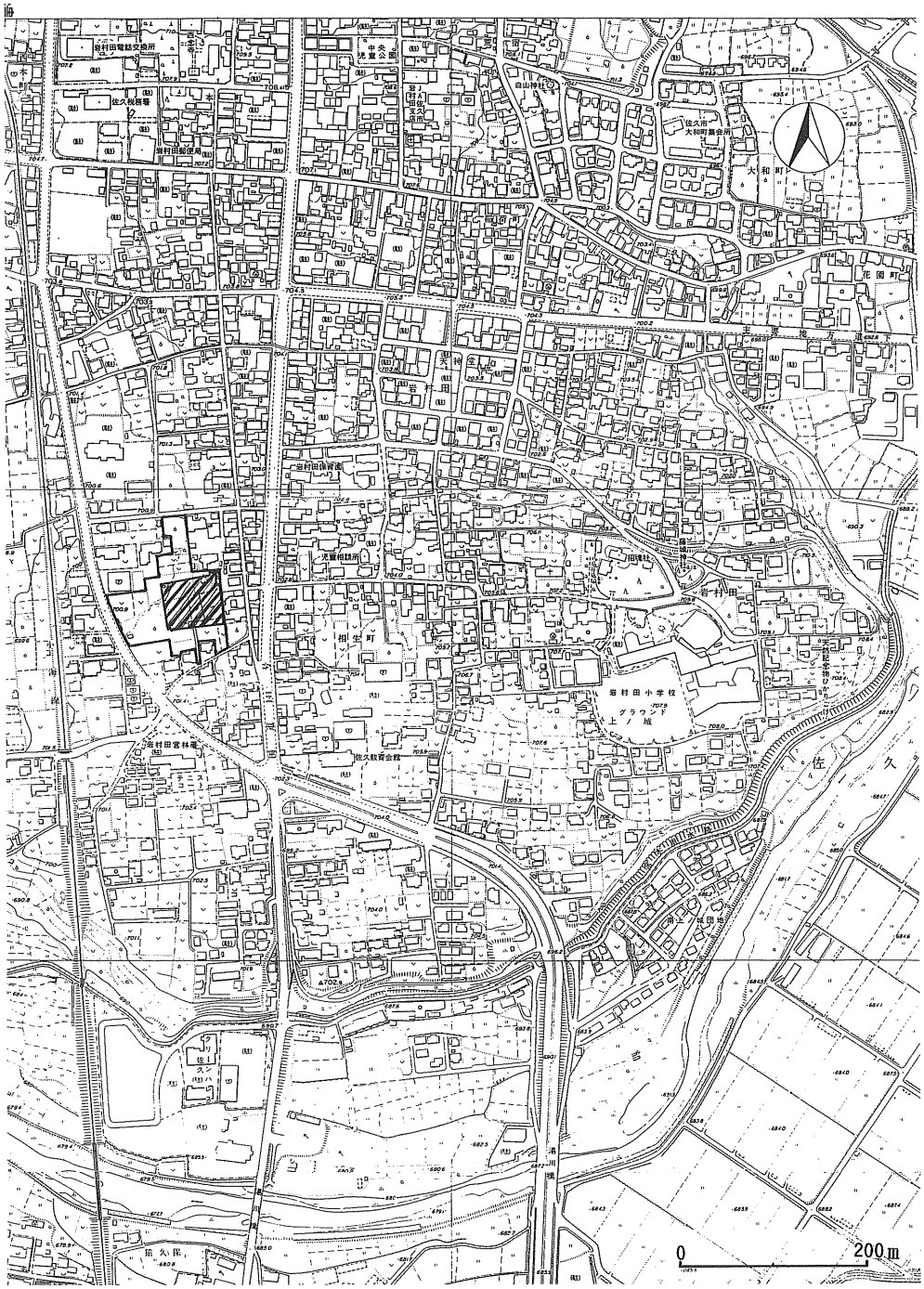
第１節　遺跡周辺の地形・地質

佐久市付近の地質図をみると、東側には第三紀の荒船火山を含む関東山地に連なる山々がある。西側の千曲川左岸は、第三紀の小諸層群の上を八ヶ岳火山類が覆い御牧ヶ原に連なっている。この間に広がる佐久平は、滑津川より北では第１軽石流と塚原泥流が分布している。御代田町馬瀬口から小諸市森山を結ぶ線から北では第２軽石流があらわれる。佐久平北部で特徴的な田切地形は、第１、第２軽石流の分布域に限られており、ほぼ、北東から南西の方向に刻まれている。北東方向の追分原に田切地形が見られないのは、おもに1108年の噴出による追分火砕流によって田切が埋め尽くされたからである。岩村田の住吉町から長土呂にかけて、また、長土呂の西、常田の北の辺りで田切地形が消滅しているのは、ここより南は、いわゆる「塚原泥流」の分布域で第１軽石流が及んでいないからである。塚原泥流、第１軽石流、第２軽石流、追分け火砕流はいずれも浅間火山の崩壊物質と噴出物であり、この順に新しくなる。（中略）

「塚原泥流」の西側を除く北・東・南側には約13,600年前の噴出の第１軽石流が分布している。この時の噴火で多量の火山灰が成層圏まで吹き上げられ、上空の偏西風にのって北関東の広い範囲に板鼻黄色軽石層（ＹＰ）を堆積させた。上空まで上昇仕切れずに途中から火口付近に落下した多量の火山灰と軽石は、自ら発するガスとの混合物となって高速の火砕流となり、佐久平を完全に埋めつくした。第１軽石流は厚いところは30㍍に達するが、これによって千曲川が堰止められて大きな湖が出現したことは湯川と滑津川の河岸で水成層として認めることができる。

（1994.3　樋口和雄　『藤塚古墳群・藤塚Ⅱ』－第１節　周辺遺跡の地形・地質－）

発掘調査をした岩村田の観音堂遺跡は佐久平の東北部にあり、標高700ｍを測る。すぐ南を湯川が流れ、浅間山の東裾から流出して南流、この岩村田の台地東南を取り巻くように西に流れる。湯川は蛇行して流れ、両脇に幅広い河岸段丘を作り出している。浅間第１軽石流を流し去って、右岸の黒岩城跡（大井城）辺りでは下層の塚原泥流が姿を出し、城跡の名となっている。その結果湯川と遺跡付近では標高差が20ｍ近くある断崖となり、台地地形上の遺跡となっている。浅間第１軽石流の流出地ではあるが、湯川による、浸食作用の影響で遺跡の遺構構築面は第１軽石流が２次堆積した水成堆積層が基盤をなしている。また観音堂遺跡の北西は浅い谷が入り込んでおりその上に黒色土の堆積が見られた。



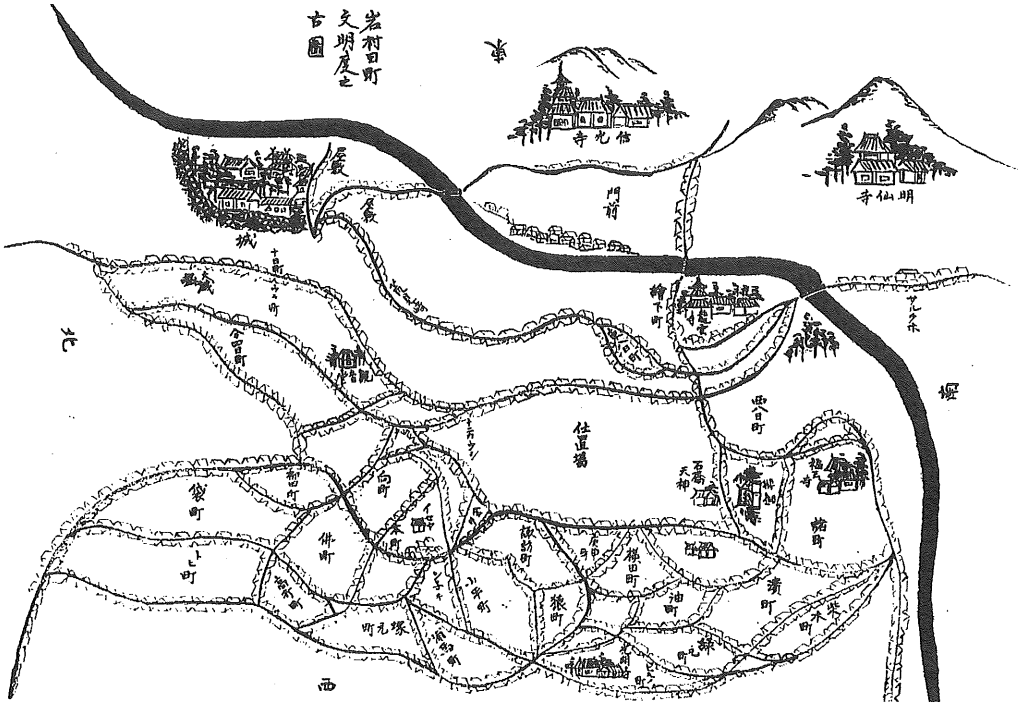
第３図　発掘区設定図(1:7,500)

第２節　歴史的環境

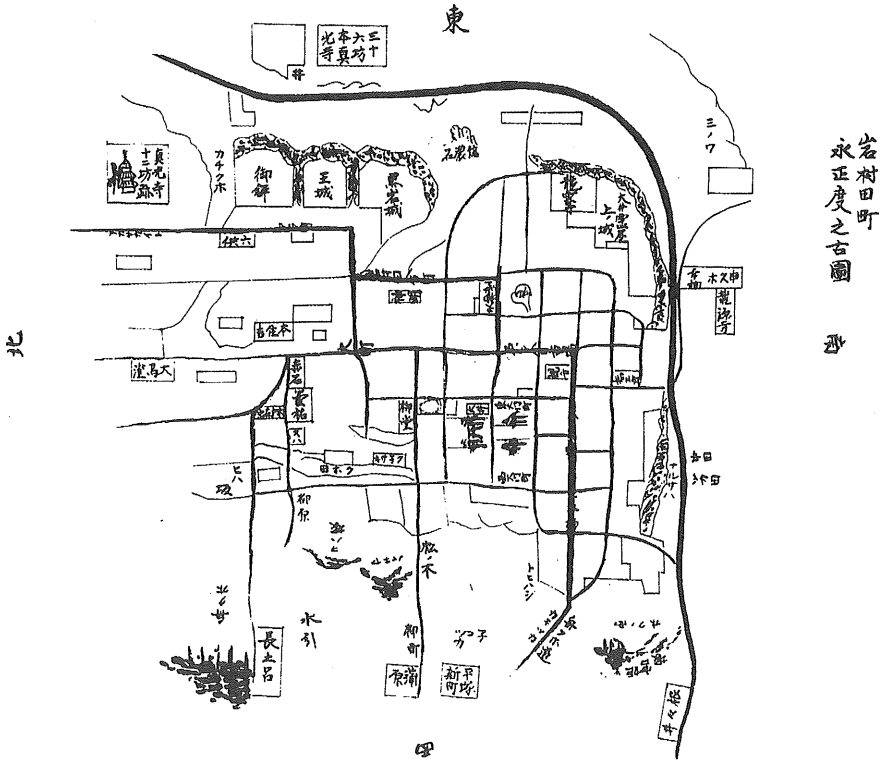
平安時代後期、公地・公民を基本とする律令制が崩壊し、荘園制が発展ともにするとともに、長土呂地区の佐久郡衙を中心とした勢力は衰退して、各地の有力土豪を中心とした、武士の勢力が台頭してきた。治承４年（1180）、以仁王の令旨をうけて平氏追討にたちあがった信濃源氏木曽義仲を擁立して、滋野氏流の根井幸親父子を中核とした、落合・志賀・桜井・野沢・石突・本沢・矢島・望月・小室・平原などの佐久党の武士団は、平家を京都から追って、武家政権への突破口を開いたが、関東の鎌倉に基盤を置いた源頼朝に敗れて、佐久党の多くが佐久の地から姿を消し、かわって源頼朝幕下の有力者、小笠原長清が、佐久郡伴野庄の地頭として送り込まれ、その子六郎時長と七郎朝光が、それぞれ伴野庄と大井庄の地頭となり、伴野氏と大井氏を名のった。

大井庄地頭大井氏は、湯川の断崖にのぞむ要害の地である岩村田に（大井城の地）に居館を構えたから、岩村田は名実ともに大井庄の中心となった。弘安８年（1285）霜月騒動（鎌倉幕府の内乱）で伴野氏一族が滅亡して、伴野庄は北条氏の所領となった。そのころ北条氏得宗家臣と、それに近い関係の、諏訪氏と薩摩氏が、志賀と長土呂にそれぞれ入ったが、元弘３年（1337）鎌倉幕府が滅亡すると、志賀・長土呂は大井氏領に帰し、さらに南北朝の争乱から室町前期までの間に大井氏の勢力は、矢島・芦田氏を従え、望月氏を圧して、ほとんど川西地方全域を包含して、小県郡依田窪に及び、千曲川東岸地方は小諸以南全域を支配し、碓氷峠を越えて上州に及んだ。大井甲斐守光長（光栄）は、信濃守護政長の守護代として、足利将軍―信濃守護政権の安定に貢献した。大井越前守持光は将軍足利義教の意を受け、信濃守護小笠原政康（政長の子）と協力して永享８年（1436）小県郡の海野・祢津氏を降ろし、芦田氏を家臣としたので、大井持光は東信地方最大の雄族となった。永享11年、鎌倉公方足利持氏が滅亡すると、その遺児永寿王丸を佐久郡安原の安養寺かくまって養育した。文安４年（1447）永寿王丸が足利成氏と名のり、足利幕府によって鎌倉公方に就任したので、その育ての親、大井持光の勢威は一層高くなった。『佐久大井氏由緒』は大井の所領６万貫、小県・上州・武州に及び、兵力は在国６千騎、京都在勤（大番役）千騎と記す。この大井氏全盛時代の岩村田のようすが『四隣譚藪』には「むかし大井郷は民家６千軒、交易四達、賑ひ国府にまされり、八日町通石橋という所、城外市店の中央なりとぞ」とある。城外西方の八日町や石橋辺が市店の集中する市場経済の中枢部であった。戦国前期永正度（1504～20）の岩村田町古図によれば、八日市場の西側に観音堂があり、その西側を福王寺前から北方に通る東大門町の北に柳堂がある。今回発掘調査された観音堂遺跡、平成10年度に調査された柳堂遺跡は、当時の岩村田町中心部の南北に相対して存在していたことが確認できる。四隣譚藪に「八日町西に観音堂あり、此の辺仏像を出すところあり、石に書写の経（経石）多くあり」とある。観音堂南端を東に向かえば端下平（はけのたいら）に旧竜雲寺があり、西に向かえば西八日町・一本柳を経て、北西久保

岩村田町文明度の古図　（模写、池田教一氏蔵）



岩村田町永正度の古図　（模写、池田教一氏蔵）

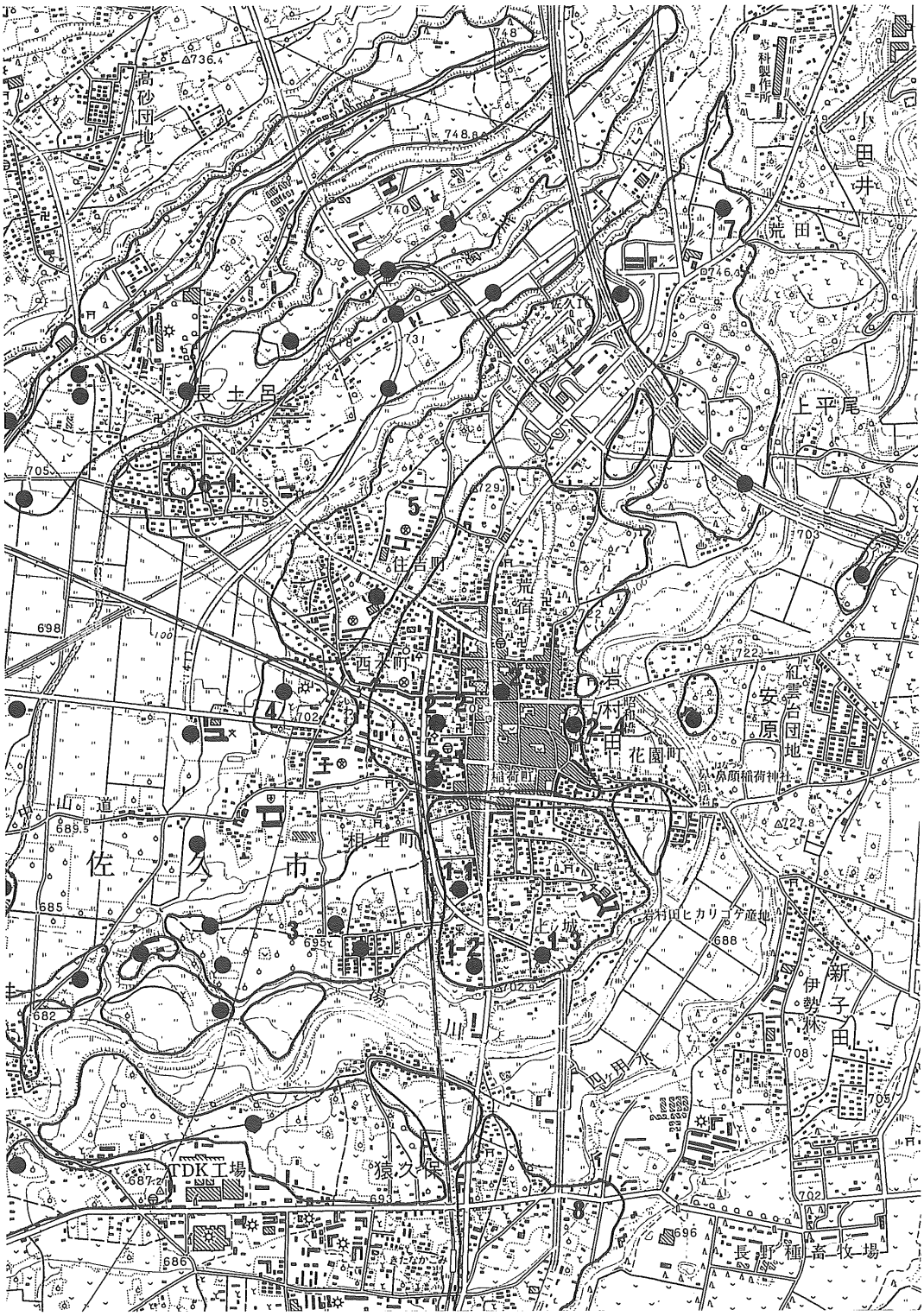


－根々井－大和田と湯川北岸の段丘上を落合に達する。落合は湯川の千曲川合流点で、下流の土合と共に東山道古道の千曲川渡河点に擬せられる交通の要衝で、岩村田に館を構えた地頭大井光長は、ここに新善光寺を創建して、一光三尊の金銅製善光寺仏と銅鐘（小海町松原神社蔵・国重文）を鋳造施入し、ここを大井庄の浄土信仰の拠点とし、時宗の開祖一遍上人を大井館に迎えて、その姉と共に三日三夜の踊り念仏を行っている。

柳堂は柳町通りの北にあり、今は墓地になっている。両辺に高さ８～９尺のめうと石（夫婦石）がある。その東一町ばかりにかさ松と呼ばれる大木があって、数里も先から傘のように見え、その下に高さ１丈ばかりの九層の石塔があったという。柳堂の西方、若宮八幡宮は建仁２年（1202）大井朝光が鎌倉八幡宮を移し祀って祖神として尊崇してきたが、しばしば兵火によって衰退を繰り返した。しかし旧地をを存続して、明治になって郷社になった。柳町は岩村田城下の本町から、南方に向かう甲州道と川西望月方面への道の追分（分岐点）で、戦国時代には平塚付近から舟窪経由で千曲川を渡って、御馬寄南方の柳坂から望月方面に向かい、後の中山道の原形がすでに開かれていた。このような交通路の交会点である八日町・石橋付近に集まって、大井氏の勢力をバックに活動していた職人の中で、鋳物師・鍛冶・番匠（大工）などが特に注目される。

鎌倉時代の弘安２年（1279）大井光長が落合新善光寺に寄進した銅鐘は、大和の国葛城下郡下田出身の鋳物師大工伴長を招いて落合のたたらばで鋳させたもので、大工伴長は諸国を遍歴して営業する中央在住の鋳物師であった。これに対して室町時代になると、臼田町新海神社三重塔の青銅製風鐸には永正12年（1515）「鋳物師岩村田大主貞家」の刻銘がある。大永６年（1526）鋳造の落合慈寿寺（時宗寺の前身）の鰐口（長野市松代町和合院旧蔵）には「大工（鋳物師）岩村田和泉守」とある。嘉永２年（1849）再建松原神光寺三重の塔（現佐久市前山貞祥寺移建）の９輪には「鋳物師岩村田大主伝右衛門義貞」の刻銘があるから、室町時代には鋳物師大主氏が代々岩村田に在住定着していたことが確実である。その作品は他郡にまで及んでいる。信大教授笹本正治氏は、大主氏は鎌倉時代に河内から関東に下ってきた鋳物師の子孫で、上野から内山峠を通って、信州有数の町岩村田に定住したと考えている。

中世の遺跡では必ず内耳の土器片が発見される。これは火にかけて煮炊きした土製の鍋釜である。鋳物師が定着して鉄製の鍋釜が生産されるようになると生活が大きく変化する。鋳物師と共に鉄製の道具を造る職人は鍛冶屋である。前記臼田町新海神社三重塔風鐸には「鋳物師岩村田大工貞家、十日町鍛冶道徳対馬」とあり、岩村田の鋳物師大工大主貞家と、十日町の鍛冶の道徳対馬が協力して造ったことがわかるが、「岩村田文明度之古図」には、大井城の西に「十日町」があり、「岩村田町永正度之古図」には「御館」の西側に「カチクホ」がある。これが鍛冶窪だとすれば、この２枚の地図から、岩村田の十日町の近くに鍛冶が住んでいて、鍛冶道徳もその一人であるという推定が可能である。鍛冶が定着すれば領主や農民・職人等の要求に応じて、その用途に適した農具や



第４図　観音堂遺跡周辺遺跡分布図(1:25,000)

第１表　周辺遺跡一覧表

No	遺　跡　名	所在地	検　出　遺　構	調査年
1－1	上の城遺跡群観音堂遺跡	岩村田	本報告書	
1－2	上の城遺跡群西八日町遺跡	岩村田	竪穴住居跡弥生７・奈良～平安139	昭和58年
1－3	上の城遺跡群上の城遺跡	岩村田	竪穴住居跡古墳後15・奈良～平安34特殊遺構１、土抗131、溝７	昭和48年
2－1	岩村田遺跡群柳堂遺跡	岩村田	中世の竪穴状遺構、掘立柱建物跡、土抗、池、井戸	平成10年
2－2	岩村田遺跡群内西浦遺跡	岩村田	竪穴住居跡古墳１、中世竪穴状遺構７・掘立柱建物跡13・土抗15・井戸６	昭和64年
2－3	岩村田遺跡群中宿遺跡	岩村田	竪穴住居跡古墳後期３、中・近世竪穴状遺構７，土抗10、墓壙２、特殊遺構１	平成９年
2－4	大井城跡黒岩城	岩村田	竪穴住居跡古墳後期15，中世竪穴状遺構54・土抗285・掘立柱建物跡３、溝２	昭和59年
3	一本柳遺跡群	岩村田	主に弥生中期・後期、古墳後期・平安の竪穴住居跡が多い。古墳も多く分布。	近年調査多い
4	円正の坊遺跡群円正の坊Ⅱ	岩村田	竪穴住居跡弥生３・古墳後期２・平安２、掘立柱建物跡平安１、古墳１、土抗８	平成８年度
5	枇杷坂遺跡群	岩村田	弥生・古墳・平安	
6	長土呂遺跡群長土呂館跡	長土呂	中世	
7	栗毛坂遺跡群前藤部遺跡	小田井	竪穴住居跡平安６・中世竪穴状遺構、土抗	平成８・９年
8	番屋前遺跡群番屋前遺跡	猿久保	中世竪穴状遺構	平成10年

工具・器具の作成が可能となり、地域の生産を向上する。岩村田には大工（番匠）も多く居住していた。城館・寺院・堂・社・町屋・住民の建築までその手を必要とする事が多かった。武田氏支配下の天正９年（1581）、武田勝頼は上州箕輪城の守将内藤昌月に対して、「竜雲寺方丈の修造に必要であるから、城普請に従事している大工のうち、竜雲寺門前の良き番匠３人を帰すように」と命令している。職人は戦争にも動員されていた。

岩村田の町には、南は甲州道、西からは落合・御馬寄方面、北は小諸・和田方面、東は上州道を通じて、運搬業者が運ぶ各地の物資、商人・職人・諸人が集まった。八日市場には観音堂があり、毎月三度の八の日に三斉の市が開かれ、買い物を兼ねた善男・善女でにぎわった。「にぎわい国府にまされり」という情景である。

柳堂の東側に浄土宗一行山無量寿院西念寺が岌住上人によって開山されたのは永禄３年（1560）といわれる。藤原末期様式をもつ本尊阿弥陀如来座像（県宝）は、安原安養寺の西御堂の本尊を移したものであるが、その永禄６年の修理銘によると、戦死者上原甚左衛門の遺物をその遺族が寄進したものである。その修理と金箔を用いた彩色に要した莫大な費用は、本願主となって奔走した大宮文三の２千ぴき（20貫文）の寄付をはじめとして、一紙半銭の少額に至るまで、多くの人々の奉仕によって完成したとある。半丈六の阿弥陀座像を遺産として寄進する有力な地侍、20貫もの大金を寄付する富裕な町衆、進んで零細な寄進を申し出る多数の庶民まで、活力のある岩村田の町のようすが想像される。

「文明16年（1484）村上氏大軍の兵火によって、岩村田の町は、神社仏閣一塵の煙となって終におこらず。市店の地を縮めて岩村田に拠る」とあるが、戦国末期までには、八日町・石橋付近の市店は相当な復活を遂げていたものと思われる。竜雲寺は現在地に移って、北高禅師のもと信玄分国曹洞宗の僧録となり、千人法幢が行われた。修験道の法華堂や真言宗円満寺も復興した。阿弥陀仏の寺浄土宗西念寺も岌住上人によって開創された。　　（井出　正義）

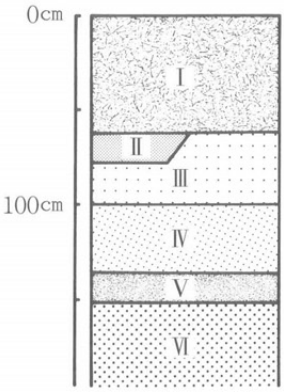
遺跡周辺の調査状況を概観すると、同じ上の城遺跡群では1-2西八日町遺跡では、弥生・奈良～平安時代の集落、1-3上の城遺跡では古墳時代後期・奈良～平安時代の集落が調査されている。台地の南端に沿って古代の集落が展開していた。少し北に寄った本観音堂遺跡では、平安時代が１棟あるのみで中世の単独集落である。また平成10年度に発掘調査された2-1岩村田遺跡群柳堂遺跡はやはり中世の遺跡であるが、園池や掘立柱建物跡など館の性格が看取され、遺物もかわらけ・天目茶碗などが目立つ。2-2内西浦も中世の遺跡である。60m×20mのなかに6組の井戸跡と不規則な掘立柱建物跡が伴うブロックがあり、職人町想像させる遺構がある。2-3中宿遺跡では中世から近世初頭の竪穴状遺構が見られた。2-4大井城跡の黒岩城跡が調査され、多くの竪穴状建物跡が密集しており、規模の大きな掘立柱建物跡もあり、遺物も多く、城郭として機能していたようすがうかがえた。３一本柳遺跡群及び西側の台地は近年道路の開通に伴って発掘調査例が多い。弥生時代中期から平安時代の古代集落が過密に展開している所である。５．枇杷坂遺跡群は標高の低い地点では弥生時代の集落も見られるが、標高730m地点では平安時代の集落に限られてくる。

６長土呂遺跡群も標高700m地点では弥生～平安、それを越えると古墳から平安時代の集落となる。6-1は長土呂館跡で中世初頭の方形単郭形態であり、大井跡の居館説もある。

７栗毛坂遺跡群前藤部遺跡は６万㎡にわたって中世の集落が展開していたことが確認された。

また本遺跡の南、湯川を渡った対岸の８番屋前遺跡でも中世の遺構が検出され、本遺跡の周辺で中世遺構の調査例が増えている。

第Ⅲ章　基本層序



第５図　基本層序模式図

第Ⅰ層　耕作土

第Ⅱ層　黒色土（10YR2/1）　調査区域北側のみ堆積。北側の遺構検出面。

第Ⅲ層　暗褐色土（10YR3/3）　漸移層。砂質土。１cm 以下の小石含む。

第Ⅳ層　褐色土（10YR4/4）　浅間第１軽石流水成堆積層。１cm 以下の小石多く含む砂質土。遺構検出面。

第Ⅴ層　褐色土（7.5YR4/6）　浅間第1軽石流の水成堆積層。粒子の粗い砂質土。

第Ⅵ層　灰黄褐色（10YR5/2）　浅間第１軽石流の水成堆積層。砂質土。

写真12　基本層序

観音堂遺跡の遺構検出面は浅間第１軽石流の水成堆積層であり、砂質土である。北側はその上に黒色土の堆積が見られ、その面から遺構が検出されている。遺構は東半域に見られ、西側にはないことから岩村田の中世の町の観音堂地籍の西端が判明したことになる。

第Ⅳ章　遺構と遺物

第１節　竪穴住居跡

１．Ｈ１号住居跡

規模・形態　304cm×304cm×9.0～23cm（南北×東西×深さ）・隅丸方形

カ　マ　ド　北壁中央にあり、煙道・天井部は壊れ、袖石が残っていた。カマド付近に６個体の底部のない武蔵甕が出土し煙道に使用したか。

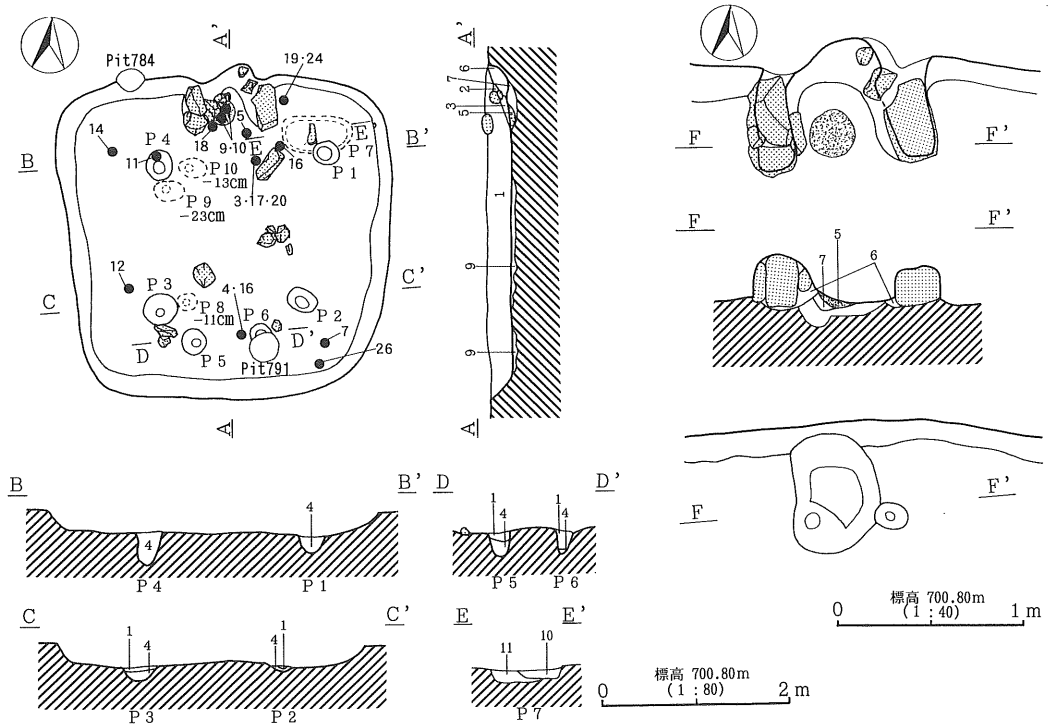
長軸方位　Ｎ－５°－Ｗ

残りの状態　住居跡の床面は顕著な貼り床はなく、あまり締まった床ではなかった。

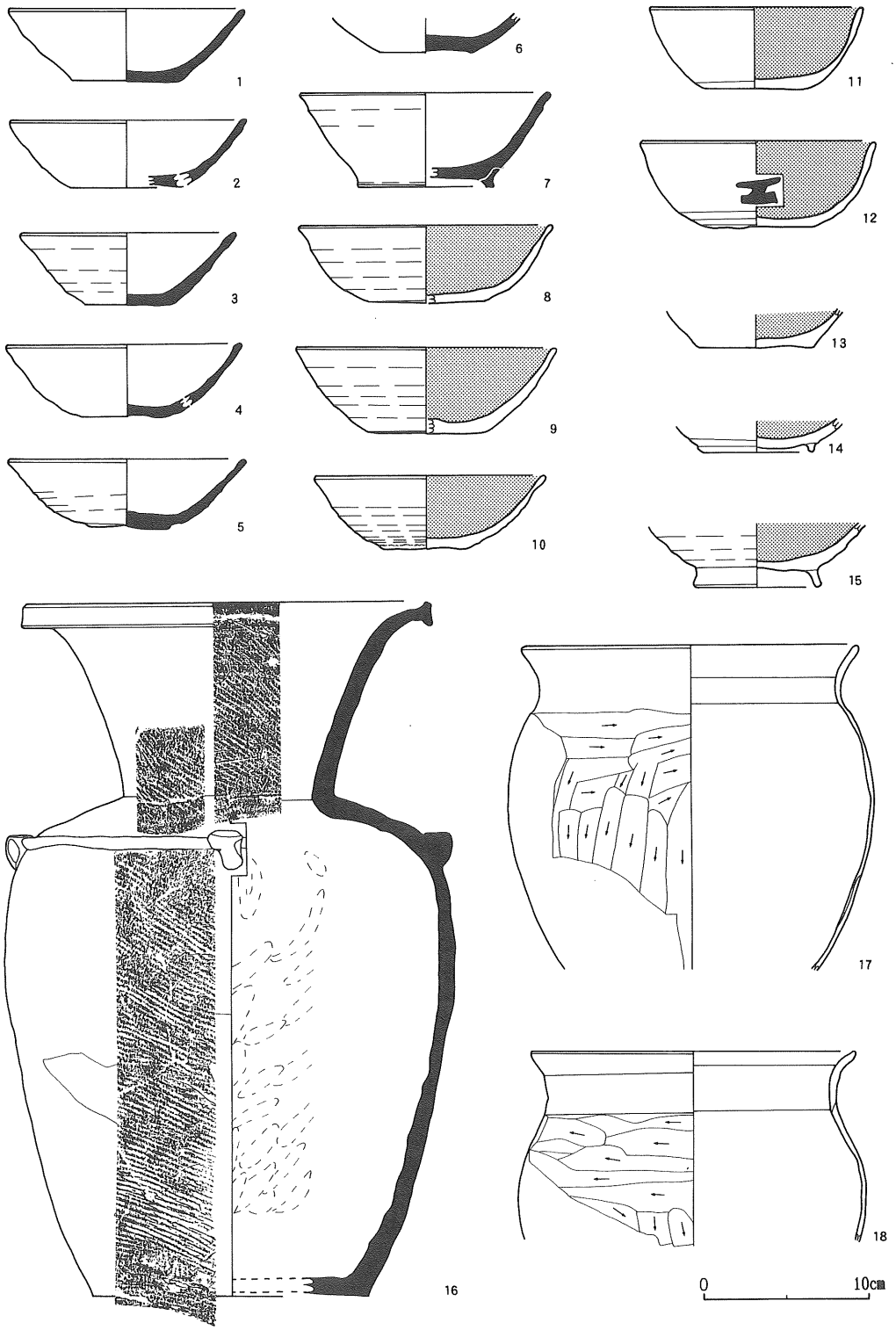
柱穴・他穴　主柱穴はＰ1～Ｐ4、出入り口のピットがＰ5･Ｐ6、床下から西の主柱穴の内側小ピットを検出。カマドの東床下より、長径36cm 深さ14cm の穴あり。

出土遺物　須恵器甕１・杯６・椀１、土師器杯５（内１墨書「工」？）・椀２・甕８・小型甕１大半が実測でき、残る破片は主に甕である。

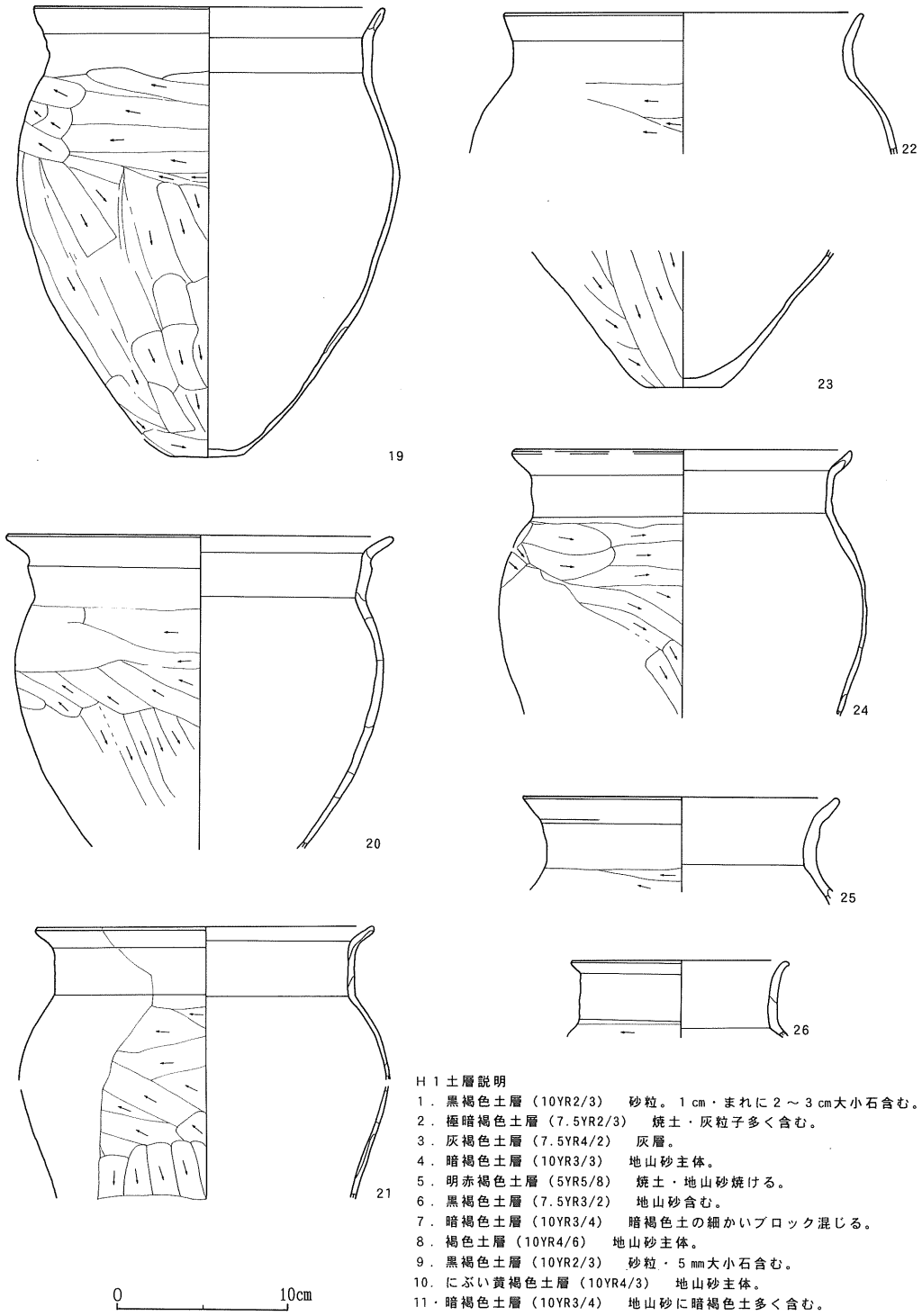
時　　期　平安時代、９ｃ中頃。



第6図　H1号住居跡



第７図　Ｈ１号住居跡



Ｈ１土層説明

1．黒褐色土層（10YR2/3）　砂粒。１cm・まれに２～３cm大小石含む。
2．極暗褐色土層（7.5YR2/3）　焼土・灰粒子多く含む。
3．灰褐色土層（7.5YR4/2）　灰層。
4．暗褐色土層（10YR3/3）　地山砂主体。
5．明赤褐色土層（5YR5/8）　焼土・地山砂焼ける。
6．黒褐色土層（7.5YR3/2）　地山砂含む。
7．暗褐色土層（10YR3/4）　暗褐色土の細かいブロック混じる。
8．褐色土層（10YR4/6）　地山砂主体。
9．黒褐色土層（10YR2/3）　砂粒・５mm大小石含む。
10．にぶい黄褐色土層（10YR4/3）　地山砂主体。
11・暗褐色土層（10YR3/4）　地山砂に暗褐色土多く含む。

第８図　Ｈ１号住居跡

写真13　Ｈ１号住居跡土層堆積状態（東より）

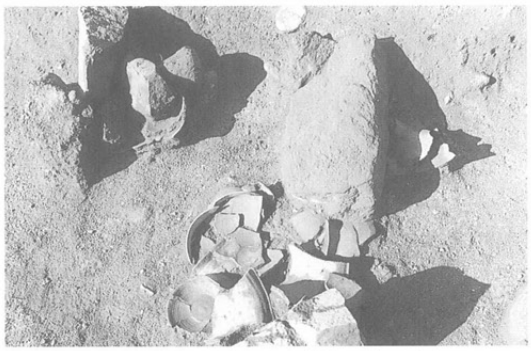


写真14　Ｈ１号住居跡遺物出土状況（南より）

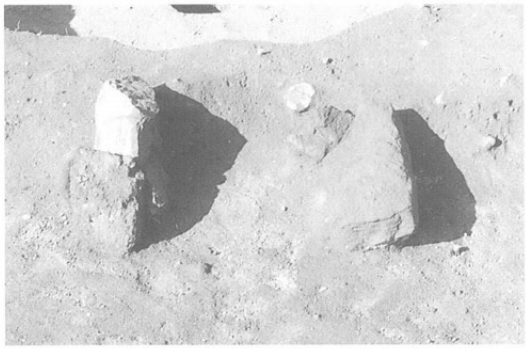


写真15　Ｈ１号住居跡カマド（南より）

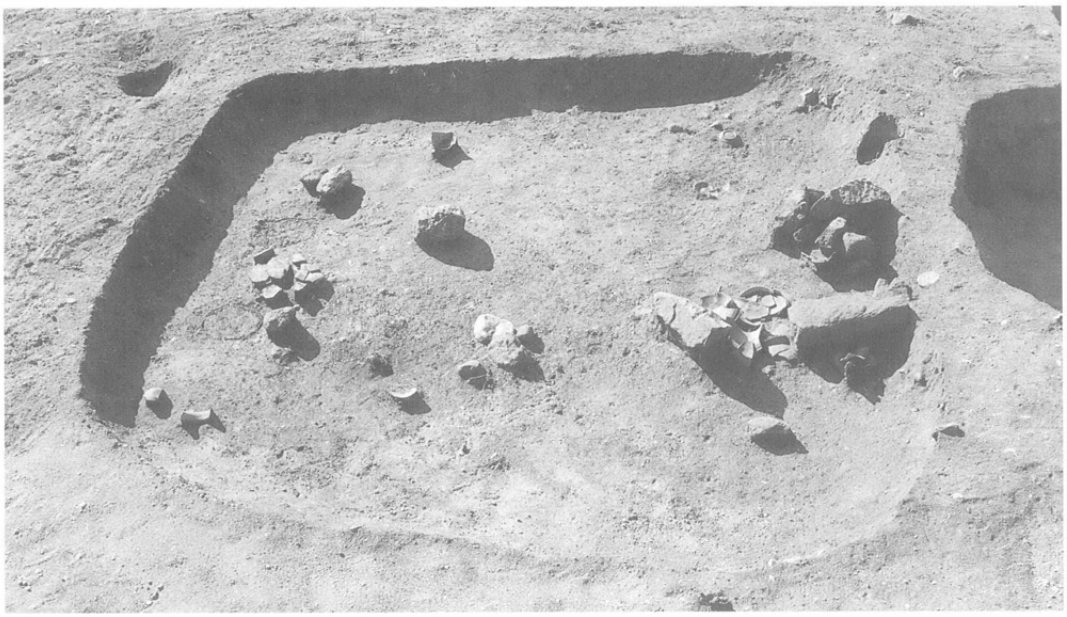
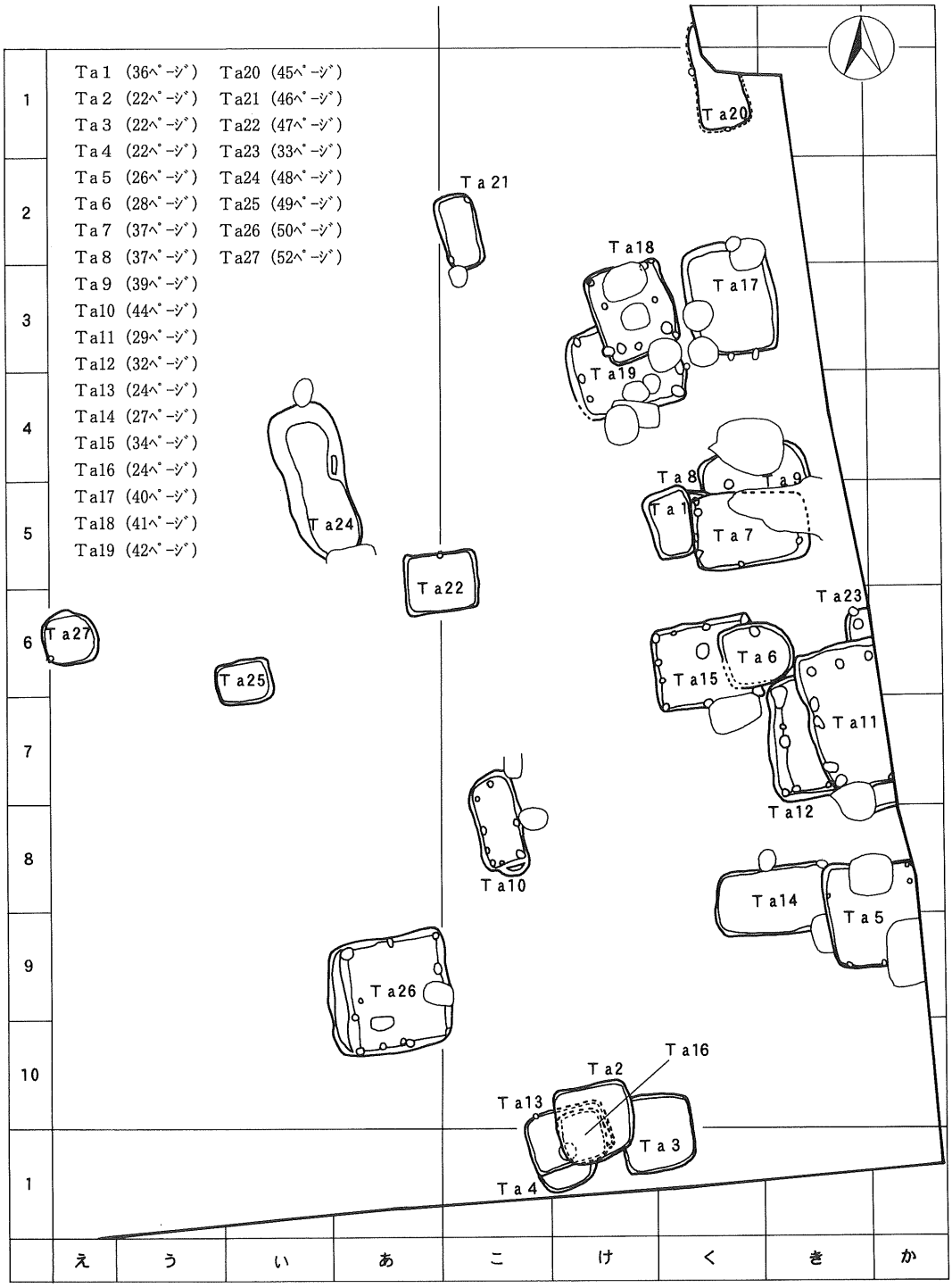


写真16　Ｈ１号住居跡遺物出土状況（東より）

写真17　Ｈ１号住居跡生活面（南より）

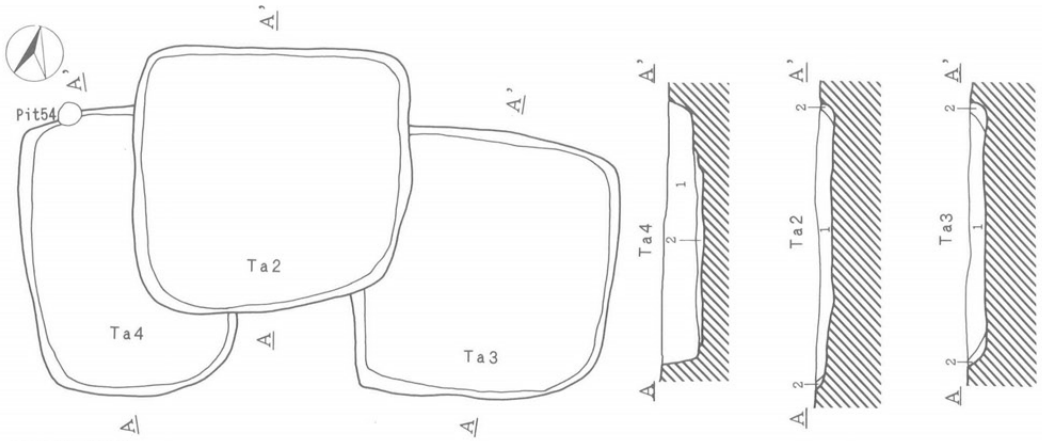
写真18　Ｈ１号住居跡堀方（南より）

第２節　竪穴建物跡・竪穴状遺構



第９図　観音堂遺跡竪穴建物跡・竪穴状遺構全体図（1:250）

1）・2）・3）Ta2・3・4号竪穴状遺構



Ta2土層説明
1．黒褐色土層（10YR2/2）　地山砂少量と1cm以下の小石含む。

Ta3土層説明
1．黒褐色土層（10YR2/2）　1cm大の小石、砂粒含む。
2．黒褐色土層（10YR2/3）　〃

Ta4土層説明
1．黒褐色土層（10YR2/2）　1cm大小石、砂粒・パミス少し含む。
2．黒褐色土層（10YR2/3）　砂粒含む。

第10図　Ta2・3・4竪穴状遺構

Ta2号竪穴状遺構

検出位置　Bけ10

規模・形態　264cm×276cm×25～45cm（南北×東西×深さ）・方形

火床　なし。

長軸方位　N－11°－W

残りの状態　Ta3・4・13・16竪穴状遺構を切る。

柱穴・付属施設　なし。

出土遺物　なし。

Ta3号竪穴建物跡

検出位置　Bく10

規模・形態　264cm×252cm×11～20cm（南北×東西×深さ）・方形

火床　なし。

長軸方位　N－5°－W

残りの状態　Ta2に切られる。

柱穴・付属　なし。

出土遺物　1．瓦質火鉢（中世後半以降）、石鏃1

Ta４号竪穴状遺構

検出位置　Cけ１　規模・形態　292cm×188cm×４～18cm（南北×東西×深さ）・長方形

火床　なし。　長軸方位　N－20°－W

残りの状態　Ta２・P54に切られ、Ta13・16を切る。

柱穴・付属　なし。

出土遺物　１．かわらけ

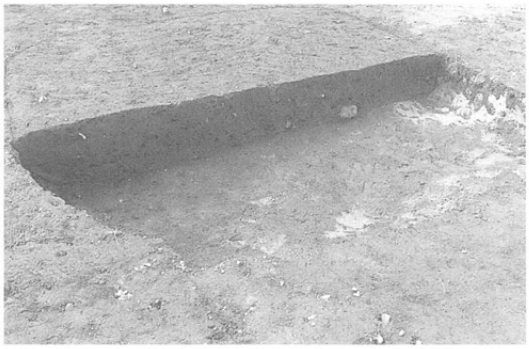


写真19　Ta２号竪穴状遺構土層堆積状態（東より）

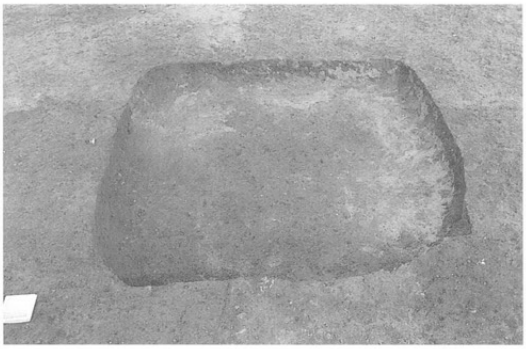


写真20　Ta２号竪穴状遺構（南より）

写真21　Ta３号竪穴状遺構土層堆積状態（南より）

写真22　Ta３号竪穴状遺構（北より）

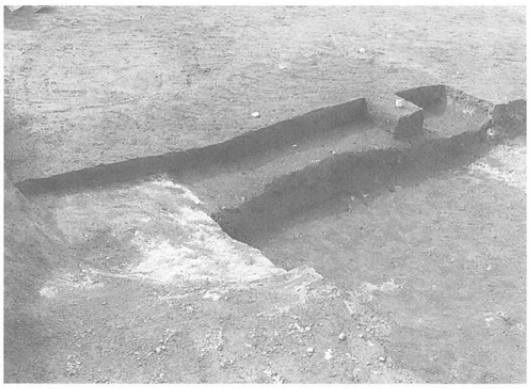


写真23　Ta４号竪穴状遺構土層堆積状態（東より）

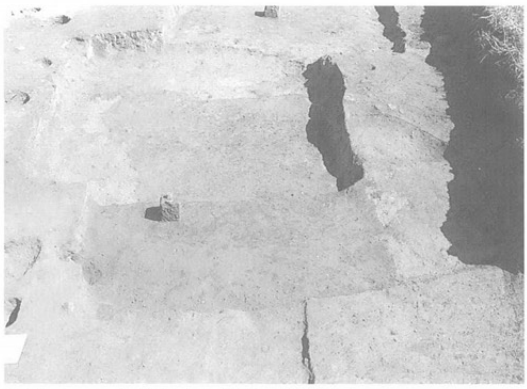
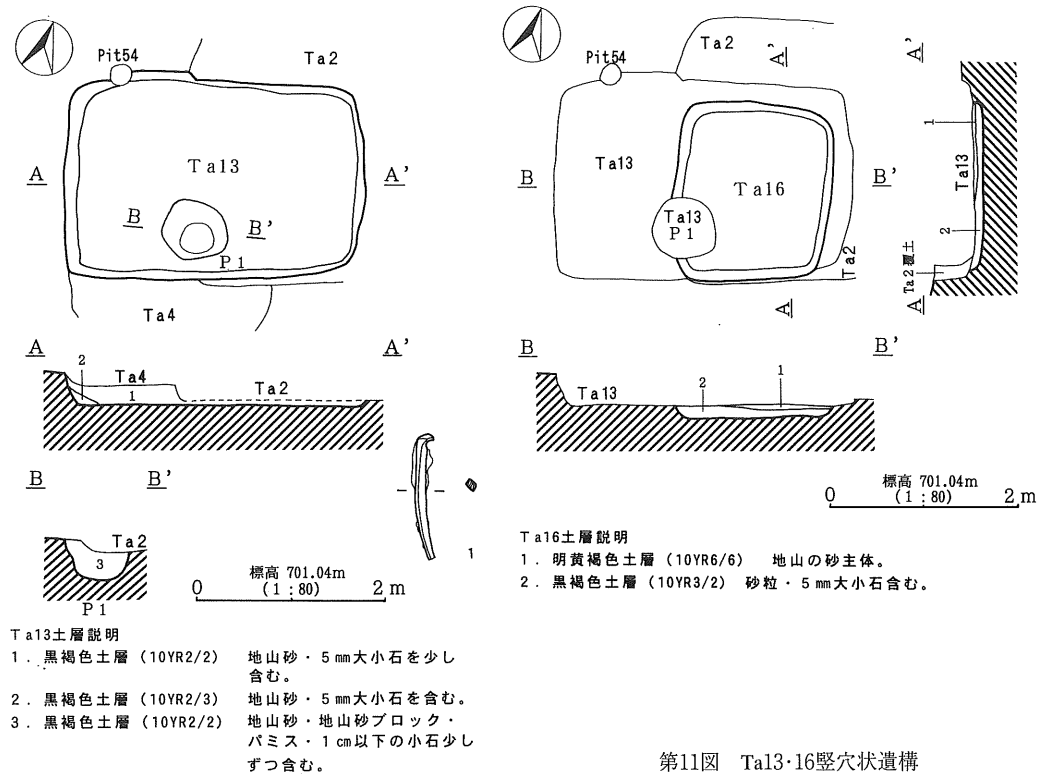


写真24　Ta４号竪穴状遺構（西より）

4）・5）Ta13・16号竪穴状遺構



第11図　Ta13･16竪穴状遺構

Ta13号竪穴状遺構

検出位置　Bけ10

規模・形態　296cm×192cm×2～38cm（南北×東西×深さ）・長方形

火床　なし。

長軸方位　N－110°－W

残りの状態　Ta2・4に切られ、Ta16を切る。

柱穴・付属施設　南壁下中央に径68cm深さ44cmピットあり。

出土遺物　1．角釘

Ta16号竪穴状遺構

検出位置　Bけ10

規模・形態　168cm×148cm×4～11cm（南北×東西×深さ）・方形

火床　なし。

長軸方位　N－15°－W

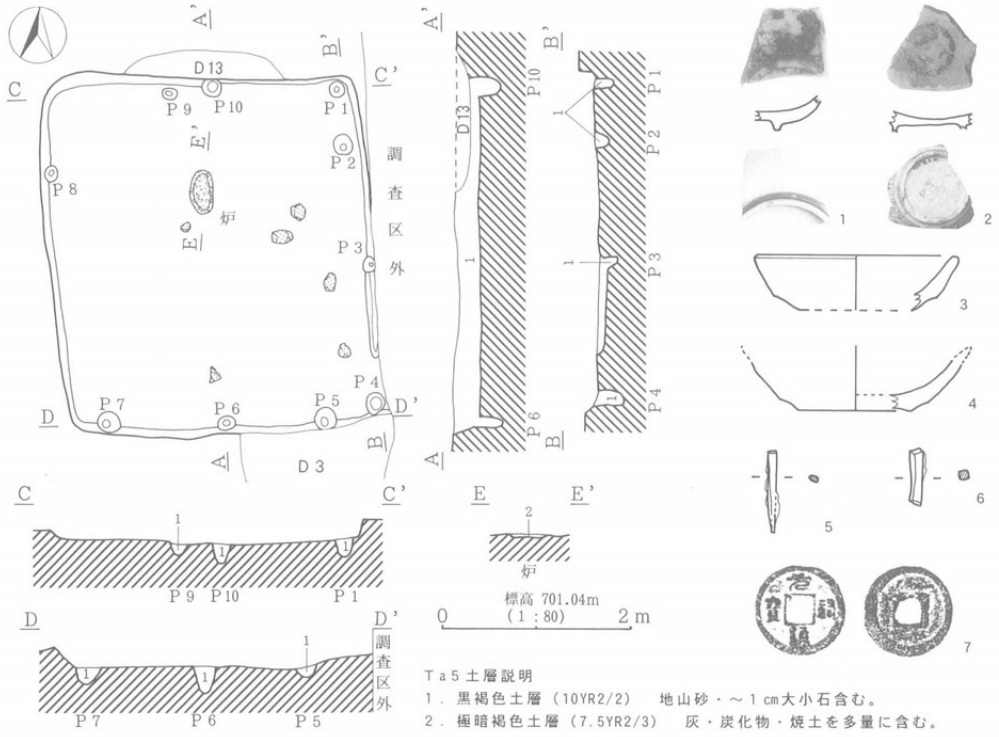
残りの状態　Ta2・4・13に切られる。　柱穴・付属施設　なし。　出土遺物　なし。

写真25　Ta13号竪穴状遺構（北より）

写真26　Ta16号竪穴状遺構（北より）

写真27　Ta13･16号竪穴状遺構土層堆積状態（西より）

6）Ta５号竪穴建物跡



第12図　Ta５竪穴建物跡址

Ta５号竪穴建物跡

遺構検出位置　Bか９　**規模・形態**　360cm×336cm×10～28cm（南北×東西×深さ）・方形

火床　中央より北寄り。48cm ×24cm の楕円形範囲に灰・焼土あり。 **長軸方位**　N－11°－W

残りの状態　Ｄ３・13に切られる。Ta14・D27を切る。

柱穴・付属施設　壁下に小ピットあり。　**出土遺物**　１．伊万里染付碗片（18C）、２．瀬戸・美濃染付皿（19C）（混入品？）３・４．かわらけ５・６．角釘、７．元祐通寶、貝（ハマグリ）

写真28　Ta５号竪穴状遺構土層堆積状態（西より）

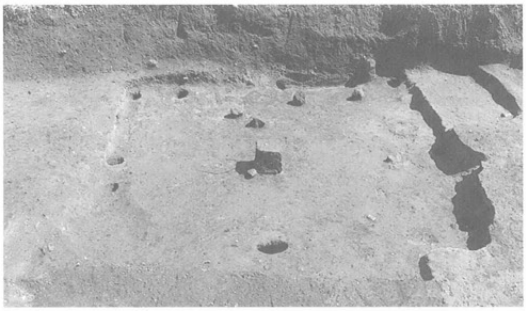
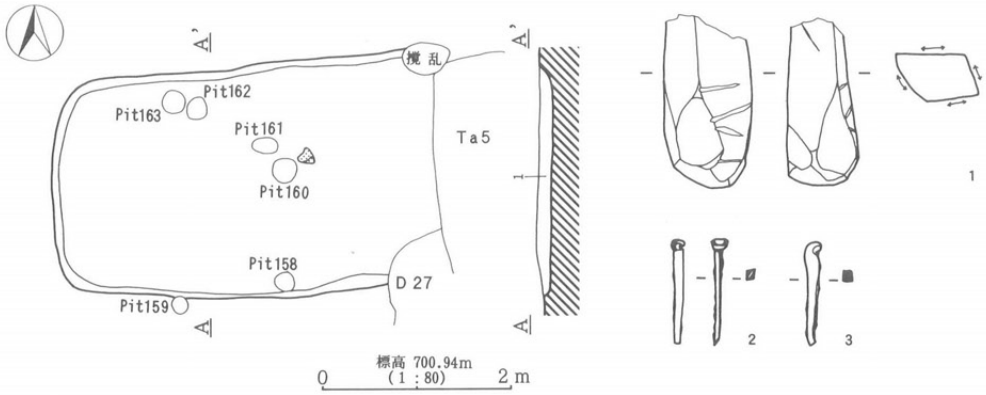


写真29　Ta５号竪穴状遺構（西より）

7）Ta14号竪穴状遺構



Ｔa14土層説明
1．黒褐色土層（10YR2/3）　炭化物少し、砂粒、１cm以下の小石含む。

第13図　Ta14号竪穴状遺構

Ta14号竪穴状遺構

検出位置　Ｂき８

規模・形態　400cm×236cm×３～14cm（南北×東西×深さ）・長方形

火床　なし　**長軸方位**　Ｎ－90°

残りの状態　Ta５・Ｄ27に切られる。Ｄ49を切る。単独ピットＰ158・160・161・162・163に切られる。

柱穴・付属施設　なし。

出土遺物　１．砥石（凝灰岩製）２・３．角釘２、羽口

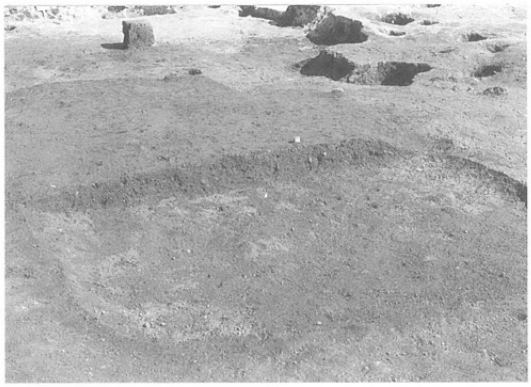
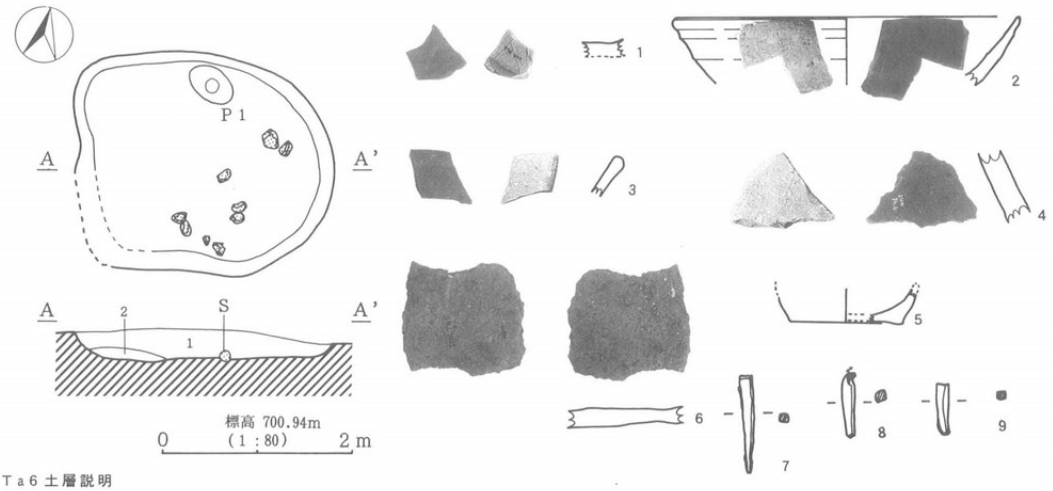


写真30　Ta14号竪穴状遺構土層堆積状態（西より）

写真31　Ta14号竪穴状遺構（西より）

8）Ta 6 号竪穴状遺構



Ta 6 土層説明
1．黒褐色土層（10YR2/2）　～1cm大小石、炭化物粒子含む。やや粘性あり。
2．黒褐色土層（10YR2/2）　灰黄褐色（10YR6/2）粘土の細ブロック多く含む。

第14図　Ta 6 竪穴状遺構

Ta 6 号竪穴状遺構

検出位置　Bき6

規模・形態　228cm×272cm×9～28cm（南北×東西×深さ）・不整長方形

火床　なし。　長軸方位　N－105°－W

残りの状態　Ta15を切る。形態がつかみきれない。

柱穴・付属施設　なし。

出土遺物　1．中国産青磁碗（中世）2．古瀬戸灰釉平椀（15C）3．山茶椀系捏鉢（13C）
4．常滑甕（中世）5．かわらけ　7～9角釘　6．古瀬戸瓶子（中世？）

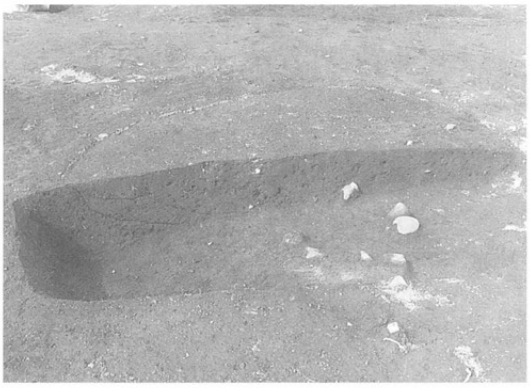


写真32　Ta 6 号竪穴状遺構土層堆積状態（南より）

写真29　Ta 6 号竪穴状遺構（西より）

９）・10）・11）Ta11・12・23号竪穴建物跡

Ta11号竪穴建物跡

検出位置　Ｂき６　　**規模・形態**　584cm×〈296〉cm ×40～68cm（南北×東西×深さ）・方形？

火床　なし。　**長軸方位**　Ｎ－15°－Ｗ

残りの状態　Ta６・Ｄ５に切られる。Ta12を切る。東側調査区域外。消失家屋のため炭化材・茅状炭化物・焼土・灰が多量に残る。重複関係が多い。ことに南の二重の遺構線はTa11と少し南にずれて他の竪穴状遺構があるのか、入り口のテラスなのか明確でない。

柱穴・付属施設　Ｐ１～Ｐ10が伴う柱穴、Ｐ11～21は床下で検出され他の竪穴建物跡のピットか。

出土遺物　１．青磁玉縁碗（中国13Ｃ）２・３．青磁連弁文碗（龍泉窯系15Ｃ前半～16Ｃ）
４．古瀬戸灰釉瓶類（中世）５．瓦質擂鉢（在地、13Ｃ末～14Ｃ前半）６．常滑甕（中世）、７～11．かわらけ12．土鍋13．角釘、羽口１、硯１、

Ta12号竪穴状遺構

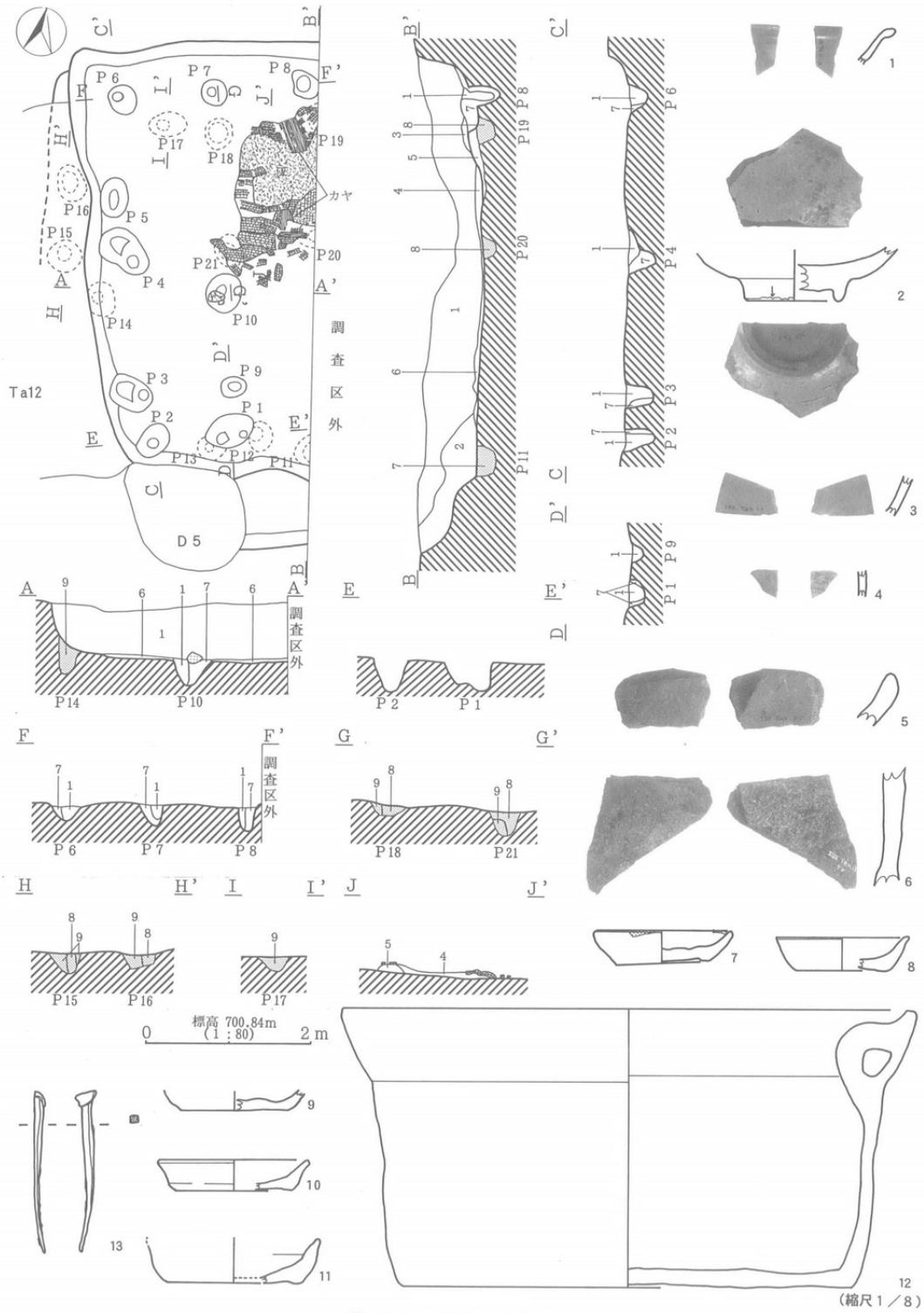
検出位置　Ｂき７　　**規模・形態**　420cm×〈256〉cm ×26～51cm（南北×東西×深さ）・長方形

火床　なし。　**長軸方位**　Ｎ－14°－Ｗ　　**残りの状態**　Ta11に西側を切られる。Ｄ50を切る。

柱穴・付属施設　９個のピットが壁下にめぐる。

出土遺物　１．古瀬戸天目茶椀（15Ｃ前半）２．かわらけ３．古瀬戸瓶子（中世）４．瓦質擂鉢（在地13Ｃ末～14Ｃ前）５．古瀬戸灰釉鉢（15Ｃ後半）、羽口片、打製石斧、犬（歯・顎）貝（ハマグリ）

写真34　Ta11・12号竪穴建物跡（南より）



第15図　Ta11号竪穴建物跡

Ta11土層説明

1. 黒褐色土層　(10YR2/2)　地山砂多量、炭化物・焼土粒子を含む。20㎝大の溶岩所々にふくむ。
2. 黒褐色土層　(10YR2/2)　地山砂、小石、炭化物を少々含む。
3. 黒色層　炭化物層
4. 灰黄褐色土層　(10YR4/2)　灰層に焼土ブロック少し含む。
5. 黒褐色土層　(10YR2/2)　灰・炭多量に含む。
6. 黒褐色土層　(10YR2/3)　貼り床。やや締まる。地山砂多く混じる。
7. 暗褐色土層　(10YR3/3)　地山砂ブロック主体。
8. 黒褐色土層　(10YR2/3)　地山砂含む。
9. 暗褐色土層　(10YR3/3)　地山砂主体。

写真35　Ta11号竪穴建物跡炭化物出土状態（東より）

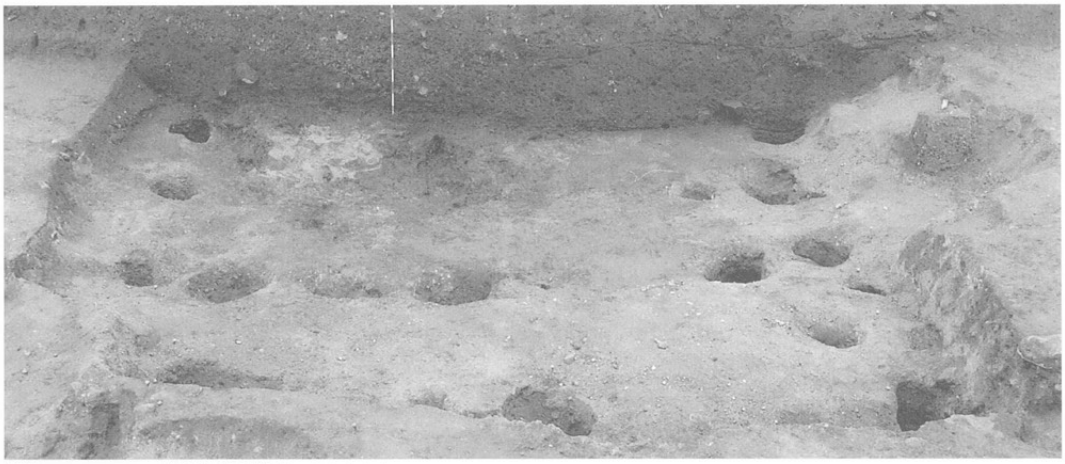
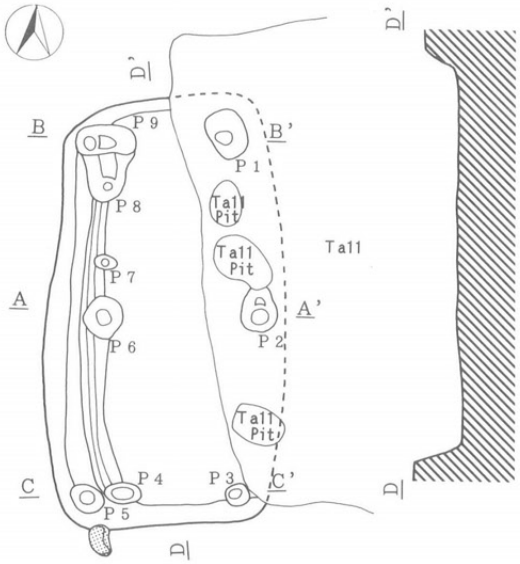


写真36　Ta11･12号竪穴建物跡（西より）

写真37　Ta11･12号竪穴建物跡堀方（南より）



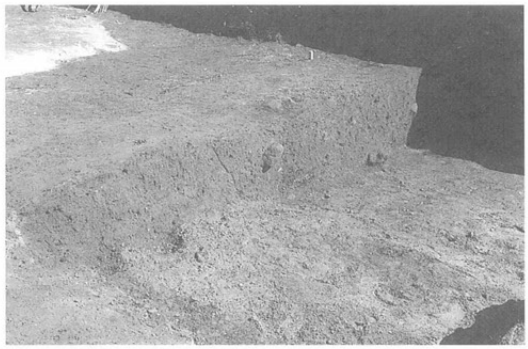
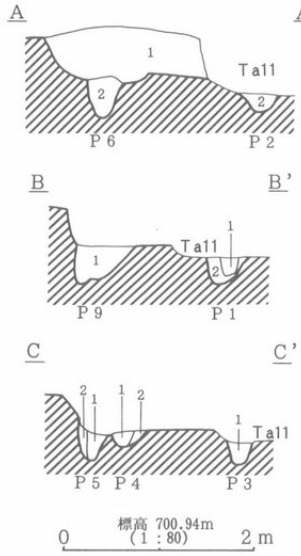
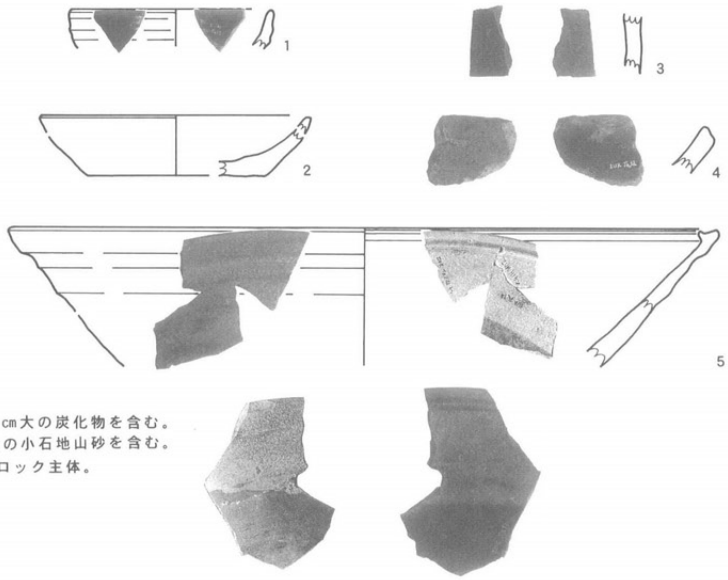


写真38　Ta12号竪穴建物跡土層堆積状態（南）

写真39　Ta12号竪穴建物跡（東より）





Ta12土層説明

1．黒褐色土層（10YR2/2）　まれに1cm大の炭化物を含む。
　　～2cm大の小石地山砂を含む。

2．暗褐色土層（10YR3/3）　地山砂ブロック主体。

第16図　Ta12号竪穴建物跡

Ta23号竪穴建物跡

検出位置　Ｂき６　　**規模・形態**　〈456〉cm ×〈88〉cm ×48cm（南北×東西×深さ）・不明

火床　不明　　**長軸方位**　Ｎ－10°－Ｗ

残りの状態　北東隅のみ残る。Ta11に切られる。東側調査区域外。 **柱穴・付属施設**　壁下にピットあり。**出土遺物**　なし。

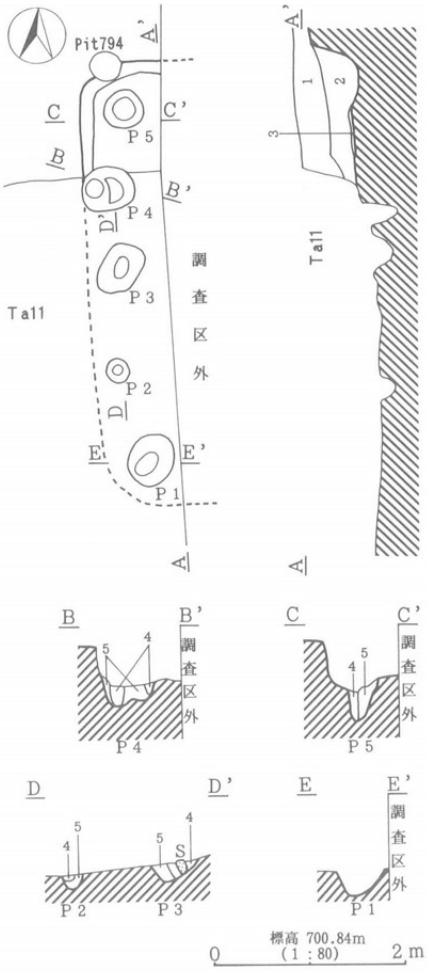


写真40　Ta23号竪穴建物跡（北より）

写真41　Ta23号竪穴建物跡（北より）

Ｔa23土層説明

1．黒褐色土層（10YR2/2）　小石含む。

2．黒褐色土層（10YR2/3）　小石多く、５cm大の石もまれに含む。地山砂多い。

3．暗褐色土層（10YR3/4）　貼り床。地山砂主体。

4．黒褐色土層（10YR2/3）　柱痕。

5．黄褐色土層（10YR5/8）　地山砂主体。

第17図　Ta23号竪穴建物跡

12）Ta15号竪穴建物跡

Ta15号竪穴建物跡

検出位置　Bく6　　**規模・形態**　276cm×348cm×４～43cm（南北×東西×深さ）・長方形

火床　なし。　**長軸方位**　N－103°－W

残りの状態　Ta６・D19に上面を切られる。床面は締まる。

柱穴・付属施設　Ｐ１～Ｐ11壁柱穴。Ｐ５・Ｐ11の横には上面が扁平な石があり、礎石柱にしたようである。Ｐ12は２層が入り、穴として使用か。床下ピットはＰ13～18。

出土遺物　１．山茶椀系捏鉢（13Ｃ前半）、緑泥片岩小片

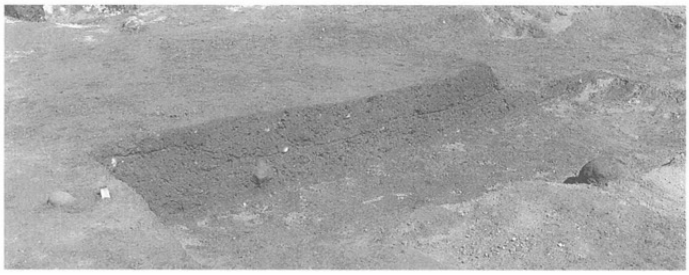
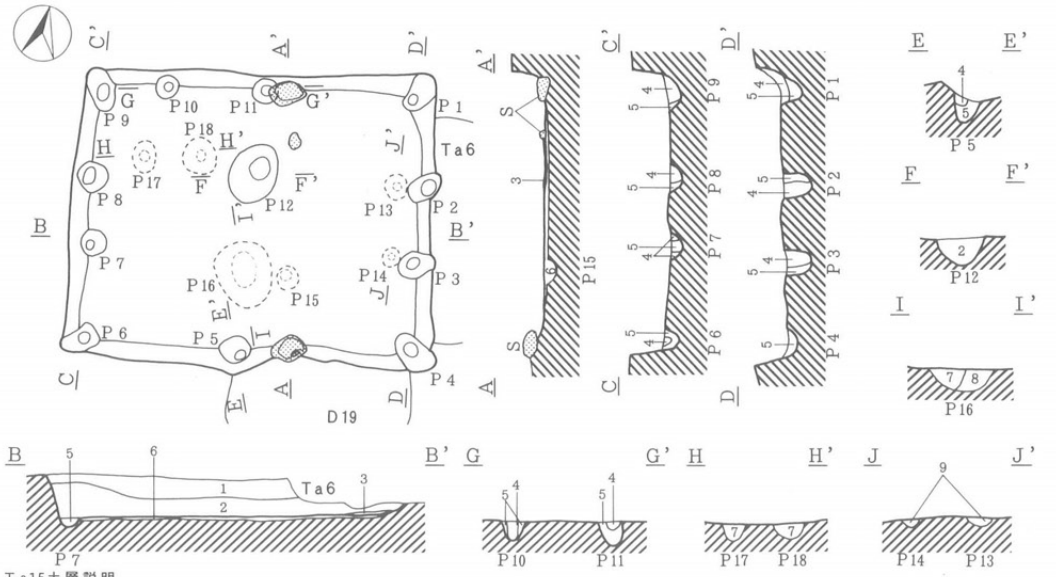


写真42　Ta15号竪穴建物跡
土層堆積状態（南より）



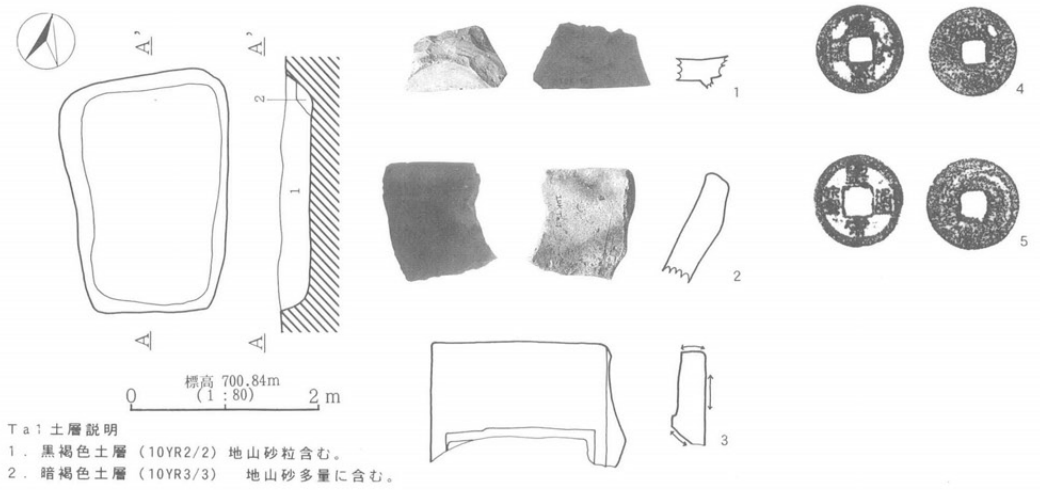
Ｔａ15土層説明

１．黒褐色土層（10YR2/2）　炭化物・砂粒少し含む。５㎜大小石含む。
２．暗褐色土層（10YR3/3）　炭化物少し、砂粒は多く、５㎜大小石含む。
３．褐灰色土層（10YR4/1）　灰主体、炭化物含む。
４．黒褐色土層（10YR2/2）　柱痕。締まりなし。
５．暗褐色土層（10YR3/3）　地山砂ブロック混じる。
６．黒褐色土層（10YR2/3）　貼り床。締まりあり。地山砂・小石混じる。
７．暗褐色土層（10YR3/3）　黒褐色土（10YR2/2）と褐色（10YR4/6）の地山砂ブロック混じる。
８．褐色土層（10YR4/6）　地山砂主体。
９．黒色土層（10YR2/1）　灰、炭化物粒子、地山砂含む。

第18図　Ta15号竪穴建物跡

写真43　Ta15号竪穴建物跡（南より）

写真44　Ta15号竪穴建物跡堀方（西より）



第19図　Ta１号竪穴状遺構

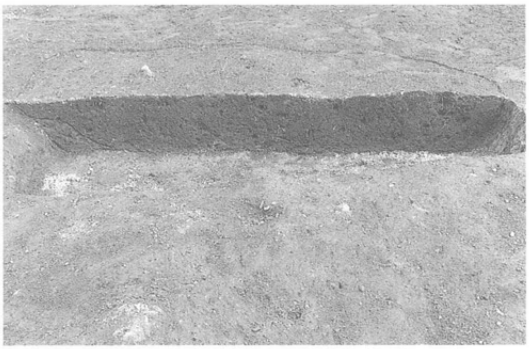


写真45　Ta１号竪穴状遺構土層堆積状態（西より）

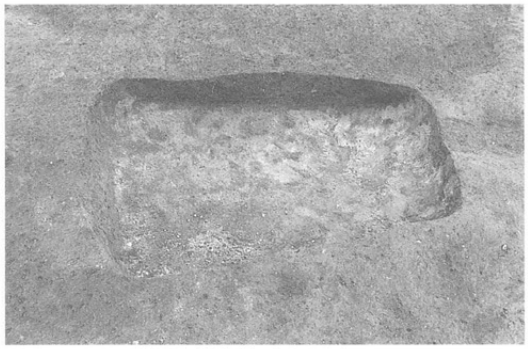


写真46　Ta１号竪穴状遺構（西より）

Ta１号竪穴状遺構

検出位置　Bく５（調査区東側中央）

規模・形態　228cm×132cm×21～38cm（南北×東西×深さ）・長方形

火床　なし。

長軸方位　N－14°－W

残りの状態　Ta７・８、D25を切る。

柱穴・付属施設　なし。

出土遺物　１．灰釉陶器椀２．瓦質擂鉢（在地13C末～14ｃ前半）３．硯（粘板岩製）

４・５．判読不明銭・皇宋通寶、貝（ハマグリ）

14)・15) Ta７・８号竪穴建物跡

Ta７号竪穴建物跡

検出位置　Ｂく５　　**規模・形態**　248cm×364cm×０～41cm（南北×東西×深さ）・長方形

火床　なし。　**長軸方位**　Ｎ－92°－Ｗ

残りの状態　北東に攪乱が入る。Ta８・９を切る。

柱穴・付属施設　壁下に柱穴がめぐる。

出土遺物　１.古瀬戸灰釉瓶類（14～15Ｃ）２.古瀬戸瓶子（13Ｃ）３.古瀬戸瓶子底（中世）
４・５.かわらけ６・７.角釘８.開元通寶３・淳化元寶・祥符元寶・皇宗通寶・○寧元寶・元祐通寶・元○○寶・聖宗元寶３・洪武通寶２、貝（クロアワビ・ハマグリ）

写真47　Ta７号竪穴建物跡（東より）

Ta８号竪穴状遺構

検出位置　Ｂく５

規模・形態　〈64〉cm×〈42〉cm×22～26cm
（南北×東西×深さ）・不明

火床　不明

長軸方位　－

残りの状態　Ta１・７に切られ一部残存。

柱穴・付属施設　壁下にピット１

出土遺物　なし。

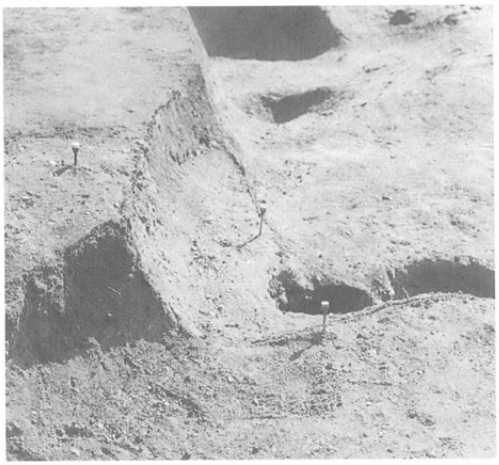
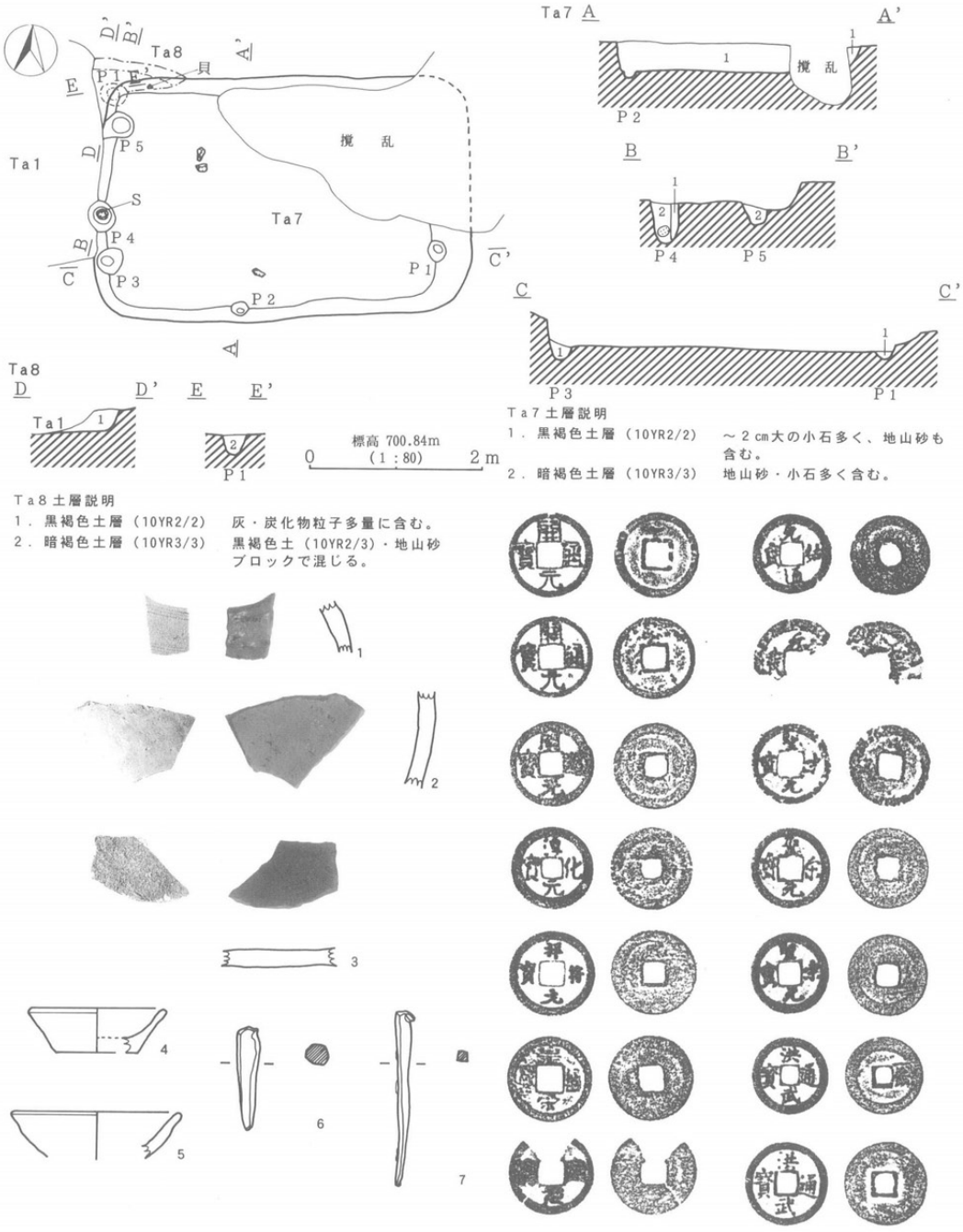


写真48　Ta８号竪穴建物跡（西より）



第20図　Ta 7・8 号竪穴建物跡

16）Ta９号竪穴状遺構

Ta９号竪穴状遺構

検出位置　Ｂき４

規模・形態　〈160〉cm×388cm×７～20cm（南北×東西×深さ）・長方形？

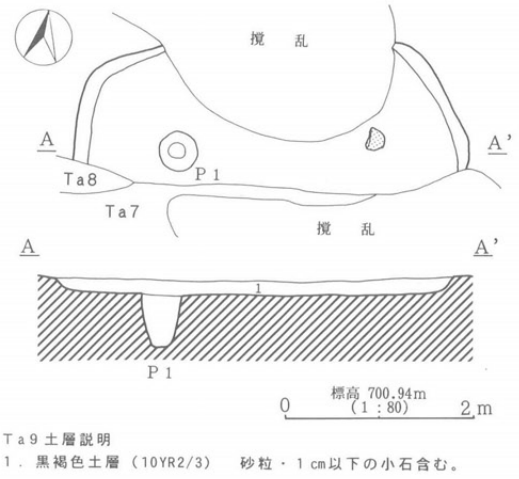
火床　不明

長軸方位　Ｎ－98°－Ｗ

残りの状態　Ta７・８に切られる。北側攪乱により破壊。

柱穴・付属施設　西中央に柱穴あり。覆土は不明。

出土遺物　なし。



第21図　Ta９号竪穴状遺構

写真49　Ta９号竪穴状遺構土層堆積状態（南より）

写真50　Ta９号竪穴状遺構（南より）

17）Ta17号竪穴状遺構

Ta17号竪穴状遺構

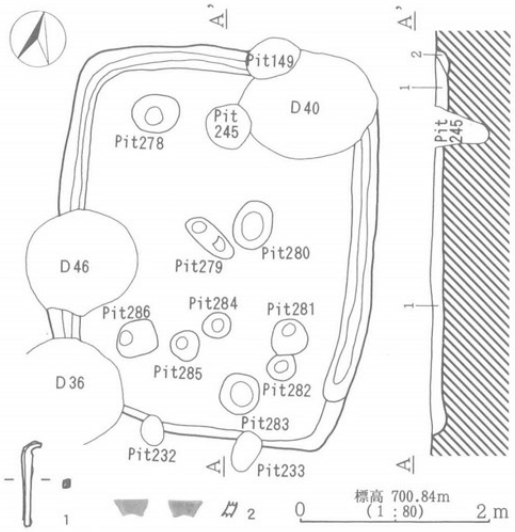
検出位置　Bく3　　**規模・形態**　372cm×212cm×2～17cm（南北×東西×深さ）・隅丸長方形

火床　なし。　**長軸方位**　N－9°－W

残りの状態　D36・D40・D46、P149・P232・P233・P245に切られる。底面に締まりなし。周溝が南壁を除いてめぐる。

柱穴・付属施設　P278～P286が底面より検出された。P278・P281・P285の覆土は黒褐色土層（10YR2/3）で異なる。他はTa17の覆土と同質である。底面に貼り床がないことから、遺構に伴うものか否かは明らかでない。

出土遺物　1．角釘2．青磁碗（龍泉窯系、中世）



第22図　Ta17号竪穴状遺構

写真51　Ta17号竪穴状遺構土層堆積状態（北より）

写真52　Ta17号竪穴状遺構（東より）

18）Ta18号竪穴建物跡

Ta18号竪穴建物跡

検出位置　Bけ３・４

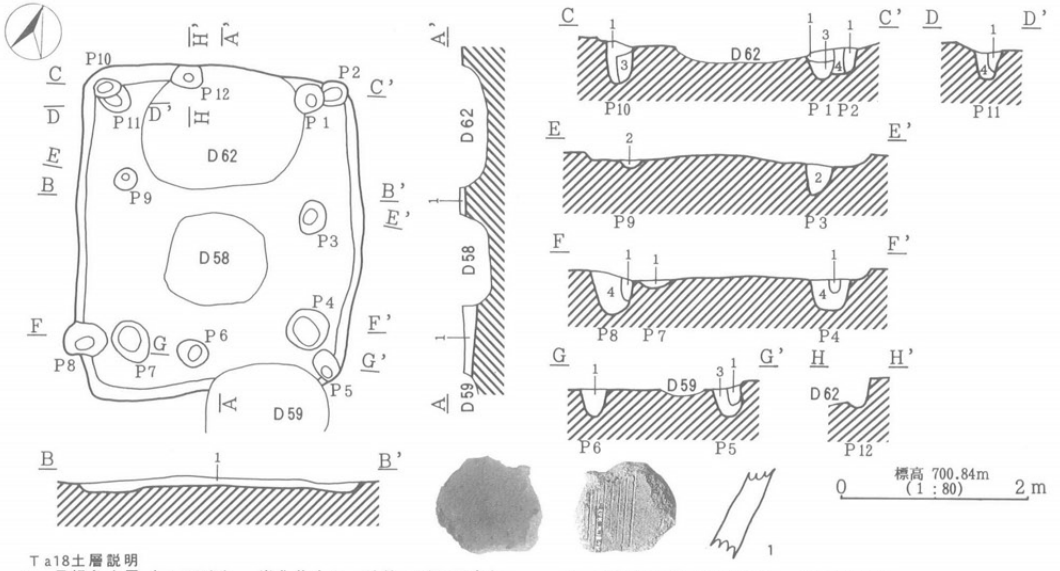
規模・形態　316cm×280cm×2～14cm（南北×東西×深さ）・長方形　**火床**　不明

長軸方位　N－14°－W

残りの状態　D58・D59・D62に切られる。Ta19を切る。

柱穴・付属施設　Ｐ１・Ｐ５・Ｐ７・Ｐ10が新しく、Ｐ２・Ｐ４・Ｐ８・Ｐ11が旧ピットで本遺構に伴う。

出土遺物　１．瓦質擂鉢（在地13Ｃ末～14Ｃ）、磨石



Ｔａ18土層説明
１．黒褐色土層（10YR2/3）　炭化物少し、砂粒・パミス含む。
２．黒褐色土層（10YR2/2）　炭化物粒子少し含む。
３．暗褐色土層（10YR3/3）　地山砂主体。
４．黒褐色土層（10YR2/3）　地山砂・小石多量に含む。

第23図　Ta18号竪穴建物跡

写真53　Ta18号竪穴建物跡土層堆積状態（南より）

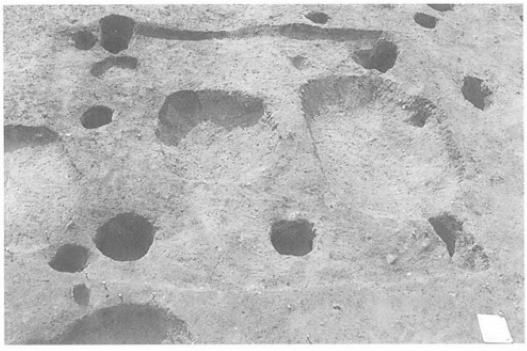


写真54　Ta18号竪穴建物跡（東より）

19）Ta19号竪穴建物跡

Ta19号竪穴建物跡

検出位置　Bけ4

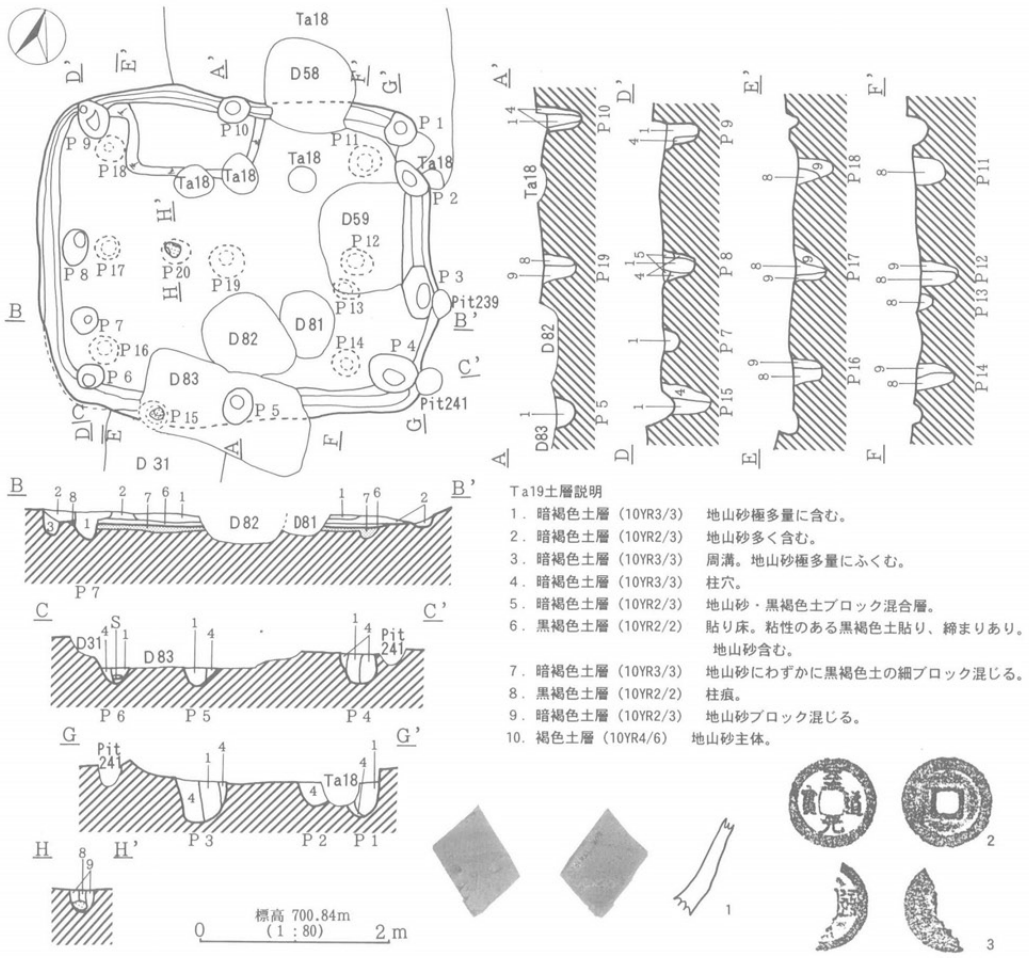
規模・形態　256cm×364cm×０～19cm（南北×東西×深さ）・長方形

火床　なし。　**長軸方位**　N－105°－W

残りの状態　Ta18、D31・D58・D59・D81・D82・D83に切られる。

柱穴・付属施設　Ｐ１～Ｐ10が伴うピット。締まった床面があり、床下からもＰ11・Ｐ12のピットが検出。壁下には周溝もめぐる。

出土遺物　１．山茶碗系捏鉢（13Ｃ）、２．至道元寳・○通○○



Ta19土層説明

1．暗褐色土層（10YR3/3）　地山砂極多量に含む。
2．暗褐色土層（10YR2/3）　地山砂多く含む。
3．暗褐色土層（10YR3/3）　周溝。地山砂極多量にふくむ。
4．暗褐色土層（10YR3/3）　柱穴。
5．暗褐色土層（10YR2/3）　地山砂・黒褐色土ブロック混合層。
6．黒褐色土層（10YR2/2）　貼り床。粘性のある黒褐色土貼り、締まりあり。地山砂含む。
7．暗褐色土層（10YR3/3）　地山砂にわずかに黒褐色土の細ブロック混じる。
8．黒褐色土層（10YR2/2）　柱痕。
9．暗褐色土層（10YR2/3）　地山砂ブロック混じる。
10．褐色土層（10YR4/6）　地山砂主体。

第24図　Ta19号竪穴建物跡

写真55　Ta19号竪穴建物跡（南より）

写真56　Ta19号竪穴建物跡堀方（西より）

20）Ta10号竪穴建物跡

検出位置　Bこ7

規模・形態　380cm×140cm×68～108cm

隅丸長方形、南に入り口状の小テラスあり。

火床　なし。　**長軸方位**　N－11°－W

残りの状態　D6に切られる。D18・51を切る。貼り床され締まる。北側の床下の径140cmの円形の落ち込みは井戸跡か。人為埋土。

柱穴・付属施設　壁下にP1～P8の柱穴あり。

出土遺物　馬の歯

写真57　Ta10号竪穴建物跡（西より）

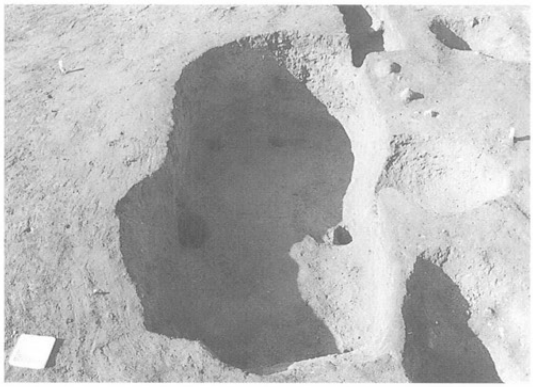


写真58　Ta10号竪穴建物跡（南より）

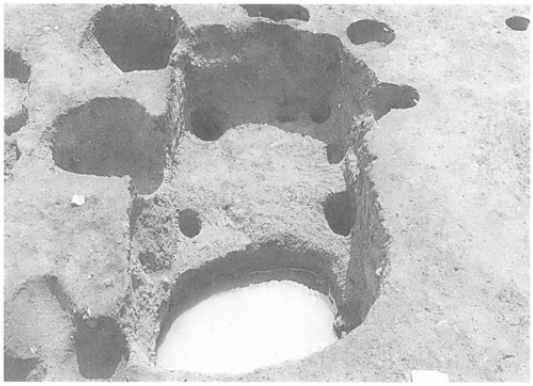
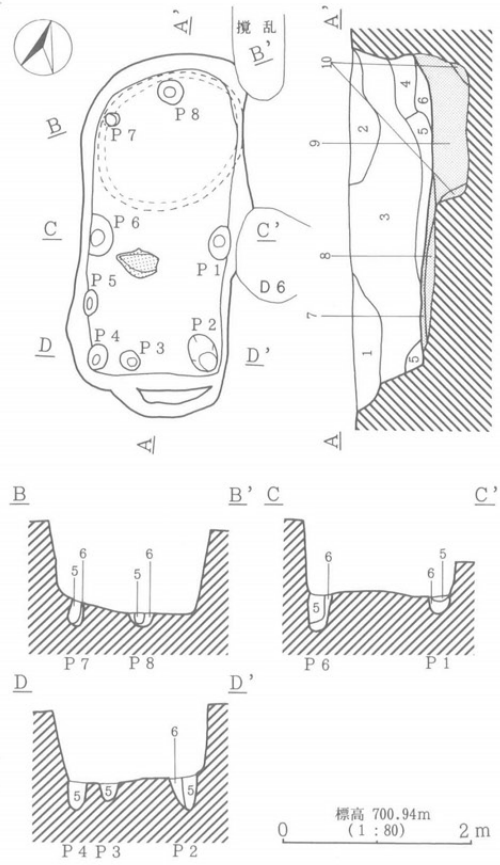


写真59　Ta10号竪穴建物跡堀方（北より）



Ta10土層説明

1．黒褐色土層（10YR2/2）　～1cm大の小石多く含み、まれに、10cm大石あり。地山砂含む。
2．黒褐色土層（10YR3/2）　1層より地山砂多く含む。
3．暗褐色土層（10YR3/3）　地山砂ブロックで多く含む。
4．黒褐色土層（10YR2/1）　黒色土に地山砂混入。
5．黒褐色土層（10YR2/2）　地山砂含む。
6．にぶい黄褐色土層（10YR4/3）　地山砂主体に黒褐色土（10YR2/3）含む。
7．黒褐色土層（10YR2/2）　地山砂・小石含み締まる。床。
8．暗褐色土層（10YR3/3）　黒褐色土（10YR2/3）ブロックを所々含む。地山砂主体。
9．黒褐色土層（10YR2/3）　地山砂ブロック・P1火山灰ブロック・黒褐色土ブロックの混合層。上面締まる。
10．暗褐色土層（10YR3/4）　地山砂崩壊土層。

第25図　Ta10号竪穴建物跡

21）Ta20号竪穴状遺構

Ta20号竪穴状遺構

検出位置　Ｂく１

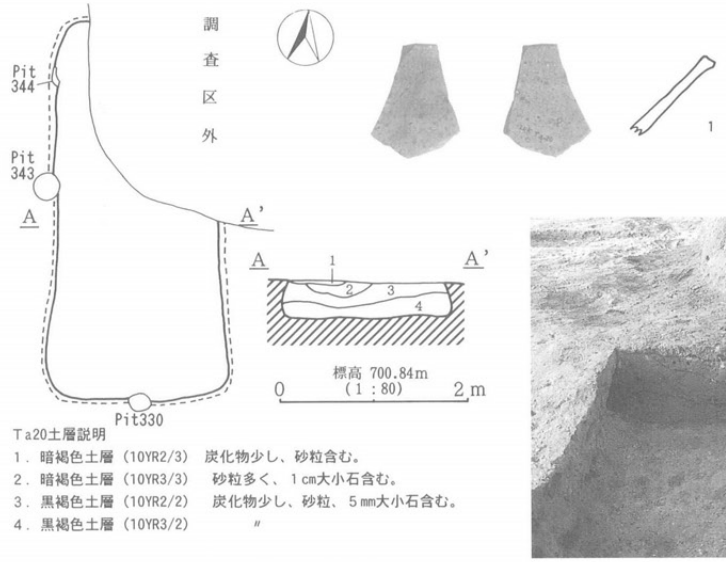
規模・形態　400cm×168cm×21～38cm（南北×東西×深さ）・長方形　**火床**　なし。

長軸方位　Ｎ－５°－Ｗ

残りの状態　北東は区域外で未調査。Ｐ330・Ｐ343・Ｐ344に切られる。

柱穴・付属施設　なし。

出土遺物　１．山茶碗系捏鉢（13Ｃ前半）、貝（アカニシ・ハマグリ）、獣骨



第26図　Ta20号竪穴状遺構

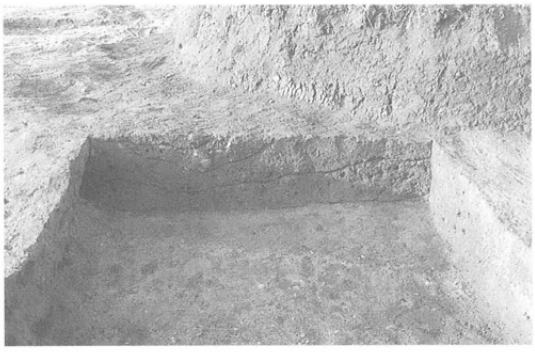


写真60　Ta20号竪穴状遺構土層堆積状態（南より）

写真61　Ta20号竪穴状遺構（西より）

22）Ta21号竪穴状遺構

Ta21号竪穴状遺構

検出位置　Ｂこ２

規模・形態　260cm×108cm×14～27cm（南北×東西×深さ）・長方形

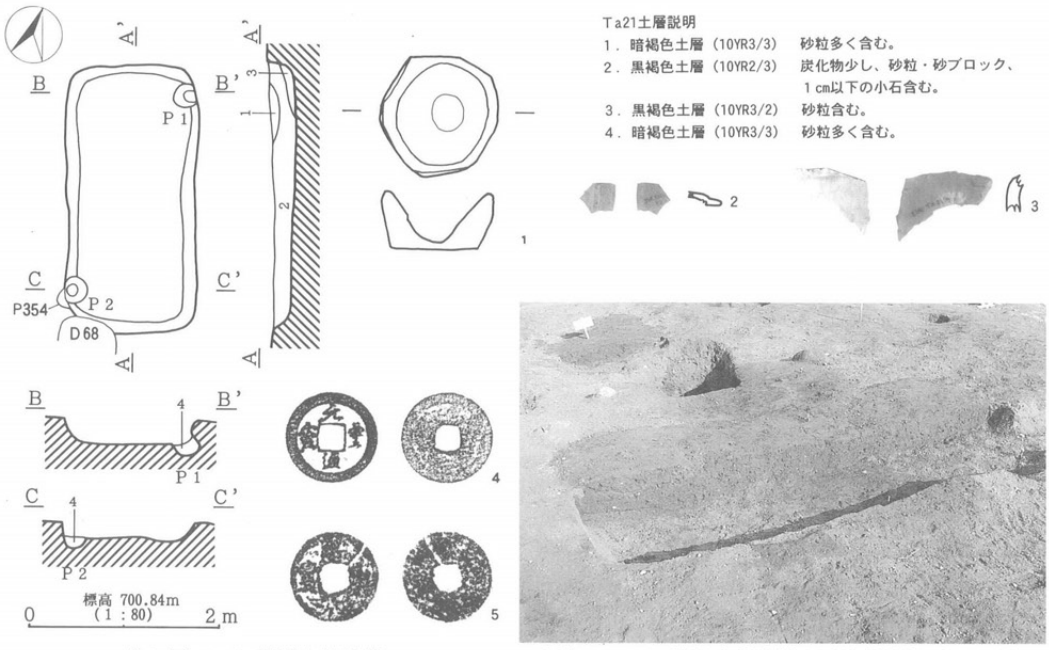
火床　なし。　**長軸方位**　Ｎ－12°－Ｗ

残りの状態　Ｄ68、Ｐ354に切られる。

柱穴・付属施設　　北東・南西にＰ１・Ｐ２

出土遺物　１．軽石製凹石２．瀬戸・美濃灰釉蓋（近世）３．古瀬戸灰釉鉢(14Ｃ後半～15Ｃ前半)

４・５．元豊通寶・判読不明銭、犬（下顎）



第27図　Ta21号竪穴状遺構

写真62　Ta21号竪穴状遺構土層堆積状態（西より）

写真63　Ta21号竪穴状遺構（西より）

23）Ta22号竪穴状遺構

Ta22号竪穴状遺構

検出位置　Ｂこ５

規模・形態　208cm ×244cm ×77～82cm（南北×東西×深さ）・長方形

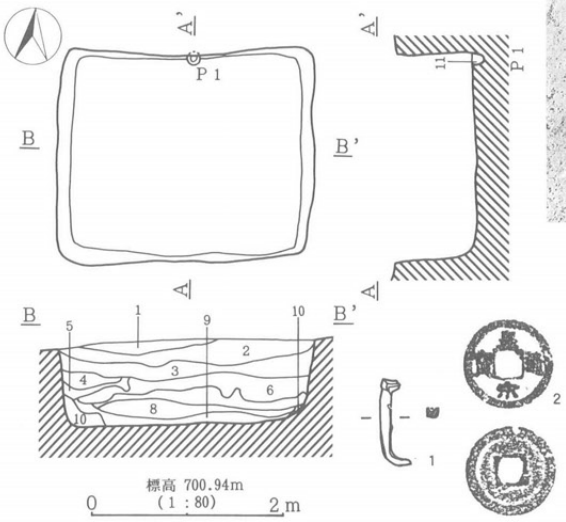
火床　なし。

長軸方位　Ｎ－96°－Ｗ

残りの状態　重複関係なし。深い遺構。人為埋土。底面貼り床なく締まりなし。

柱穴・付属施設　北壁中央にＰ１。

出土遺物　１．角釘２．皇宗通寶



第28図　Ta22号竪穴状遺構

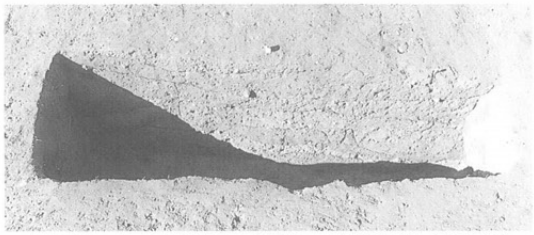


写真64　Ta22号竪穴状遺構土層堆積状態（南より）

Ｔa22土層説明

１．暗褐色土層（10YR3/3）　砂粒、砂ブロック、５mm大小石含む。
２．黒褐色土層（10YR2/3）　砂粒・５mm大小石含む。
３．黒褐色土層（10YR3/2）　砂粒・１cm大以下小石含む。
４．にぶい黄褐色土層（10YR4/3）　砂主体。１cm以下小石含む。
５．黒褐色土層（10YR2/2）　砂粒少し含む。
６．黒褐色土層（10YR2/2）砂粒、５mm以下の小石少し含む。
７．褐色土層（10YR4/4）　砂主体。
８．黒褐色土層（10YR2/2）　砂多く、１cm以下の小石含む。
９．褐色土層（10YR4/4）　砂主体。
10．暗褐色土層（10YR3/3）　砂粒多く含む。

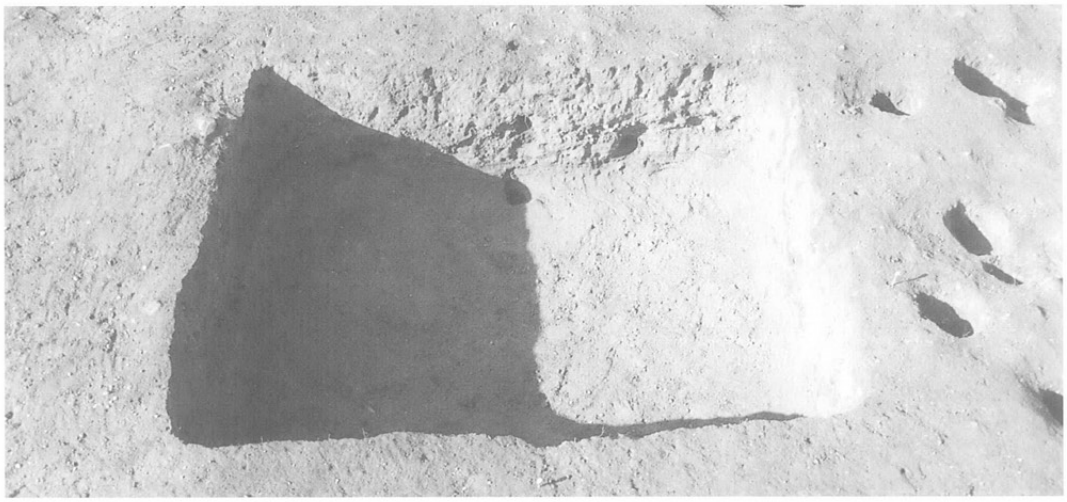


写真65　Ta22号竪穴状遺構（南より）

24）Ta24号竪穴状遺構

Ta24号竪穴状遺構

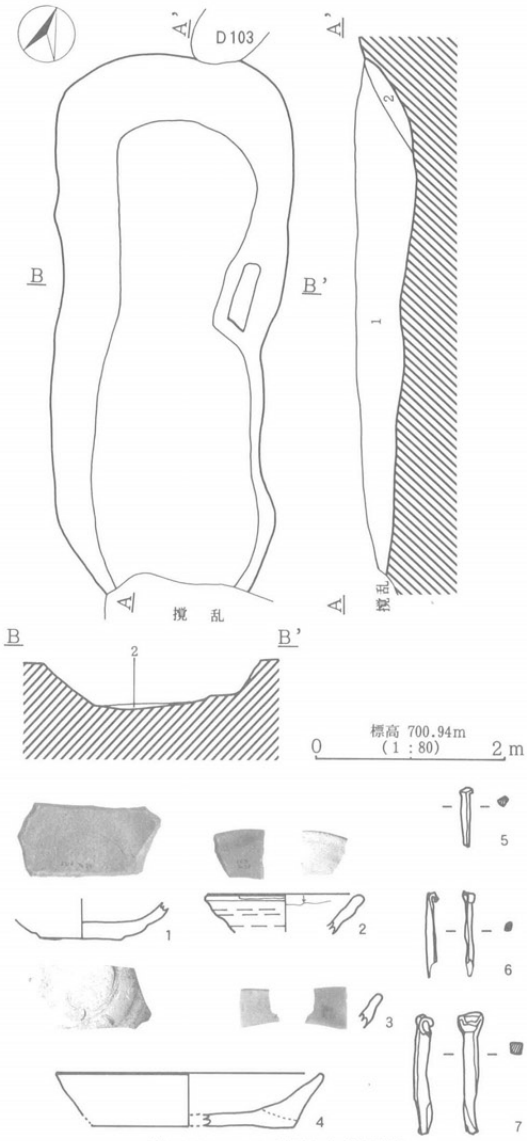
検出位置　Eい4　　**規模**　〈488〉cm×140cm×0～59cm（南北×東西×深さ）

形態　隅丸長方形　　**火床**　なし。　**長軸方位**　N－15°－W

残りの状態　D103に切られ、南側攪乱により壊される。底面は北に深く南に浅い。

柱穴・付属施設　なし。

出土遺物　1・2．古瀬戸縁釉小皿（14C後半～15C前半）3．玉縁青磁碗（15C前半）
4．かわらけ5～7．角釘



第29図　Ta24号竪穴状遺構

Ta24土層説明
1．黒褐色土層（10YR2/2）　～1cm大の小石・地山砂少し含む。
2．黒褐色土層（10YR2/3）　地山砂ブロック多く含む。

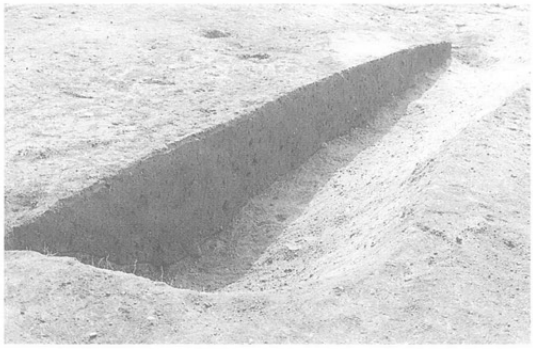


写真66　Ta24号竪穴状遺構土層堆積状態（北より）

写真67　Ta24号竪穴状遺構（北より）

25）Ta25号竪穴状遺構

検出位置　Eい6

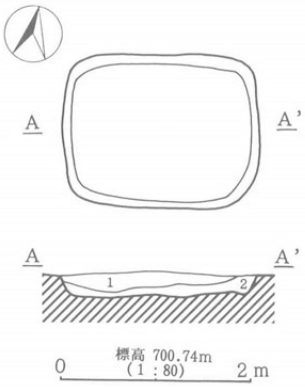
規模・形態　144cm×192cm×10～20cm（南北×東西×深さ）・長方形

火床　なし。　**長軸方位**　N－100°－W

残りの状態　底面は軟弱。　**重複関係**　なし。

柱穴・付属施設　なし。

出土遺物　なし。



Ｔａ25土層説明
1．黒褐色土層（10YR2/2）　炭化物・砂粒少し、１cm以下の小石を含む。
2．黒褐色土層（10YR2/3）　砂粒、１cm以下の小石、砂ブロックを少し含む。

第30図　Ta25号竪穴状遺構

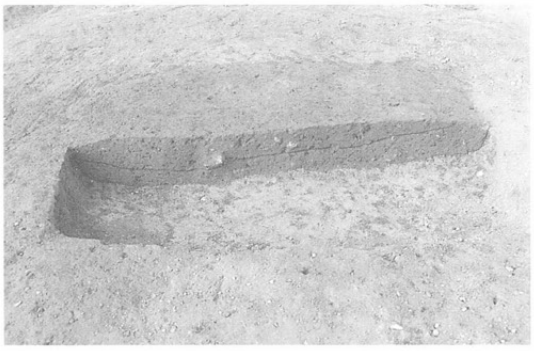


写真68　Ta25号竪穴状遺構土層堆積状態（南より）

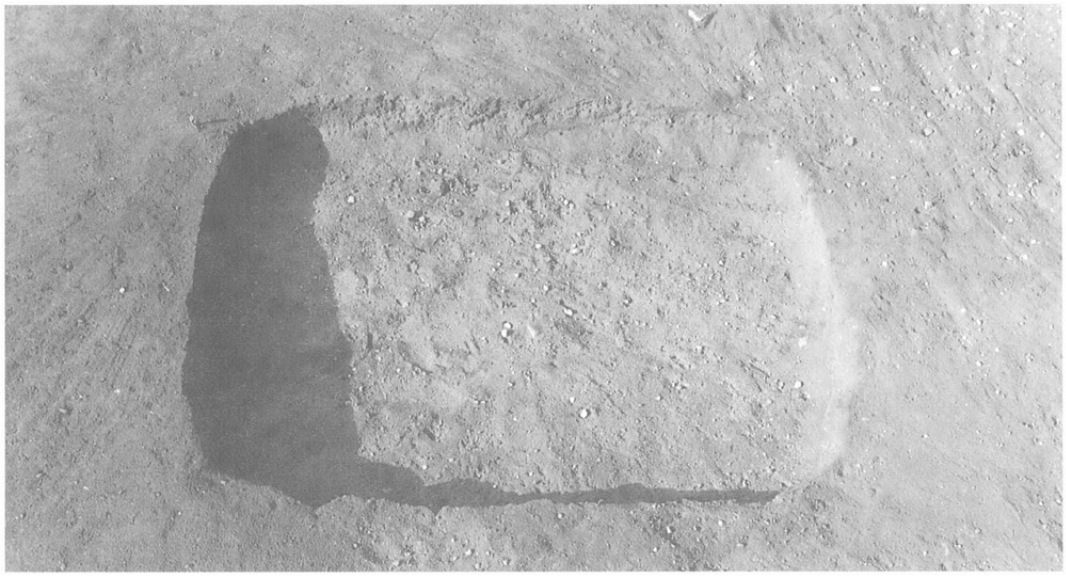


写真69　Ta25号竪穴状遺構（西より）

26）Ta26号竪穴建物跡

Ta26号竪穴建物跡

検出位置　Eあ９

規模・形態　394cm×408cm×４～21cm（南北×東西×深さ）・方形

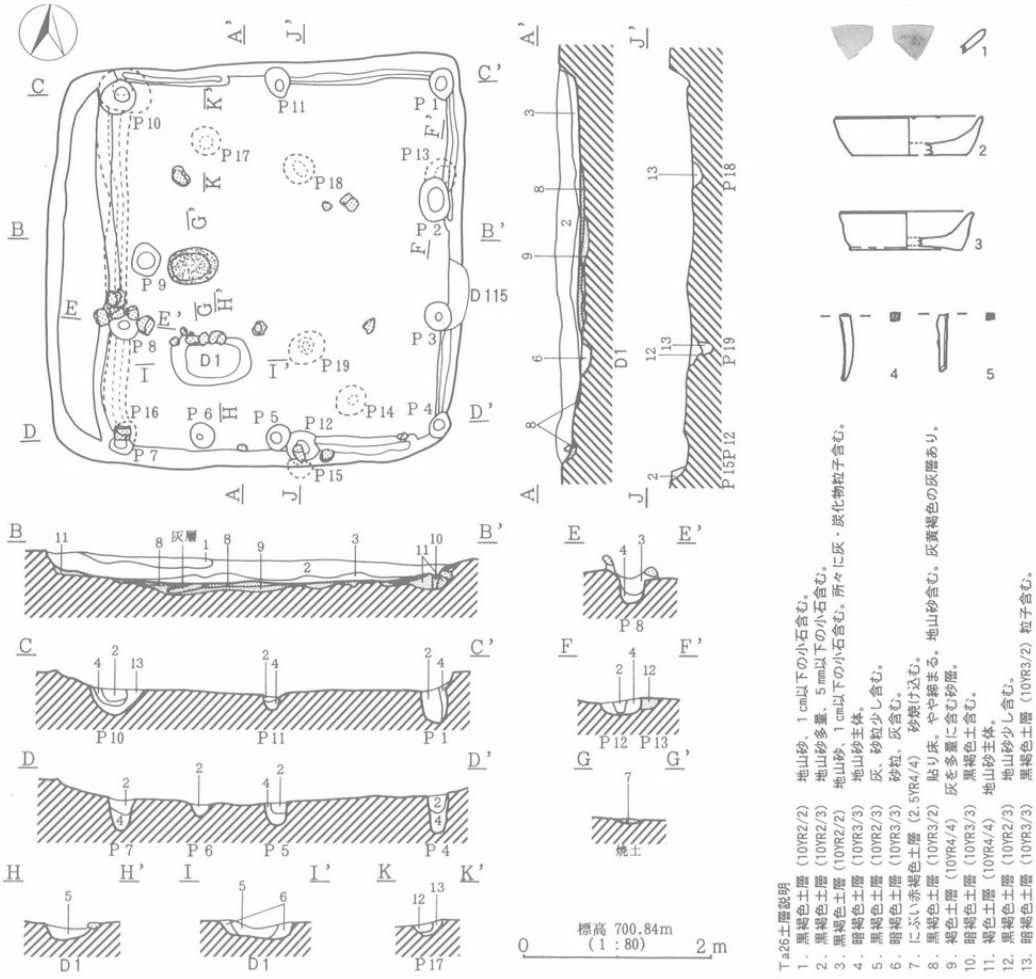
火床　西中央に長径52cm 短径36cm 厚さ５cm の焼土範囲あり。

長軸方位　N－98°－W

残りの状態　D115に切られる。貼り床があり、やや締まる。床下に灰層あり。

柱穴・付属施設　Ｐ１～12の柱穴が壁下をめぐる。床下よりＰ13～19のピットあり。Ｐ８の北に６個の川原石あり。南東に長径84cm 短径44cm 深さ16cm 隅丸方形の灰を含む土抗あり。北縁に川原石５個並ぶ。西端はテラス状を呈す。周溝あり。

出土遺物　１．白磁小皿（中国、15C）２・３．かわらけ４・５．角釘



第31図　Ta26号竪穴建物跡

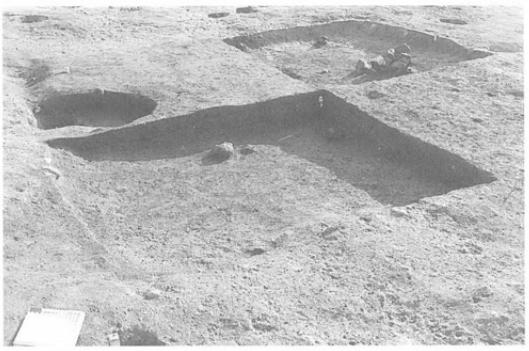


写真70　Ta26号竪穴建物跡土層堆積状態（北より）

写真71　Ta26号竪穴建物跡土層堆積状態（南より）

写真72　Ta26号竪穴建物跡（東より）

写真73　Ta26号竪穴建物跡堀方（南より）

27）Ta27号竪穴状遺構

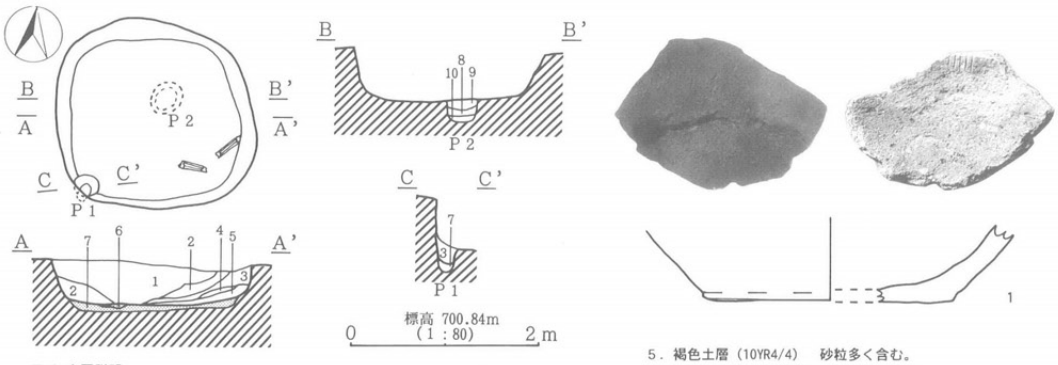
Ta27号竪穴状遺構

検出位置　Ｅえ６　**規模・形態**　160cm×180cm×24～47cm（南北×東西×深さ）・隅丸方形

火床　なし。　**長軸方位**　Ｎ－95°－Ｗ　**残りの状態**　人為埋土。貼り床あり。重複関係なし。

柱穴・付属施設　南東隅にＰ１、中央床下からＰ２。

出土遺物　１．瓦質擂鉢（在地13Ｃ末～14Ｃ前半）・馬（歯・骨）



Ｔa27土層説明
1．黒褐色土層（10YR2/3）　炭化物粒子を少し、砂粒、１cm以下の小石を含む。
2．褐色土層（10YR4/6）　砂主体。黒褐色土ブロック、１cm以下の小石含む。
3．暗褐色土層（10YR3/3）　砂粒・砂ブロック多く含む。
4．褐色土層（10YR4/6）　砂主体。
5．褐色土層（10YR4/4）　砂粒多く含む。
6．黒褐色土層（10YR2/2）　砂粒少し含む。
7．褐色土層（10YR4/6）　砂主体。
8．褐色土層（10YR4/4）　砂多く、１cm以下の小石含む。
9．暗褐色土層（10YR3/4）　地山砂に黒褐色土含む。
10．黒褐色土層（10YR2/2）　地山砂含む

第32図　Ta27号竪穴状遺構

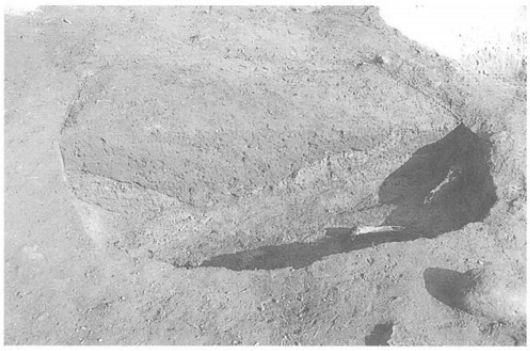


写真74　Ta27号竪穴状遺構土層堆積状態（南より）

写真75　Ta27号竪穴状遺構（南より）

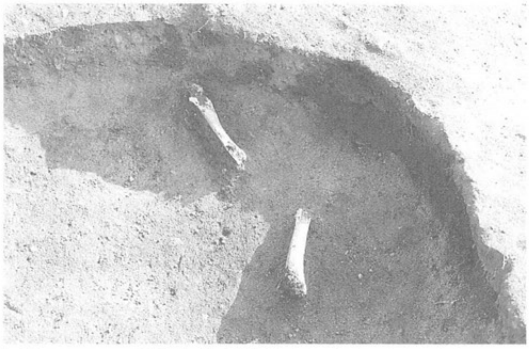


写真76　Ta27号竪穴状遺構骨出土状況（西より）

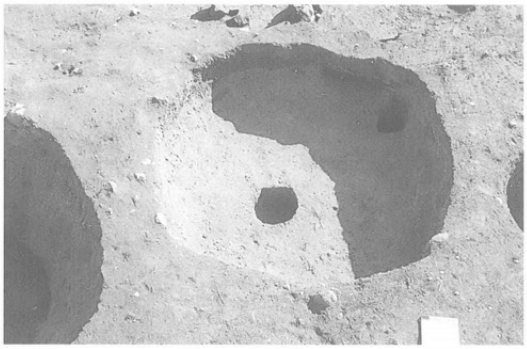
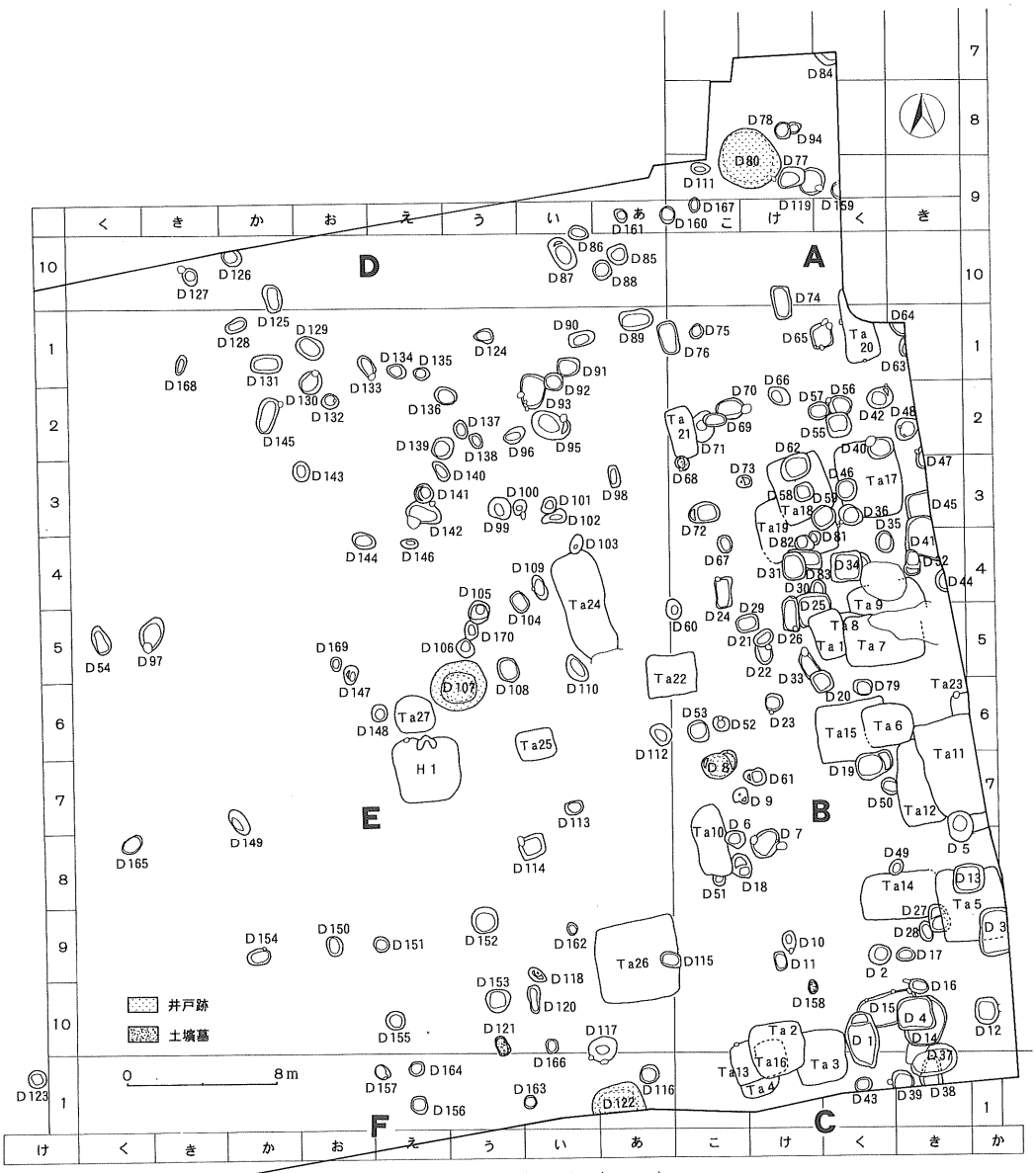


写真77　Ta27号竪穴状遺構堀方（北より）

第３節　井戸跡



第33図　井戸跡遺構配置図(1:400)

1）Ｄ８号井戸跡

検出位置　Ｂこ７

重複関係　なし。

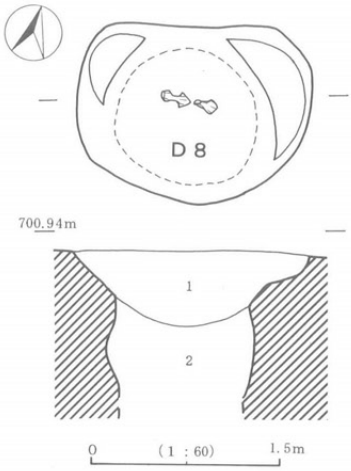
規模　186cm×142cm×〈119〉cm

長軸方位　Ｎ－88°－Ｅ

形態　円形（ⅡＢ４）

出土遺物　１．瓦質擂鉢（在地13Ｃ末～14Ｃ前半）

犬（頭蓋骨、歯）



Ｄ８土層説明

１．黒褐色土層（10YR2/3）　小石含む。

２．黒褐色土層（10YR2/2）　褐色砂少し、～５mm 大パミス多く含む。

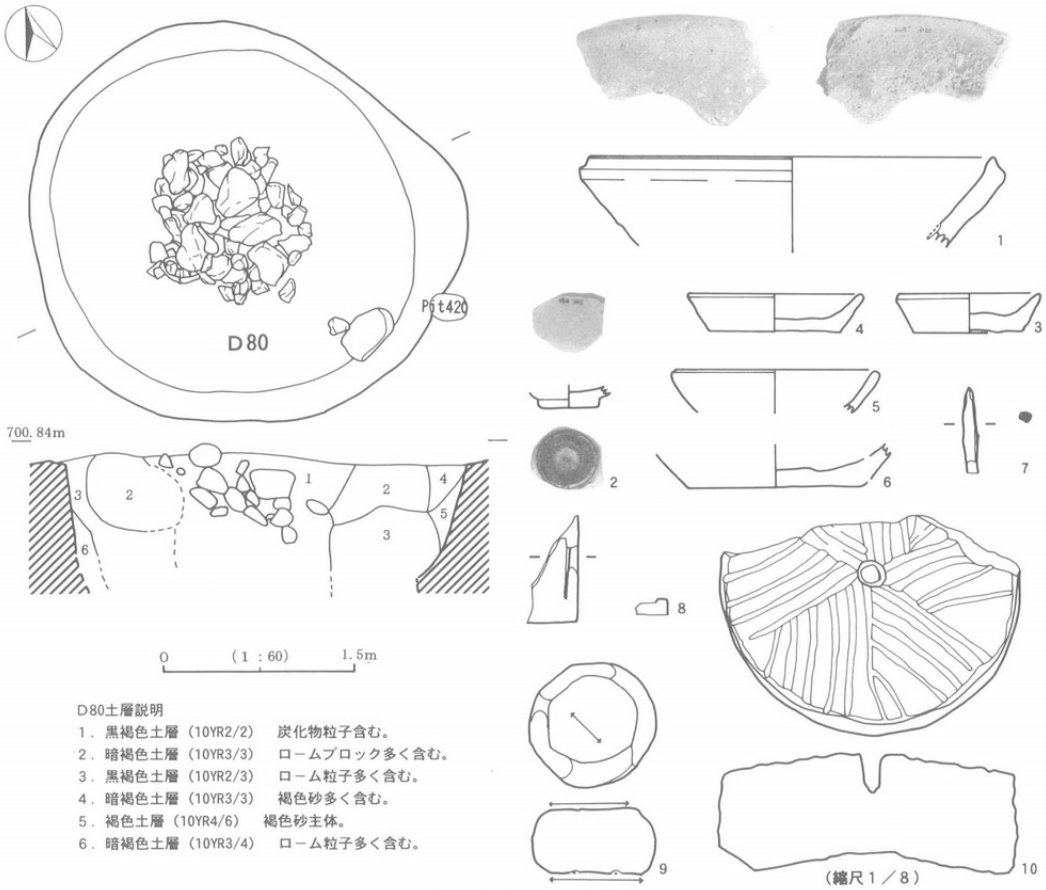
第34図　Ｄ８号井戸跡

写真78　Ｄ８号井戸跡土層堆積状態（南より）

写真79　Ｄ８号井戸跡獣骨（南より）

写真80
Ｄ８号井戸跡

２）D80号井戸跡



第35図　D80号井戸跡

検出位置　Aけ８　**形態**　ⅡA５

重複関係　P420に切られる。

規模　344cm ×340cm ×〈100〉cm

長軸方位　N－72°－W

出土遺物

１．瓦質擂鉢（在地13C末～14C前半）

２．瀬戸・美濃白磁皿（19ｃ以降）

３～６．かわらけ、７．角釘

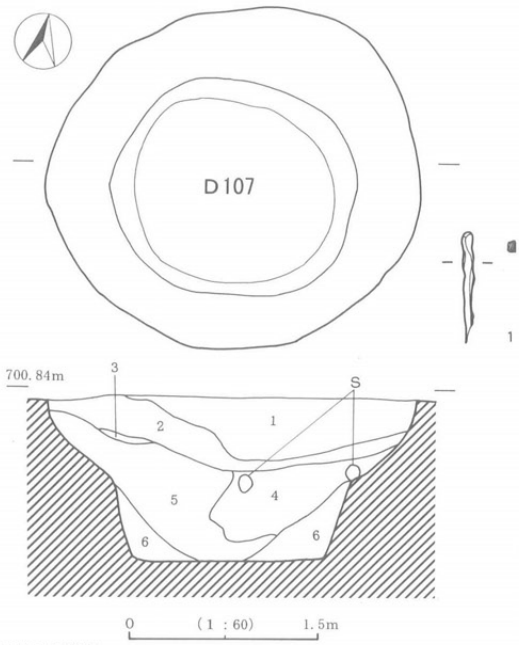
８．硯（粘板岩製）９．磨石（軽石製）

10．石臼（下臼、安山岩）、土鍋２

貝（アカニシ）・獣骨

写真81　D80号井戸跡（南より）

3）D107号井戸跡



D107土層説明

1．褐色土層（10YR4/4）　ロームブロックと黒褐色土ブロック混在土。
2．黒褐色土層（10YR2/2）　ローム粒子・小石わずかに含む。
3．黒褐色土層（10YR2/2）　灰・茅状炭化物含む。
4．灰褐色土層（7.5YR6/2）　ローム主体。
5．黒褐色土層（10YR2/3）　所々にロームブロック・褐色砂ブロック含む。
6．褐色土層（10YR4/6）　褐色砂主体。上面に黒褐色土の薄層あり。

第36図　D107号井戸跡

検出位置　Eう6　形態　ⅡA5

重複関係　なし。

規模　292cm×270cm×〈160〉cm

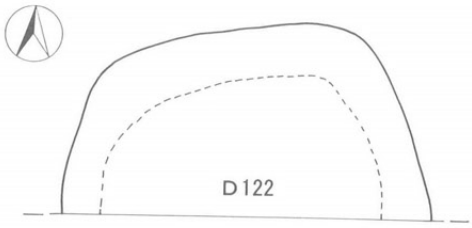
長軸範囲　N－78°－W

出土遺物　1．角釘、須恵器甕・杯、土師器碗・杯

写真82　D107号井戸跡土層堆積状態（南より）

写真83　D107号井戸跡（南より）

４）Ｄ122号井戸跡

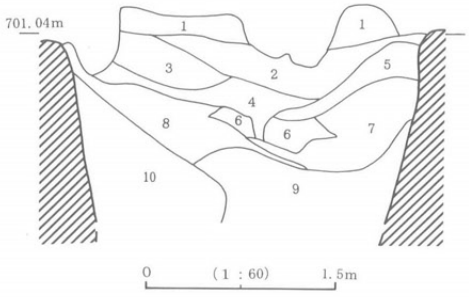


検出位置　Ｆあ１　**形態**　ⅡＡ５

重複関係　南半域は区域外。

規模　291cm×〈152〉cm ×〈149〉cm

出土遺物　１．青磁蓮弁文碗（13Ｃ後～14Ｃ前半）２．青銅製煙管、かわらけ、須恵器甕、土師器甕

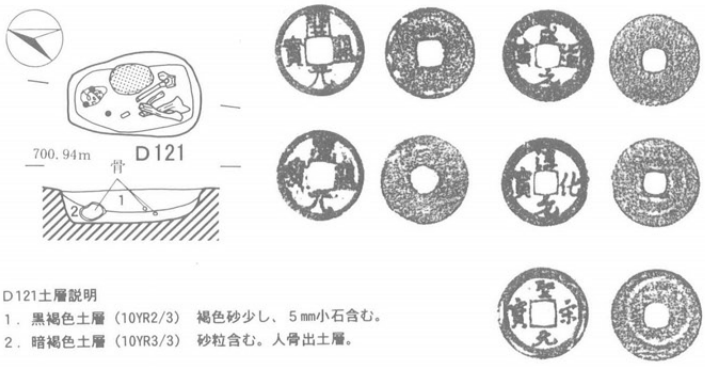


Ｄ122土層説明
１．にぶい黄褐色土層（10YR4/3）　褐色砂主体。黒褐色土ブロック混。
２．黒褐色土層（10YR2/2）　褐色砂・小石含む。
３．１層と同じ。
４．黒褐色土層（10YR2/3）　１層より褐色砂多い。
５．１．３層と同じ。
６．暗褐色土層（10YR3/4）　褐色砂主体。
７．黒褐色土層（10YR2/3）　砂・砂ブロック多く含む。
８．褐色土層（10YR4/3）　褐色砂主体。
９．黒褐色土層（10YR2/2）　砂含む。
10．褐色土層（10YR4/4）　褐色砂主体。

第37図　Ｄ122号井戸跡

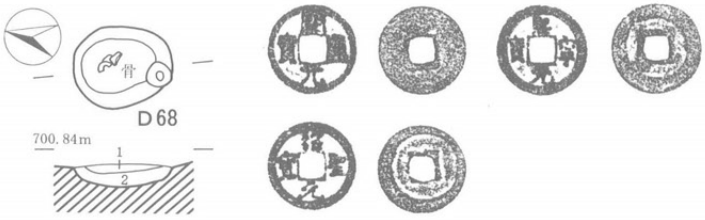
写真84　Ｄ122号井戸跡（北より）

第４節　土壙墓



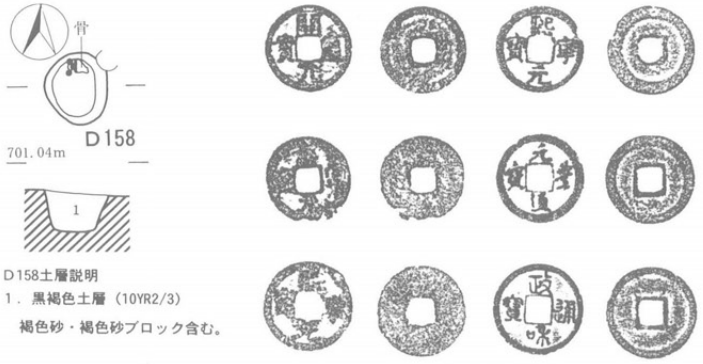
D121土層説明
1．黒褐色土層（10YR2/3）　褐色砂少し、５㎜小石含む。
2．暗褐色土層（10YR3/3）　砂粒含む。人骨出土層。

D121号土壙墓（ＩＤ３）
検出位置　Ｅう10
重複関係　－
規模　105cm×67cm×28
長軸方位　Ｎ－25°－Ｗ
出土遺物　渡来銭、人骨



D68土層説明
1．黒褐色土層（10YR2/2）　褐色砂含む。
2．黒褐色土層（10YR2/3）　褐色砂含む。

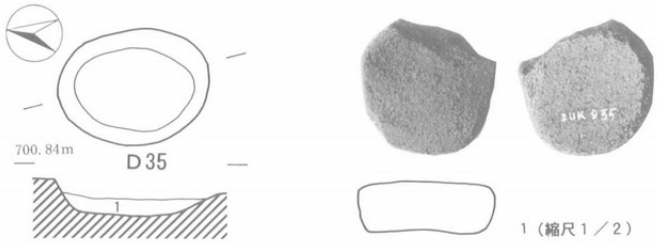
D68号土壙墓（ＩＩＢ２）
検出位置　Ｂこ３
重複関係　Ta21を切る。
規模　78cm×66cm×15cm
長軸方位　Ｎ－17°－Ｗ
出土遺物　渡来銭、人頭骨



D158土層説明
1．黒褐色土層（10YR2/3）
褐色砂・褐色砂ブロック含む。

●は渡来銭出土地点

D158号土壙墓（ＩＩＢ１）
検出位置　Ｂけ10
重複関係　Ｐ37に切られる。
規模　57cm×48cm×32cm
長軸方位　Ｎ－20°－Ｗ
出土遺物　渡来銭、骨



D35土層説明
1．黒褐色土層（10YR2/2）　炭化物粒子わずかに含む。
1．黒褐色土層（10YR2/3）　褐色砂・褐色砂ブロック含む。
褐色砂・小石含む。

D35号土壙墓（ＩＩＢ３）
検出位置　Ｂく４
重複関係　－
規模　120cm×92cm×24cm
長軸方位　Ｎ－５°－Ｗ
出土遺物　土版、獣骨

0　（1：60）　1.5m

第38図　土壙墓（D121・D68・D158・D35）

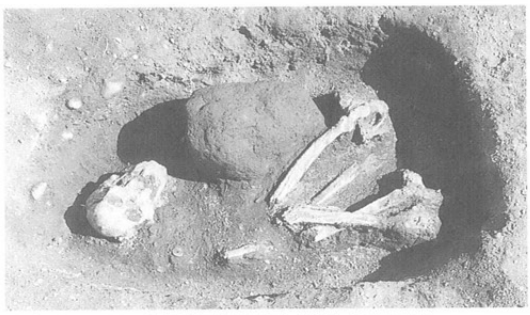


写真85　D121号土壙墓骨出土状態（西より）

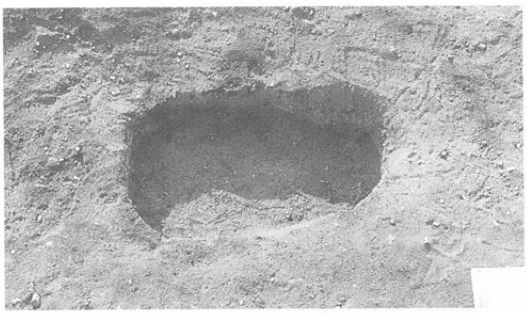


写真86　D121号土壙墓（東より）

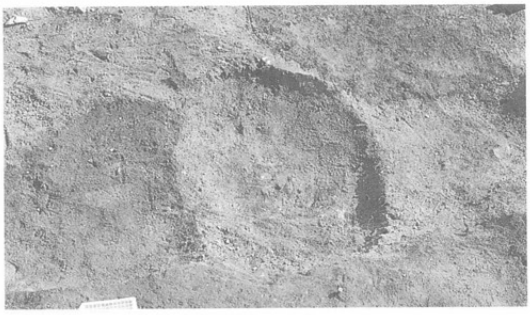


写真87　D35号土壙墓（北より）

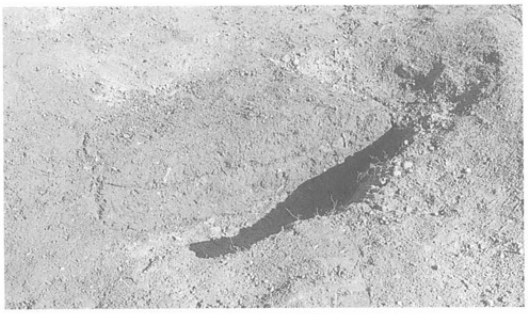


写真88　D68号土壙墓土層堆積状態（西より）

写真89　D68号土壙墓（北より）

写真90　D68号土壙墓（北より）

写真91　D158号土壙墓（東より）

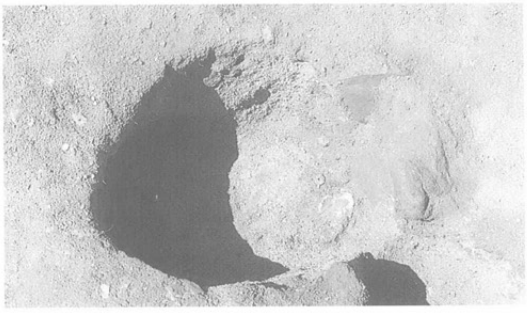


写真92　D158号土壙墓（東より）

第５節　土坑　（土坑の掲載ページは第10表　観音堂遺跡土坑一覧を参照）

本遺跡からは170基の土坑が検出され、使用目的が推測可能な土坑については井戸跡・土壙墓としてすでに記載した。残りの162基の土坑はその性格について形態・規模などで分類し共通性を見いだしたい。ここでは『北栗遺跡』（注1）の土坑の分類に沿って行ってみた。

形　態	長短軸値	規　模
Ⅰ．方形を基本形	A．１：１～10：９（１～0.9）	１．長軸　65cm 未満
Ⅱ．円形を基本形	B．10：９～３：２（0.9～1.5）	２．長軸　65～90cm
Ⅲ．不整形	C．３：２～２：１（1.5～２）	３．長軸　90～170cm
	D．２：１～（２～）	４．長軸　170～250cm
		５．長軸　250cm

※ＩＡ１（正方形・小規模）・ＩＡ２・ＩＢ１・ＩＢ２　該当土坑なし。

第39図　Ⅰ（方形）土坑分布図(1:400)

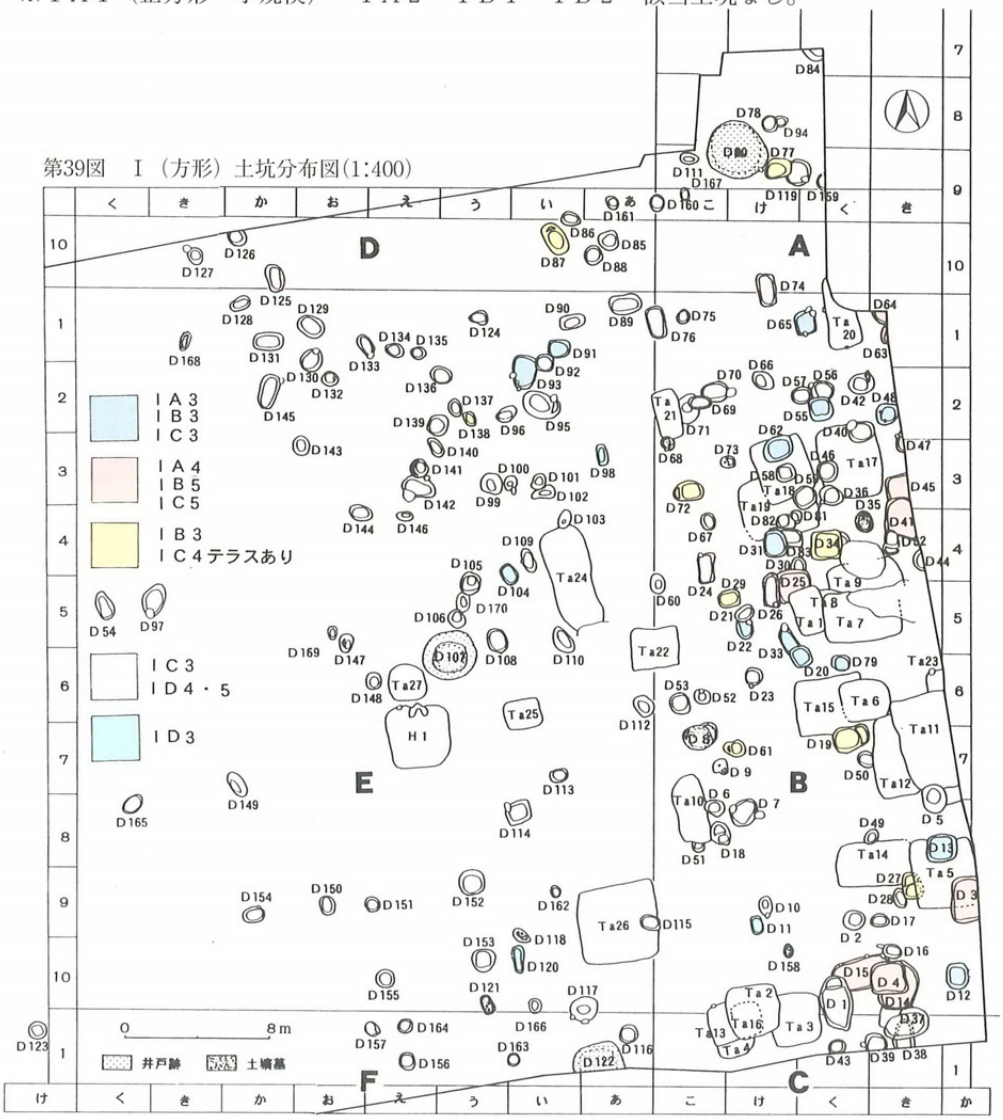


写真93　D12号土坑土層堆積状態（西より）

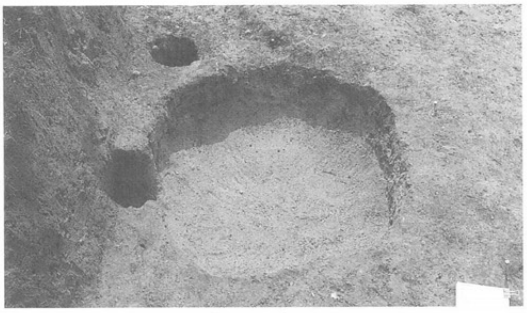


写真94　D12号土坑（北より）

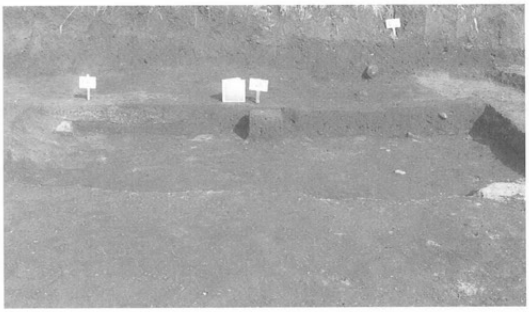


写真95　D13号土坑土層堆積状態（西より）

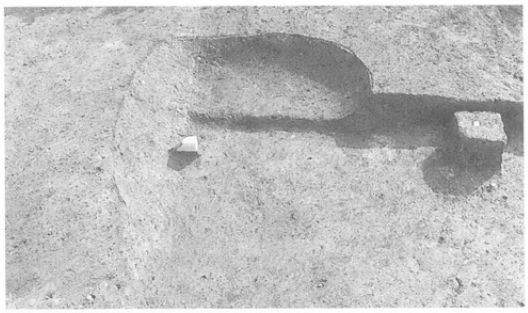


写真96　D13号土坑（南より）

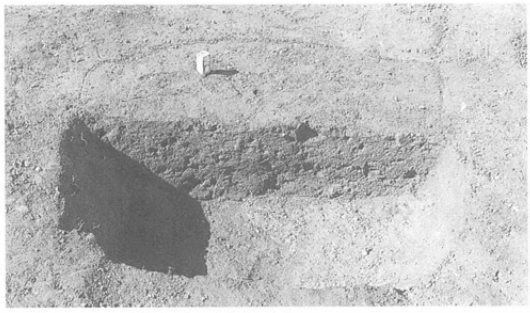


写真97　D20号土坑（南より）

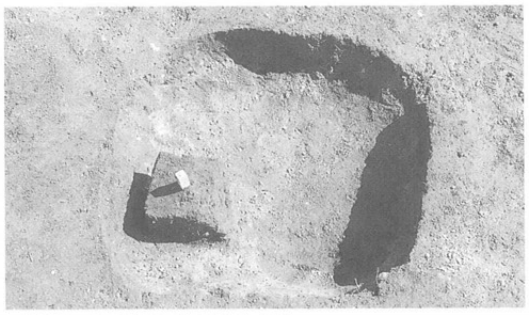


写真98　D20号土坑（西より）

写真99　D48号土坑（南より）

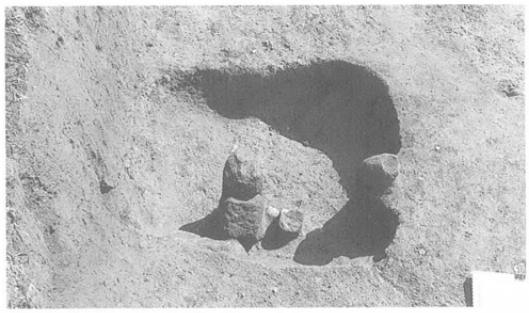
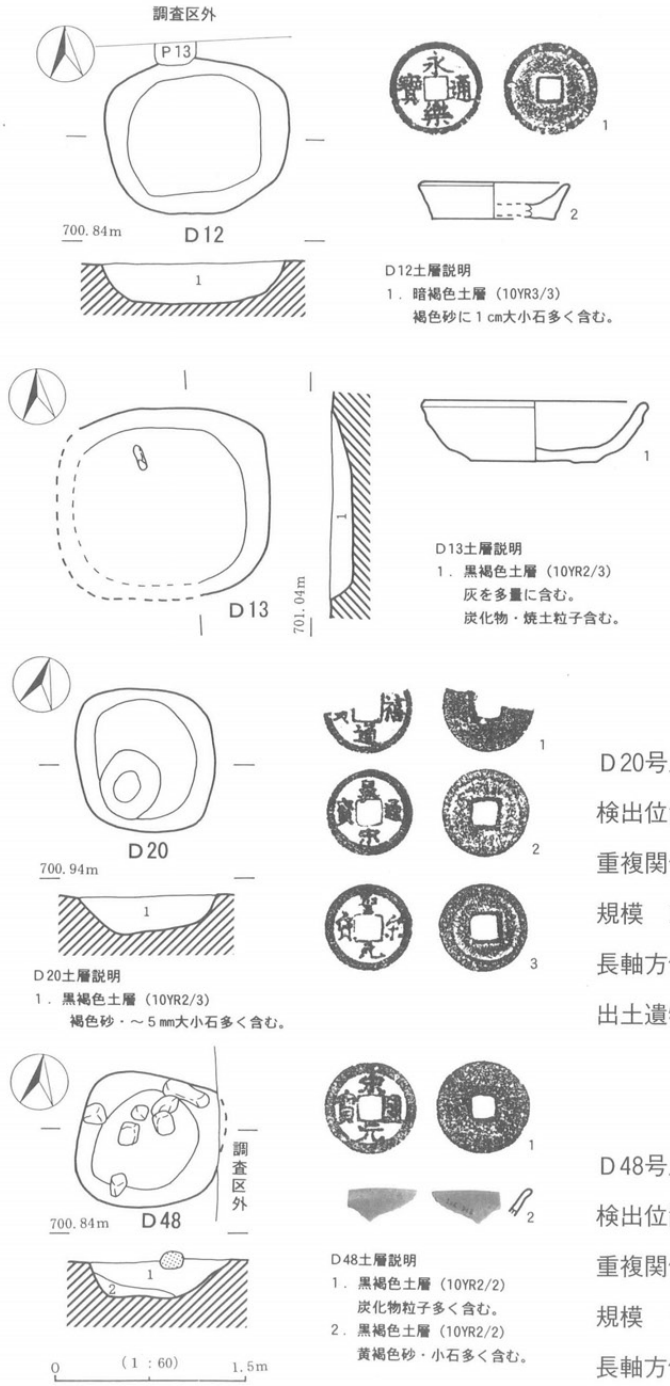


写真100　D48号土坑（北より）

1）ＩＡ３（正方形・中規模）　D12・D13・D20・D48・D55・D58・D65・D79・D114

（竪穴建物跡より新しい遺構。浅く底面が平坦）



第40図　ＩA3土坑（D12・D13・D20・D48）

D12号土坑

検出位置　Bか10

重複関係　P13に切られる。

規模　142cm×124cm×33cm

長軸方位　N－0°

出土遺物　1．永楽通寶

2．かわらけ

D13号土坑

検出位置　Bき8

重複関係　Ta５を切る。

規模　143cm×146cm×18cm

長軸方位　－

出土遺物　1．かわらけ

染付椀（時期不明）

D20号土坑

検出位置　Bけ6

重複関係　D33を切る。

規模　114cm×108cm×32cm

長軸方位　N－25°－W

出土遺物　1．○禧通寶　2．高宋通寶

3．聖宋元寶　かわらけ

D48号土坑

検出位置　Bき2

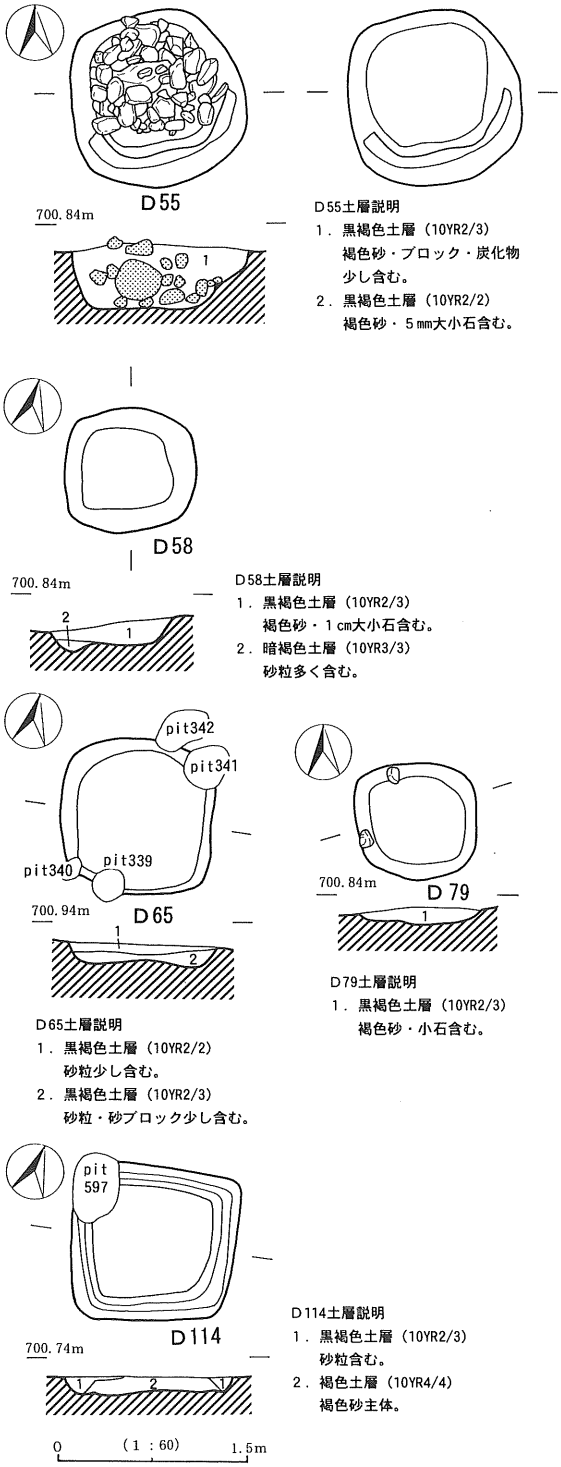
重複関係　－

規模　〈110〉cm ×104cm ×30cm

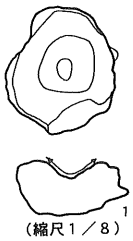
長軸方位　N－46°－E

出土遺物　Ⅰ．宋通元寶、2．瀬戸・美濃

Ⅲ（近世？）、かわらけ1



第41図　ＩＡ3土坑（D55・D58・D65・D79・D114）



D55号土坑

出土位置　Ｂく２

重複関係　D56を切る

規模　140cm×137cm×51cm

長軸方位　Ｎ－63°－Ｗ

出土遺物　１．凹石（軽石製）、土鍋２

その他　多量礫含む。貝（アカニシ）

D58号土坑

出土位置　Ｂけ３

重複関係　Ta18を切る。

規模　104cm×99cm×18cm

長軸方位　Ｎ－85°－Ｅ　出土遺物　－

D65号土坑

出土位置　Ｂく１

重複関係　Ｐ339・340・341・342に切られる。

規模　124cm×116cm×15cm

長軸方位　Ｎ－18°－Ｗ

出土遺物　－

D79号土坑

出土位置　Ｂく６

重複関係　－

規模　94cm×90cm×15cm

長軸方位　Ｎ－０°

出土遺物　土師器１

D114号土坑

出土位置　Ｅい・う８

重複関係　Ｐ597に切られる。

規模　130cm×122cm×15cm

長軸方位　Ｎ－76°－Ｅ

出土遺物　－

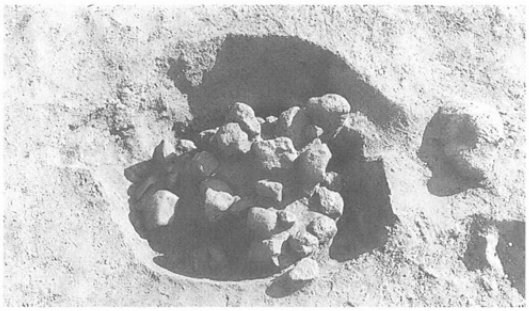


写真101　D55号土坑礫出土状態（北より）

写真102　D55号土坑礫出土状態（北より）

写真103　D55号土坑（北より）

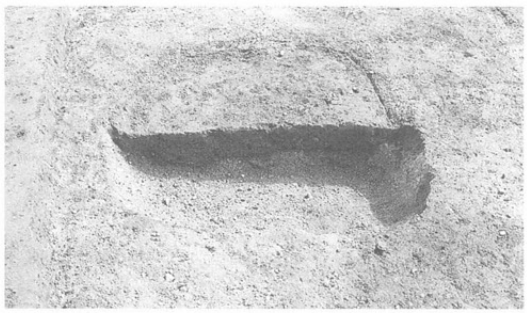


写真104　D58号土坑土層堆積状態（西より）

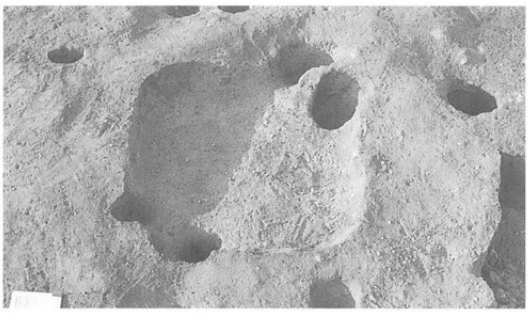


写真105　D65号土坑（南より）

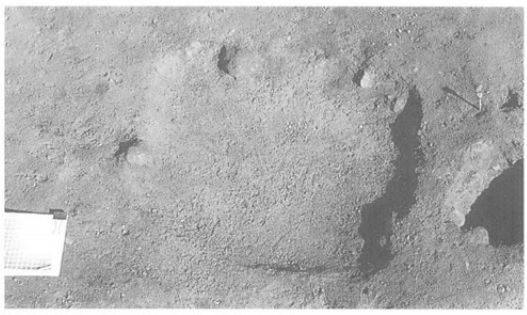


写真106　D79号土坑（南より）

写真107　D114号土坑土層堆積状態（南より）

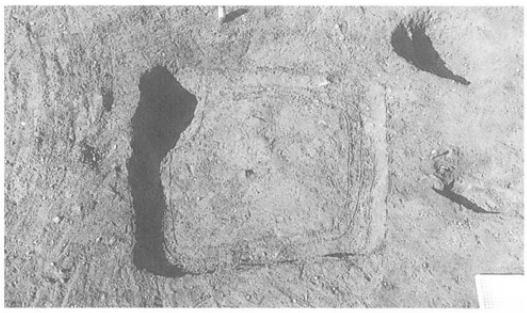
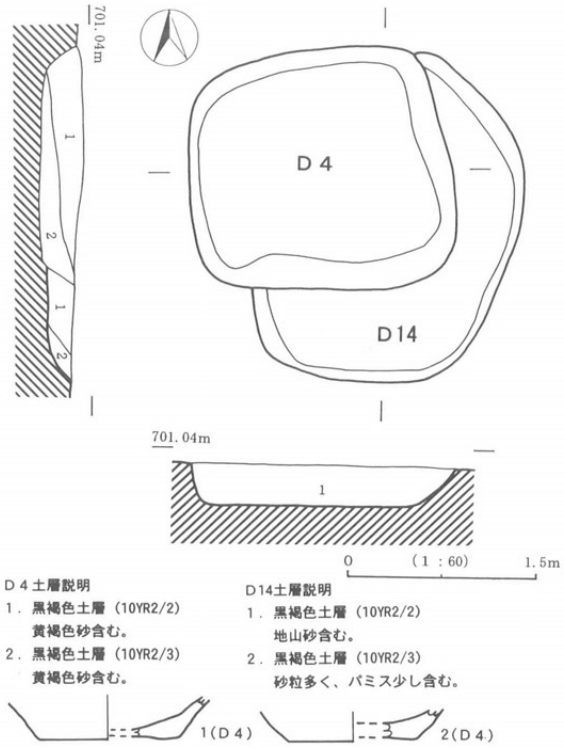


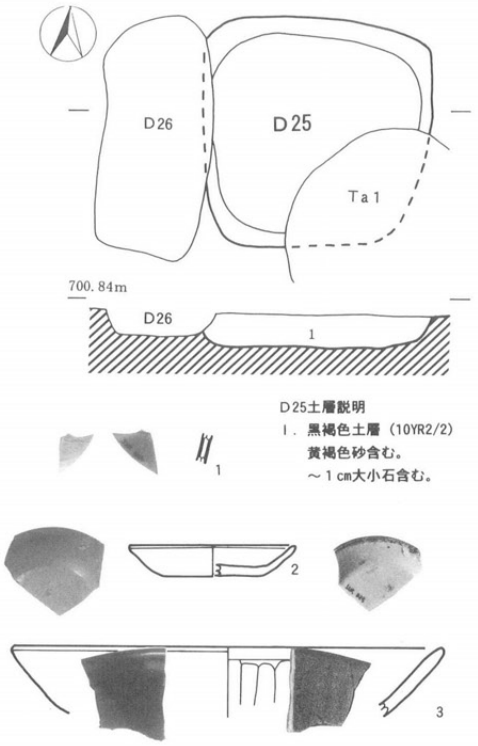
写真108　D114号土坑（南より）

２）ＩＡ４（正方形・大きい）　Ｄ４・D25（竪穴状遺構との差異なし。）

ＩＢ５（やや長方形、大きい）D14、ＩＣ５（長方形・大きい）D15（　〃　）



第42図　ＩA4・ＩA5土坑（D4・14）



第43図　ＩA4土坑（D25）

Ｄ４号土坑

出土位置　Ｂき10

重複関係　D14・15を切る。

規模　206cm×191cm×32cm

長軸方位　Ｎ－17°－Ｅ

出土遺物　１・２．かわらけ、土鍋１

D14号土坑（ＩＢ５）

出土位置　Ｂき10

重複関係　Ｄ４に切られる。

規模　266cm×〈193〉cm×24cm

長軸方位　Ｎ－30°－Ｅ　出土遺物　－

Ｄ25号土坑

出土位置　Ｂけ５

重複関係　Ta１とD26に切られる。D30を切る。

規模　184cm×173cm×27cm

長軸方位　Ｎ－17°－Ｗ

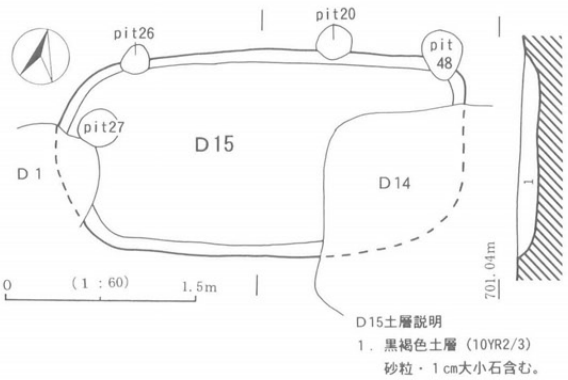
出土遺物

１．青磁蓮弁文碗（龍泉窯系13Ｃ後～14Ｃ前半）

２．白磁小皿（口禿げ、中国産、13Ｃ後半～14Ｃ前半）

３．青磁鉢（龍泉窯系14Ｃ末～15Ｃ前半）

かわらけ１



第44図　ＩＣ５土坑（D15）

D15号土坑（ＩＣ５）

検出位置　Bく10

重複関係　D１・４・14、P20・26・27・48に切られる。

規模　319cm×162cm×15cm

長軸方位　N－78°－E

出土遺物　－

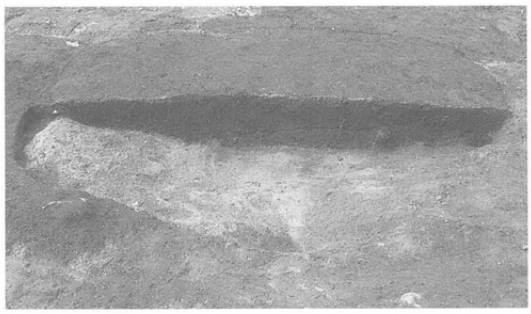


写真109　D4号土坑土層堆積状態（南より）

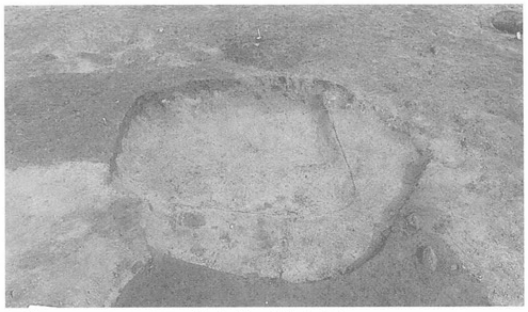


写真110　D4・D14号土坑（南より）

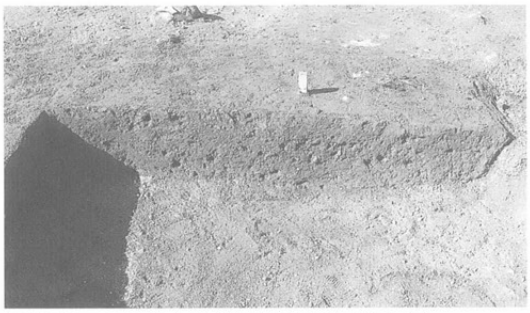


写真111　D25号土坑土層堆積状態（南より）

写真112　D25号土坑（南より）

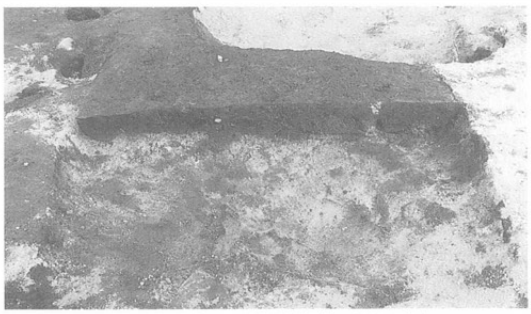
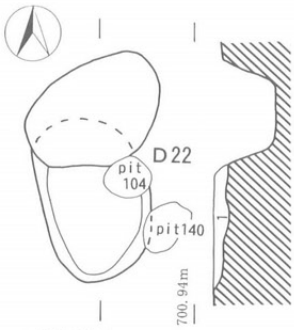


写真113　D15号土坑土層堆積状態（西より）

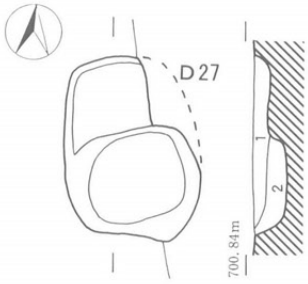
写真114　D15号土坑（西より）

３）ＩＢ３（やや長方形・中規模）D22・D27・D29・D31・D32・D61・D77・D104・D115

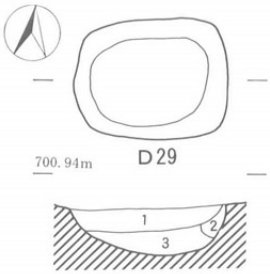
ＩＢ４（やや長方形・大きい）D34・D62。（D22・D31・D104・D115・D62はＩＢ２に同類。他は深く、短辺に浅いテラスを持っている。）



D22土層説明
1．黒褐色土層（10YR2/2）
灰・炭化物わずかに含む。
地山砂・～３cm大小石含む。



D27土層説明
1．黒褐色土層（10YR2/2）
砂粒・５mm大小石・炭化物少し含む。
2．暗褐色土層（10YR3/3）
砂粒多く含む。１cm小石含む。



D29土層説明
1．黒褐色土層（10YR2/2）
黒褐色土ブロックと黄褐色砂ブロック混合層。
2．黒褐色土層（10YR2/2）黄褐色砂含む。
3．暗褐色土層（10YR3/3）
黄褐色砂多量に含む。

D22号土坑

検出位置　Ｂけ５

重複関係　D21、P104・140に切られる。

規模　〈110〉cm×86cm×12cm

長軸方位　N－17°－E

D27号土坑

検出位置　Ｂき９

重複関係　Ta５に切られる。

規模　140cm×〈101〉cm×24cm

長軸方位　N－11°－E

出土遺物　－

D29号土坑

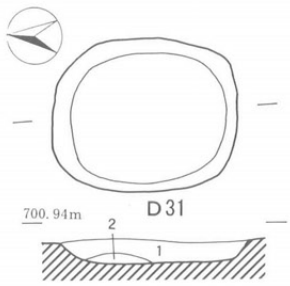
検出位置　Ｂけ５

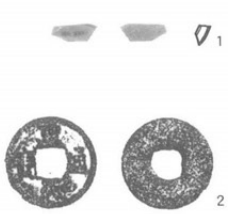
重複関係　－

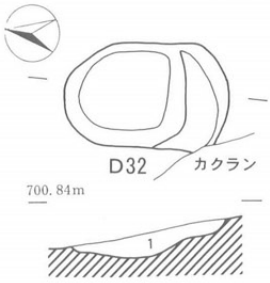
規模　124cm×96cm×36cm

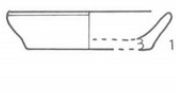
長軸方位　N－80°－E

出土遺物　－





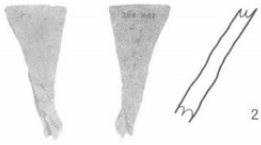




D31土層説明
1．黒褐色土層（10YR2/2）
地山砂多く含む。～５cm大小石多く含む。
2．黒褐色土層（10YR2/3）
地山砂多量に含む。

0　（1：60）　1.5m

D32土層説明
1．黒褐色土層（10YR2/3）
地山砂多く含む。
２cm大小石含む。



第45図　ＩＢ３土坑（D22・D27・D29・D31・D32）

D31号土坑

検出位置　Ｂけ４　重複関係　D83を切る。

規模　146cm×122cm×16cm　長軸方位　N－38°－W

出土遺物　１．青磁碗（中国産、中世）、

２．○○通寶、ウシ（歯）

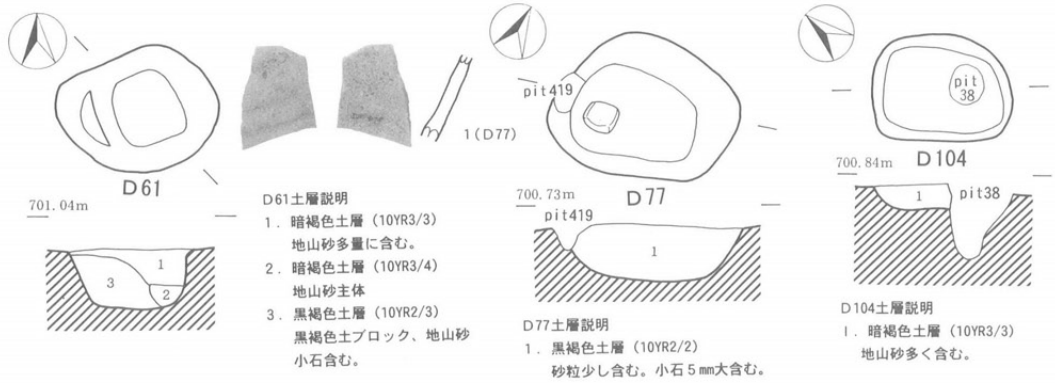
D32号土坑

検出位置　Ｂき４　重複関係　D41を切る。

規模　130cm×84cm×16cm

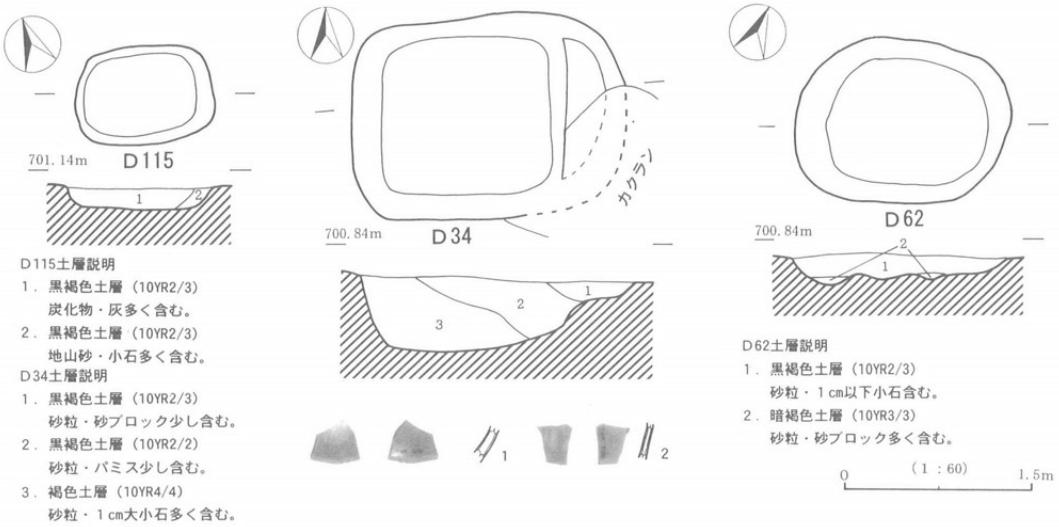
長軸方位　N－10°－W

出土遺物　１．かわらけ２．山茶椀系捏鉢



遺構名	出土位置	重　複　関　係	規　模(長×短×深さ)	長軸方位	遺　物
D61	Bけ７	－	130×96×50(cm)	N－84°－W	－
D77	Aけ９	D119を切る。	146×116×44	N－62°－E	あり
D104	Eい４	－	112×86×20	N－40°－W	－

D77出土遺物　山茶椀系捏鉢（13C）



第46図　ＩＢ３土坑（D61・D77・D104・D115）ＩＢ４土坑（D34・D62）

ＩＢ４

遺構名	出土位置	重　複　関　係	規　模(長×短×深さ)	長軸方位	遺　物
D115	Eあ９	Ta26を切る。	110×78×21(cm)	N－70°－W	－
D62	Bけ３	Ta18を切る。	172×160×21	N－64°－E	あり

D62出土遺物　かわらけ、すり面のある黒曜石、ネズミ（下顎）

Ｄ34号土坑（ＩＢ４）

規模　216cm×160cm×57cm　　**長軸方位**　Ｎ－90°－Ｗ

出土遺物　１．青磁蓮弁文小鉢？（龍泉窯系、13Ｃ後半～14Ｃ前半）２．青磁蓮弁文碗（龍泉窯系、13Ｃ）、古瀬戸灰釉おろし皿（14Ｃ後半、Ｄ67と接合）

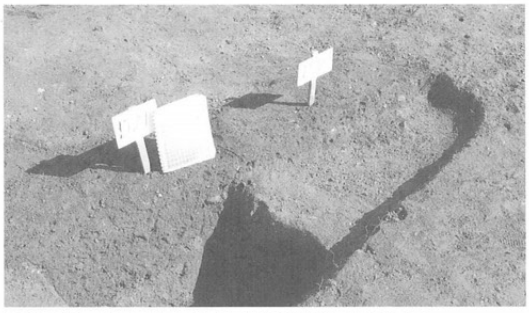


写真115　Ｄ22号土坑土層堆積状態（西より）

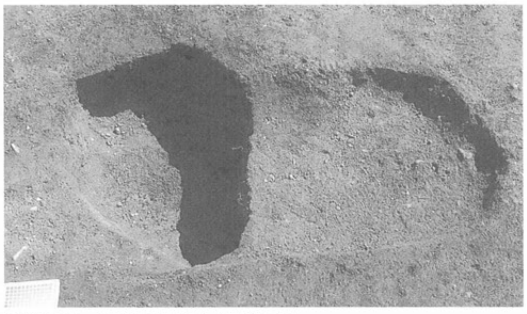


写真116　Ｄ22号土坑（西より）

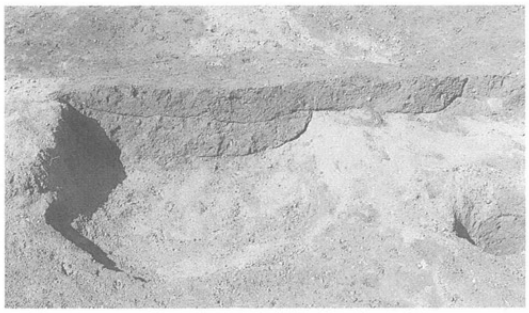


写真117　Ｄ27号土坑土層堆積状態（東より）

写真118　Ｄ27号土坑（東より）

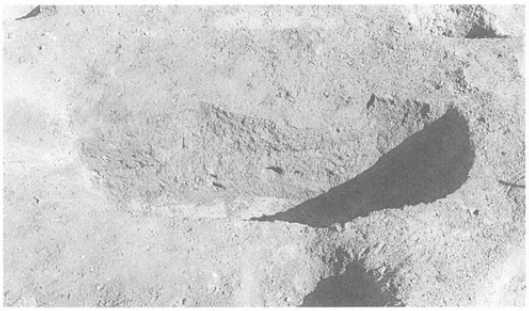


写真119　Ｄ29号土坑土層堆積状態（南より）

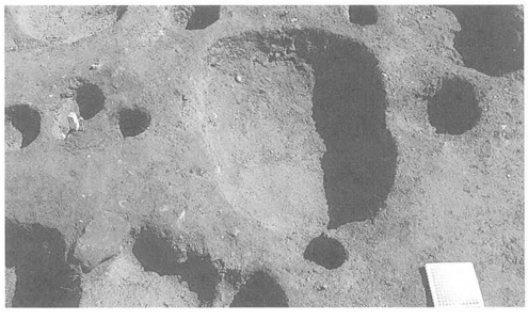


写真120　Ｄ29号土坑（西より）

写真121　D31号土坑土層堆積状態（東より）

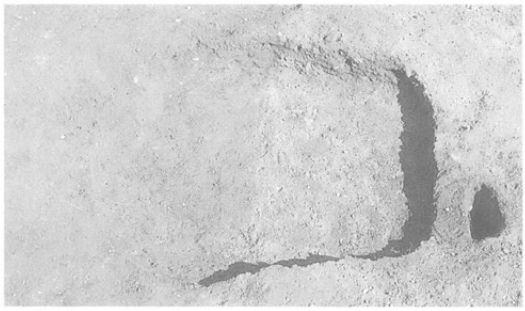


写真122　D31号土坑（西より）

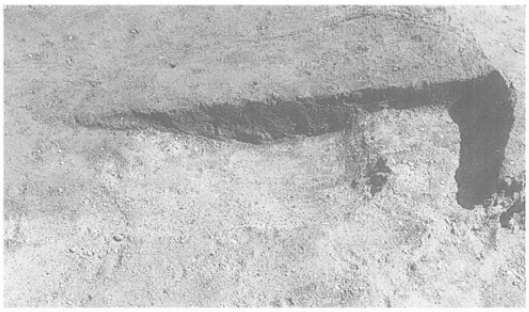


写真123　D32号土坑土層堆積状態（西より）

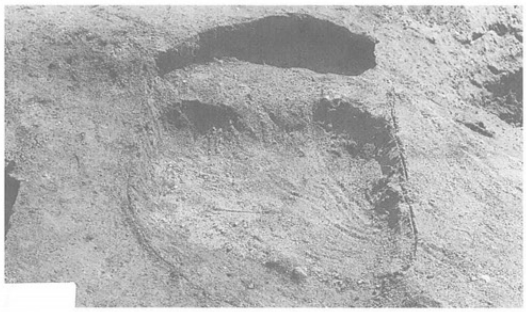


写真124　D32号土坑（北より）

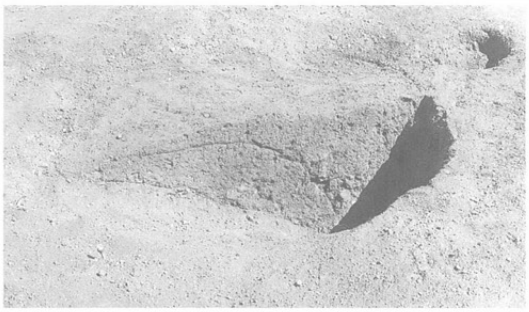


写真125　D61号土坑土層堆積状態（西より）

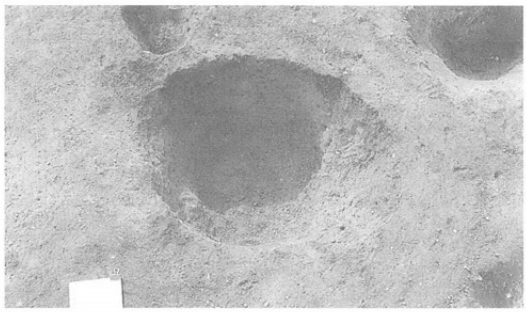


写真126　D61号土坑（北より）

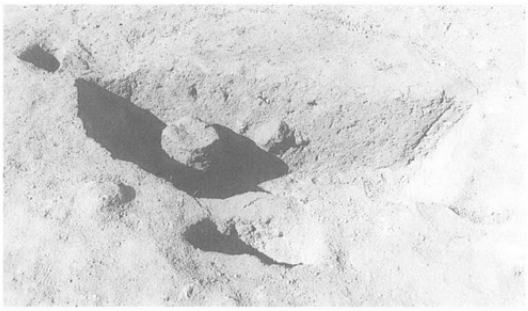


写真127　D77号土坑土層堆積状態（南より）

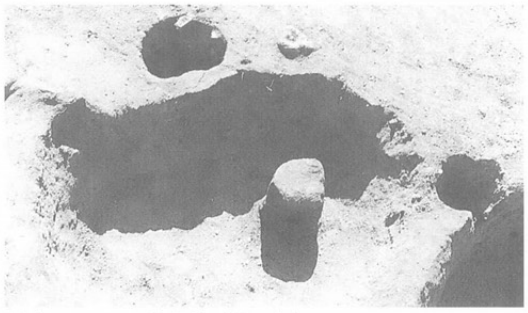


写真128　D77号土坑（北より）

写真129　D104号土坑土層堆積状態（東より）

写真130　D104号土坑（北より）

写真131　D115号土坑土層堆積状態（南より）

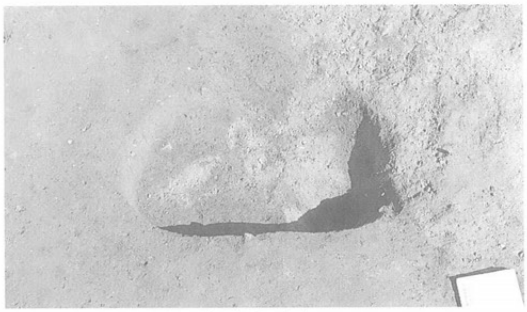


写真132　D115号土坑（南より）

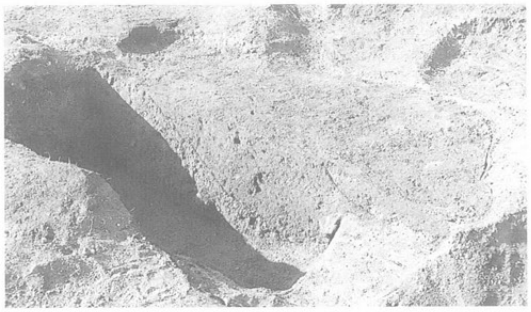


写真133　D34号土坑土層堆積状態（南より）

写真134　D34号土坑（北より）

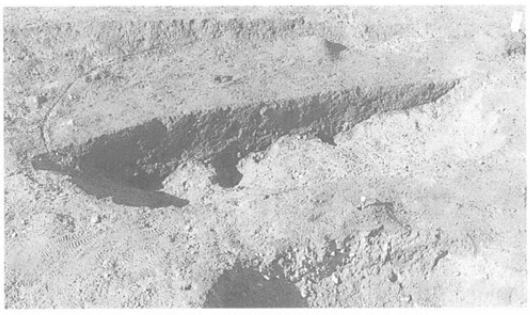
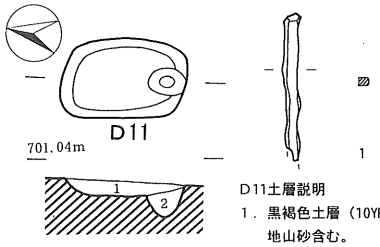


写真135　D62号土坑土層堆積状態（南より）

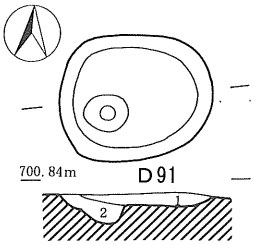
写真136　D62号土坑（北より）

4）ＩＣ３（長方形・中規模）浅く底面が平坦ＩＡ３と同類。D11・D91

ＩＣ４（長方形・大きい）　　〃　　D33・D93



D11土層説明
1．黒褐色土層（10YR2/3）
地山砂含む。
2．黒褐色土層（10YR3/2）
地山砂含む。



D91土層説明
1．黒褐色土層（10YR2/3）
砂粒・１cm以下小石含む。
2．褐色土層（10YR4/4）
砂主体。１cm以下の小石含む。

D11号土坑

検出位置　Bけ９

重複関係　－

規模　100cm×60cm×12cm

長軸方位　N－10°－W

出土遺物　１．角釘、土鍋１

D91号土坑

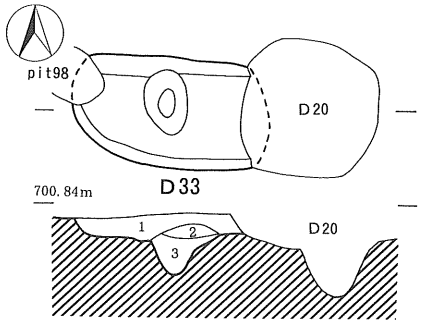
検出位置　Eい１

重複関係　－

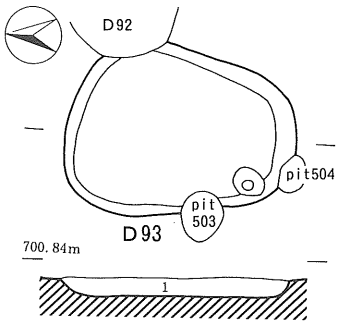
規模　124cm×99cm×９cm

長軸方位　N－58°－E

出土遺物　－



D33土層説明
1．黒褐色土層（10YR2/2）
地山砂・～３cm大小石含む。
2．黒褐色土層（10YR2/3）
地山砂多く含む。
3．暗褐色土層（10YR3/3）



D93土層説明
1．黒褐色土層（10YR３/2）
砂粒・パミス・５mm大小石含む。

0　（1：60）　1.5m

第47図　ＩＣ３（D11・D91）ＩＣ４（D33・D93）

D33号土坑（ＩＣ４）

検出位置　Bけ５

重複関係　D20、P98に切られる。

規模　140cm×88cm×21cm

長軸方位　N－37°－W

出土遺物　－

D93号土坑（ＩＣ４）

検出位置　Eい２

重複関係　D92に切られる。

規模　184cm×140cm×17cm

長軸方位　N－１°－W

出土遺物　鉄滓１

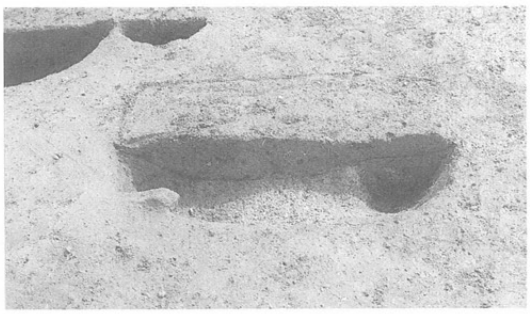


写真137　D11号土坑土層堆積状態（西より）

写真138　D11号土坑（東より）

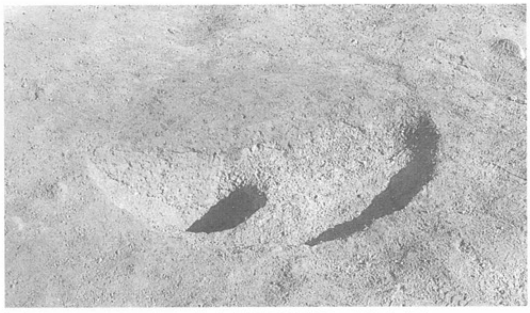


写真139　D91号土坑土層堆積状態（南より）

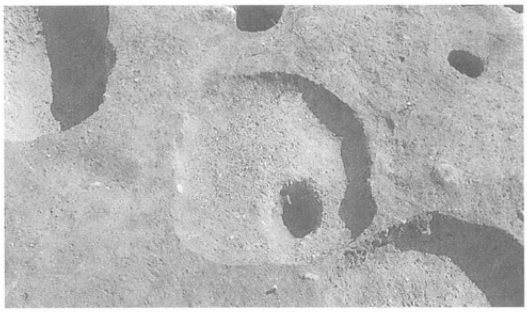


写真140　D91号土坑（西より）

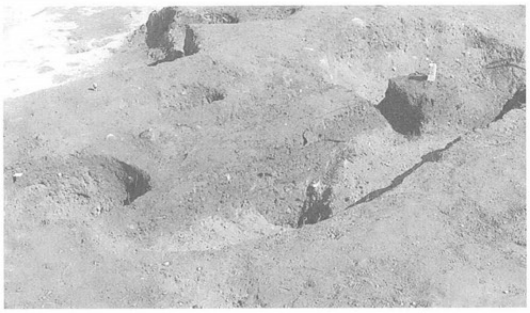


写真141　D33号土坑土層堆積状態（西より）

写真142　D33号土坑（北より）

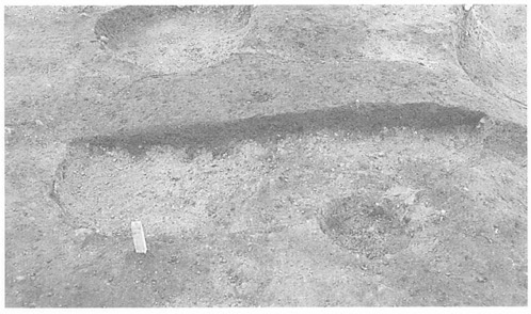


写真143　D93号土坑土層堆積状態（西より）

写真144　D93号土坑（西より）

ＩＣ３（長方形、大きい）深さのあるもの

第48図　ＩＣ３土坑（D24・D69・D74・D76）

D24号土坑

検出位置　Ｂこ４　重複関係　Ｐ194に切られる。

規模　166cm×88cm×42cm

長軸方位　Ｎ－0°

出土遺物　かわらけ１、土鍋１、貝（ハマグリ）

D69号土坑

検出位置　Ｂこ２　重複関係　－

規模　〈116〉cm×60cm×55cm

長軸方位　Ｎ－77°－Ｅ

出土遺物　－

D74号土坑

検出位置　Ａけ10

重複関係　－

規模　172cm×92cm×27cm

長軸方位　Ｎ－11°－Ｗ

出土遺物　１．祥符元寶、土鍋３、貝（ハマグリ）

D76号土坑

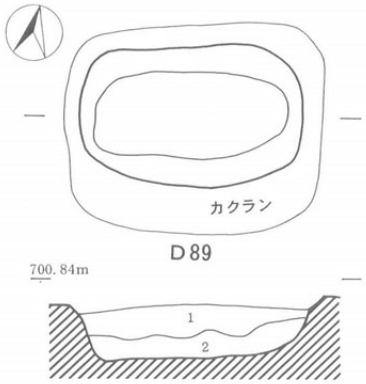
検出位置　Ｂこ１

重複関係　－

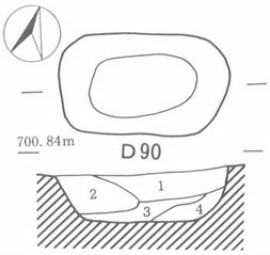
規模　176cm×96cm×52cm

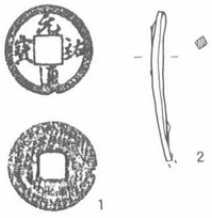
長軸方位　Ｎ－10°－Ｅ

出土遺物　－



D89土層説明
1．暗褐色土層（10YR3/3）
炭化物少し、砂粒・
砂ブロック多く含む。
2．褐色土層（10YR4/4）
砂主体。





D90土層説明
1．黒褐色土層（10YR2/3）
炭化物少し含む。
砂粒・１cm以下小石含む。
2．暗褐色土層（10YR3/3）
砂主体。１cm以下小石含む。
3．黒褐色土層（10YR2/2）
炭化物・焼土含む。砂粒含む。
4．２層と同じ。

D89号土坑

検出位置　Eあ１

重複関係　上面攪乱により破壊。

規模　〈176〉cm×〈110〉cm×〈45〉cm

長軸方位　N－80°－E

出土遺物　貝（アカニシ）

D90号土坑

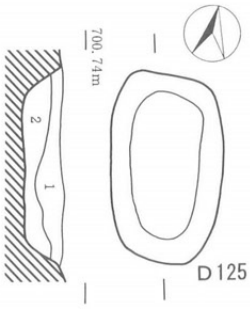
検出位置　Eい１

重複関係　－

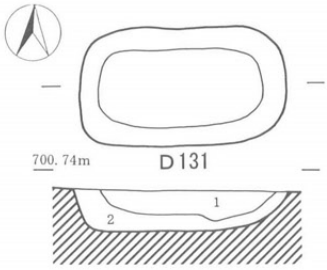
規模　134cm×78cm×42cm

長軸方位　N－70°－E

出土遺物　１．元祐通寶２．角釘



D125土層説明
1．黒褐色土層（10YR2/2）
砂粒・パミス・
５mm大小石少し含む。
2．黒褐色土層（10YR2/3）
パミス・砂粒含む。



D131土層説明
1．黒褐色土層（10YR2/2）
パミス・砂粒少し含む。
2．にぶい黄褐色土層（10YR4/3）
パミス・砂粒含む。

0　（1：60）　1.5m

第49図　ＩＣ３土坑（D89・D90・D125・D131）

D125号土坑

検出位置　Eか１

重複関係　－

規模　150cm×88cm×31cm

長軸方位　N－20°－W

出土遺物　－

D131号土坑

検出位置　Eか１

重複関係　－

規模　164cm×92cm×36cm

長軸方位　N－90°

出土遺物　－

写真145　D24号土坑土層堆積状態（北より）

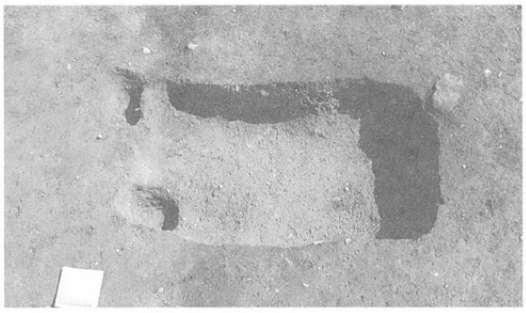


写真146　D24号土坑（西より）

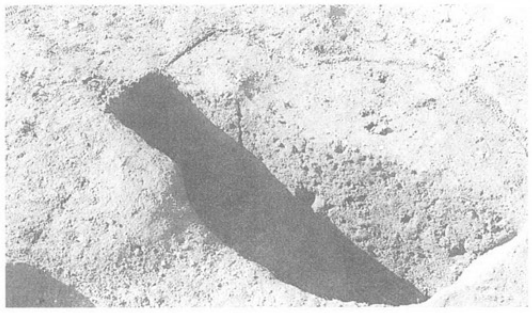


写真147　D69号土坑土層堆積状態（南より）

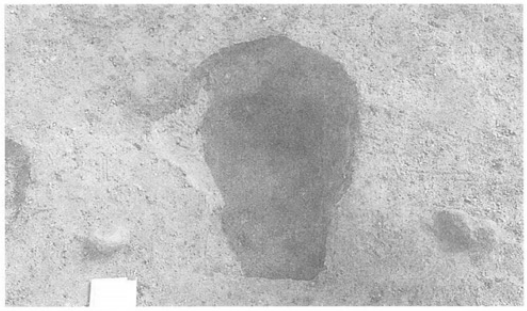


写真148　D69号土坑（西より）

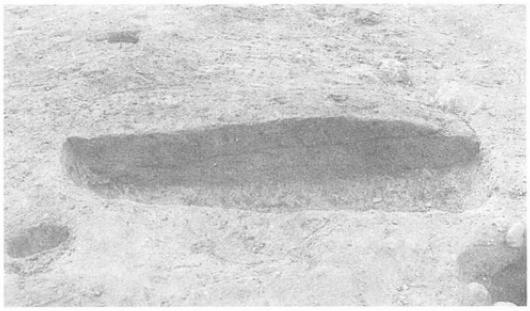


写真149　D74号土坑土層堆積状態（東より）

写真150　D74号土坑（西より）

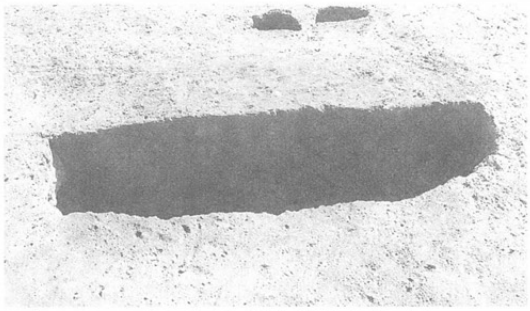


写真151　D76号土坑土層堆積状態（西より）

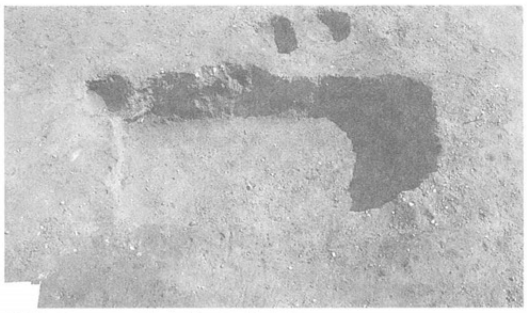


写真152　D76号土坑（西より）

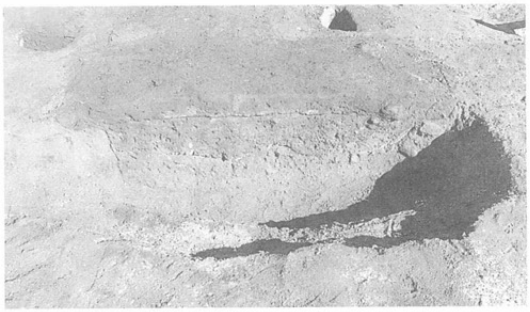


写真153　D89号土坑土層堆積状態（南より）

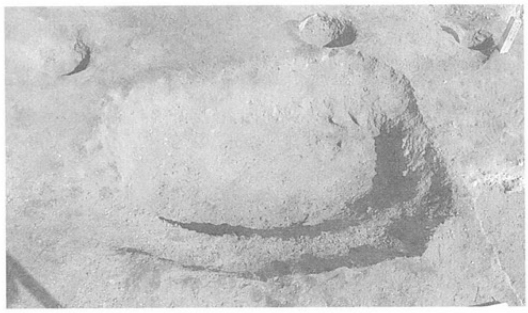


写真154　D89号土坑（南より）

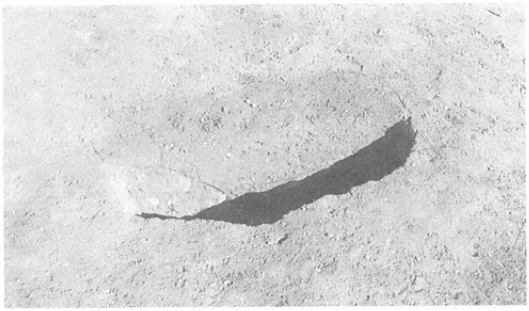


写真155　D90号土坑土層堆積状態（南より）

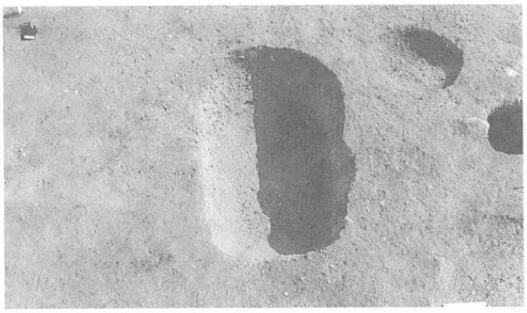


写真156　D90号土坑（西より）

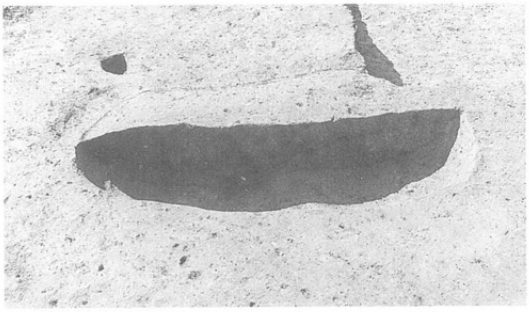


写真157　D125号土坑土層堆積状態（東より）

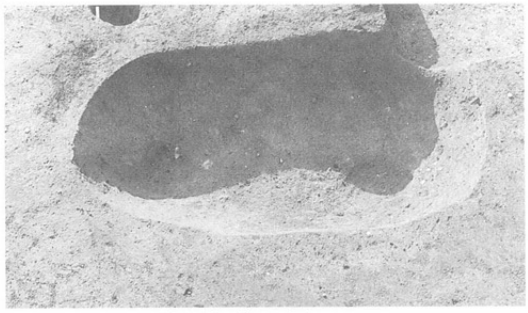


写真158　D125号土坑（東より）

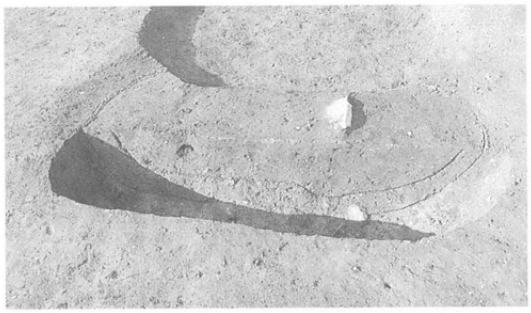


写真159　D131号土坑土層堆積状態（南より）

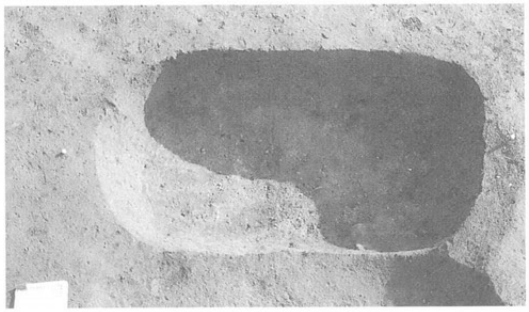
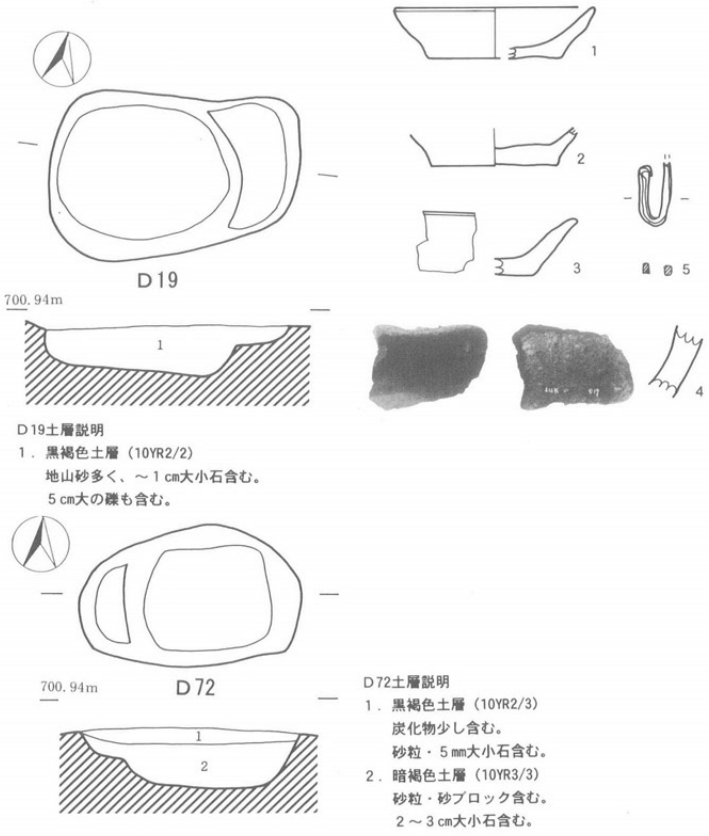
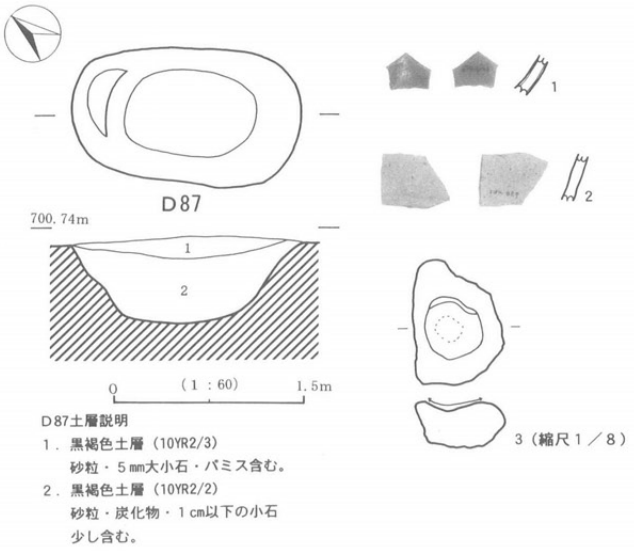


写真160　D131号土坑（北より）

ＩＣ４（長方形・大きい）テラスあり、楕円に近い。D19・D72・D87





第50図　ＩＣ４土坑（D19・D72・D87）

D19号土坑

検出位置　Bく7

重複関係　Ta15を切る。

規模　196cm×122cm×42cm

長軸方位　N－18°－W

出土遺物

1～3．かわらけ

4．瓦質擂鉢（13C末～14C前半）

5．角釘、土鍋3

D72号土坑

検出位置　Bこ3

重複関係　－

規模　172cm×110cm×48cm

長軸方位　N－85°－E

出土遺物　－

D87号土坑

検出位置　Dい10

重複関係　－

規模　182cm×104cm×67cm

長軸方位　N－37°－W

出土遺物

1．青磁蓮弁文碗（13C）

2．山茶椀系捏鉢（13C）

3．凹石（軽石製）

かわらけ3、土鍋1

貝（アカニシ）

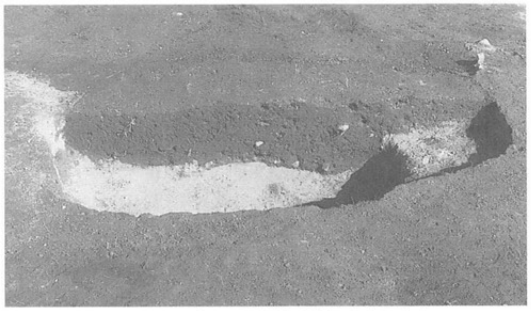


写真161　D19号土坑土層堆積状態（南より）

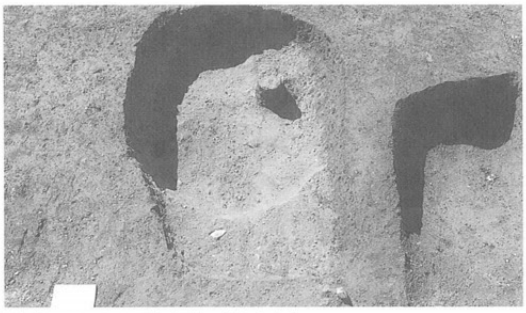


写真162　D19号土坑（東より）

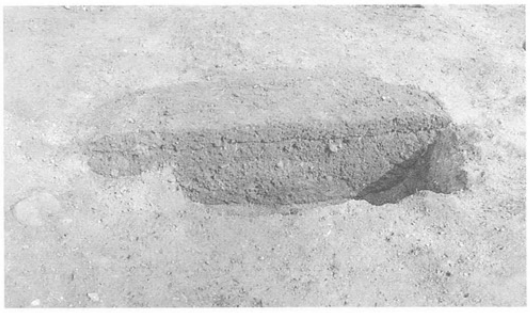


写真163　D72号土坑土層堆積状態（南より）

写真164　D72号土坑（南より）

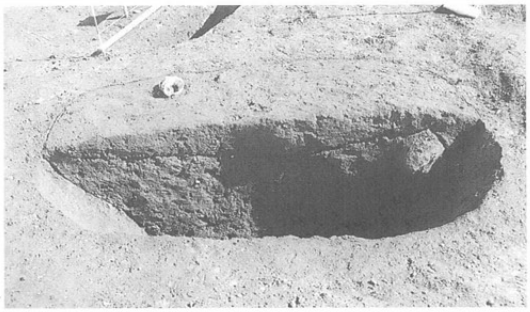


写真165　D87号土坑土層堆積状態（西より）

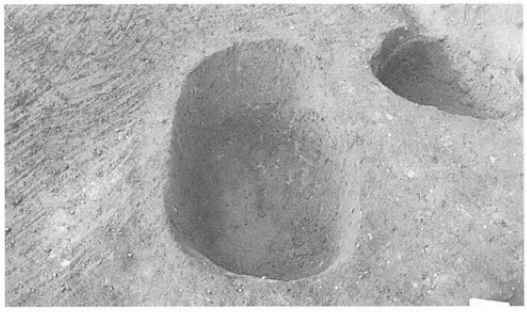


写真166　D87号土坑（南より）

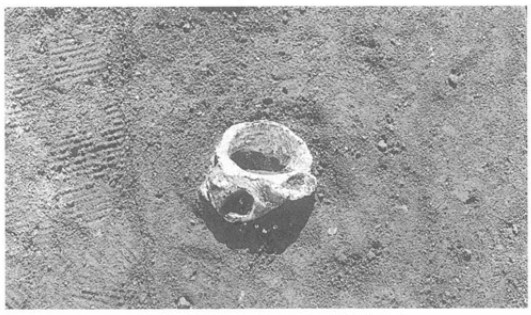
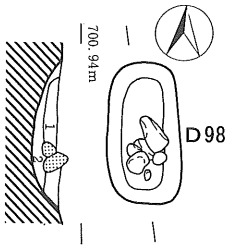
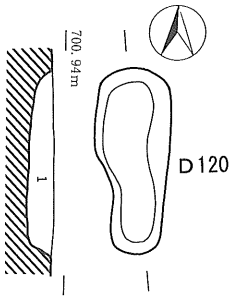


写真167　D87号土坑貝出土状況（北より）

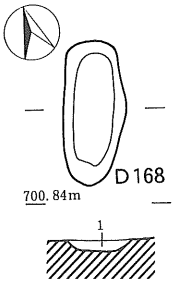
6）ＩＤ３・４・５（細長い長方形、中～大）



D98土層説明
1．黒褐色土層（10YR2/2）
砂粒・パミス５mm大小石含む。
2．暗褐色土層（10YR3/3）
砂粒・砂ブロック多量に含む。



D120土層説明
1．黒褐色土層（10YR2/3）
砂粒・砂ブロック含む。
５mm大小石含む。



D168土層説明
1．黒褐色土層（10YR2/2）
パミス・５mm大小石含む。
2．黒褐色土層（10YR2/2）
砂粒・パミス・５mm大小石含む。

D98号土坑（ＩＤ３）

検出位置　Ｅあ３

重複関係　－

規模　104cm×52cm×26cm

長軸方位　Ｎ－10°－Ｗ

出土遺物　－

D120号土坑（ＩＤ３）

検出位置　Ｅい10

重複関係　－

規模　146cm×56cm×21cm

長軸方位　Ｎ－3°－Ｗ

出土遺物　－

D168号土坑（ＩＤ３）

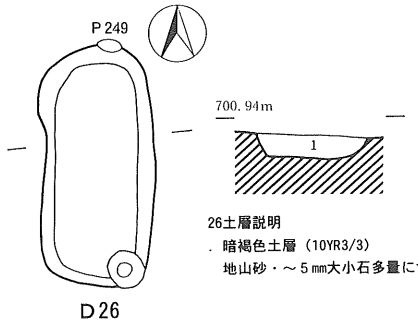
検出位置　Ｅき１

重複関係　－

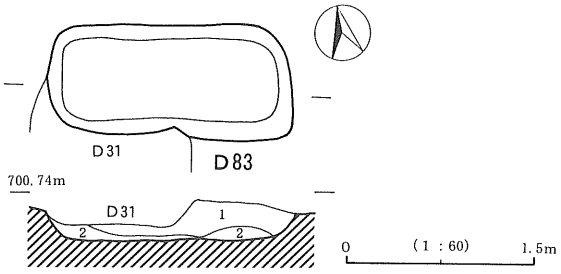
規模　114cm×50cm×９cm

長軸方位　Ｎ－21°－Ｅ

出土遺物　－



26土層説明
．暗褐色土層（10YR3/3）
地山砂・～５mm大小石多量に含む。



D83土層説明
1．黒褐色土層（10YR2/2）
炭化物少し含む。
地山砂・小石多く含む。
2．黒褐色土層（10YR2/3）
地山砂・～５mm大小石多量に含む。

第51図　ＩD3土坑（D98・D120・D168）・ＩD4土坑（D83）・ＩD5土坑（D26）

D26号土坑（ＩＤ５）

検出位置　Ｂけ５

重複関係　Ｐ249に切られる。

規模　254cm×90cm×18cm

長軸方位　Ｎ－0°

出土遺物　－

D83号土坑（ＩＤ４）

検出位置　Ｂけ４

長複関係　Ta19を切り、D31に切られる。

規模　194cm×80cm×30cm

長軸方位　Ｎ－85°－Ｗ

出土遺物　貝（ハマグリ）

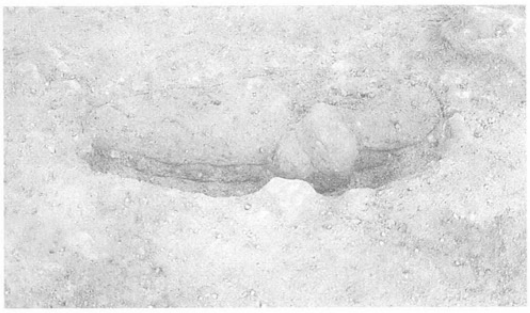


写真168　D98号土坑土層堆積状態（西より）

写真169　D98号土坑（北より）

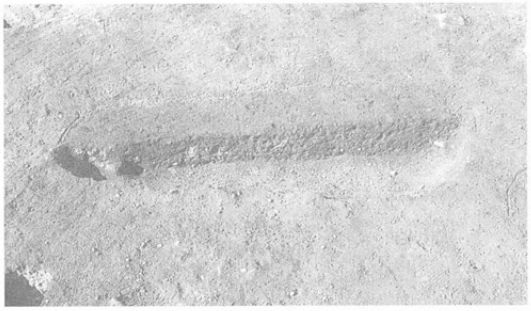


写真170　D120号土坑土層堆積状態（西より）

写真171　D120号土坑（西より）

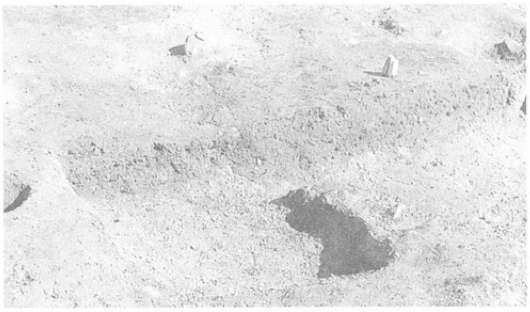


写真172　D26号土坑土層堆積状態（南より）

写真173　D26号土坑（西より）

写真174　D83号土坑土層堆積状態（南より）

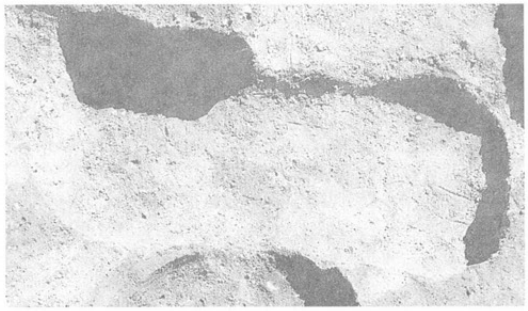


写真175　D83号土坑（北より）

ⅡＡ２　（円形、小さい）底面がＵ字状と平坦なものがある。

遺構名	出土位置	重　複　関　係	規　模(長×短×深さ)	長軸方位	遺　物
D51	Bこ8	Ta10に切られる。	66×58×36(cm)	N－44°－W	－
D52	Bこ6	P271に切られる。	84×81×32	N－61°－E	－
D75	Bこ1	－	72×70×21	N－0°	－
D100	Eう3	P511を切る。	81×74×50	N－80°－E	－
D113	Eい7	－	92×82×19	N－66°－E	礫7個出土
D148	Eえ6	－	90×90×42	－	－
D151	Eえ9	－	87×72×17	N－68°－W	－
D132	Eお2	P675を切る。	87×81×24	N－65°－W	礫3個出土
D156	Fえ1	－	90×90×12	－	－
D160	Aこ9	－	86×80×10	N－10°－E	－
D163	Fい1	－	88×80×15	N－2°－E	－
D164	Fえ1	－	80×72×12	N－80°－E	－
D166	Eい10	－	74×68×16	N－28°－W	礫1個出土
D167	Aこ9	－	70×64×24	N－10°－E	〃
D127	Dき10	P652に切られる。	81×81×75	－	土器1

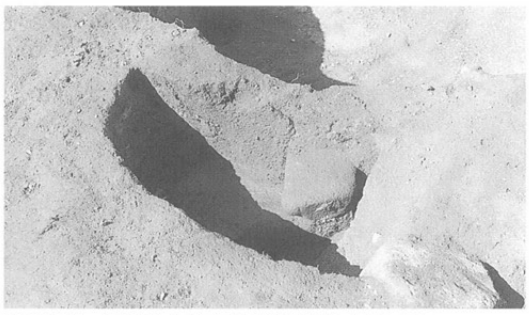


写真176　D51号土坑土層堆積状態（南より）

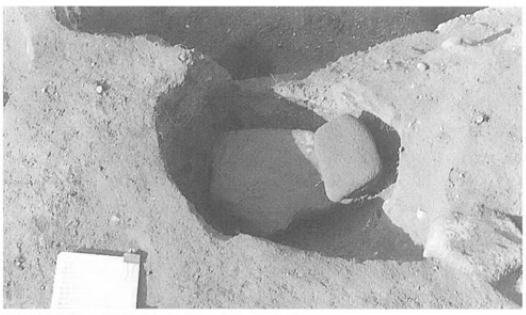


写真177　D51号土坑（南より）

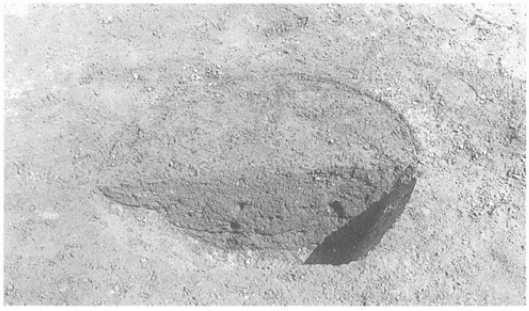


写真178　D52号土坑土層堆積状態（西より）

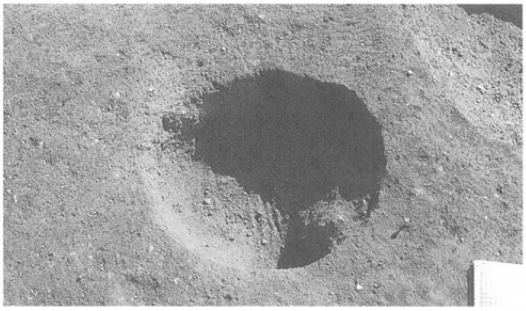
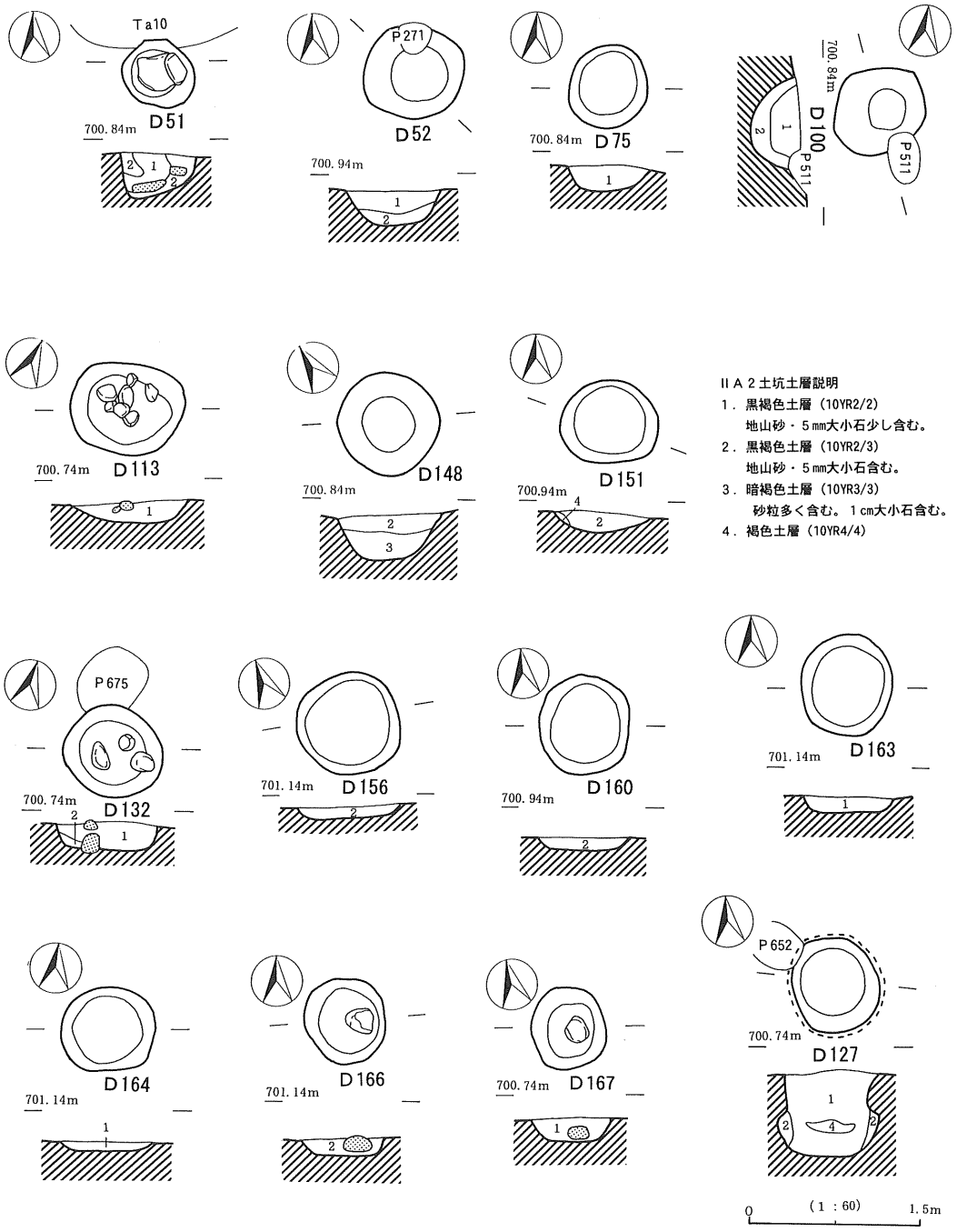


写真179　D52号土坑（北より）



ⅡＡ２土坑土層説明

1．黒褐色土層（10YR2/2）
　地山砂・５㎜大小石少し含む。
2．黒褐色土層（10YR2/3）
　地山砂・５㎜大小石含む。
3．暗褐色土層（10YR3/3）
　砂粒多く含む。１㎝大小石含む。
4．褐色土層（10YR4/4）

第52図　ⅡＡ2土坑（D51・D52・D75・D100・D55・D113・D127・D132・D148・D151・D156・D160・D161・D164・D166・D167）

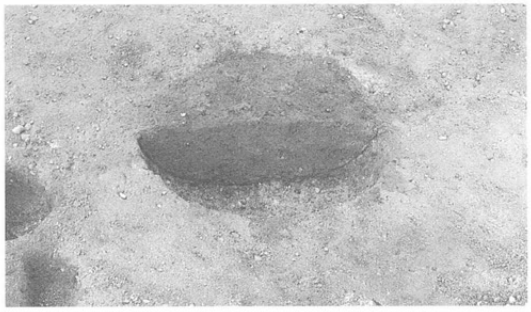


写真180　D75号土坑土層堆積状態（南より）

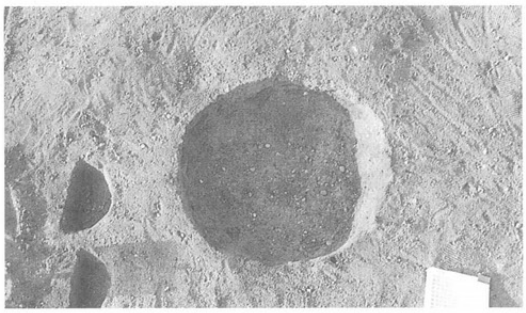


写真181　D75号土坑（南より）

写真182　D100号土坑土層堆積状態（西より）

写真183　D100号土坑（北より）

写真184　D113号土坑土層堆積状態（南より）

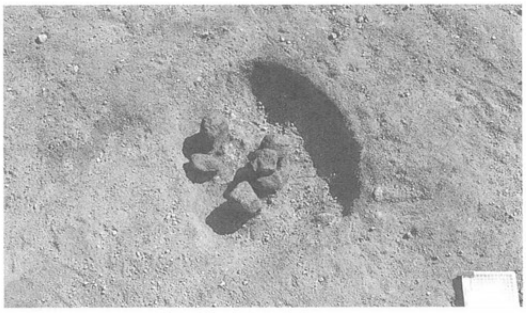


写真185　D113号土坑（西より）

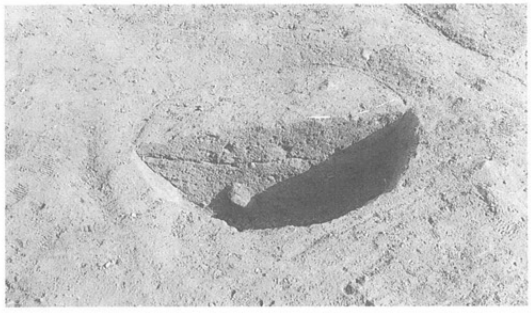


写真186　D148号土坑土層堆積状態（南より）

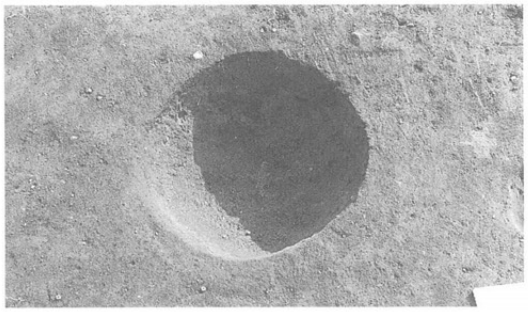


写真187　D148号土坑（西より）

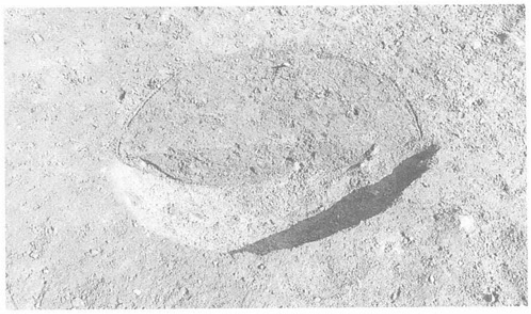


写真188　D151号土坑土層堆積状態（南より）

写真189　D151号土坑（西より）

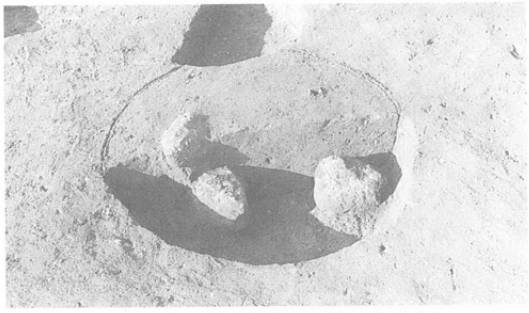


写真190　D132号土坑土層堆積状態（南より）

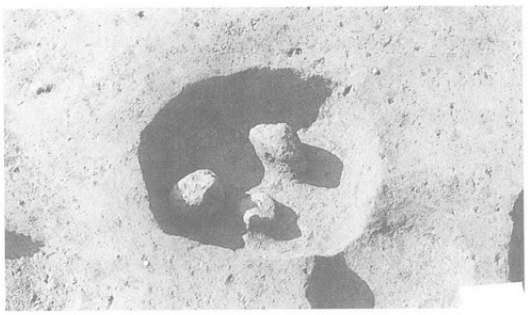


写真191　D132号土坑（北より）

写真192　D156号土坑土層堆積状態（南より）

写真193　D156号土坑（西より）

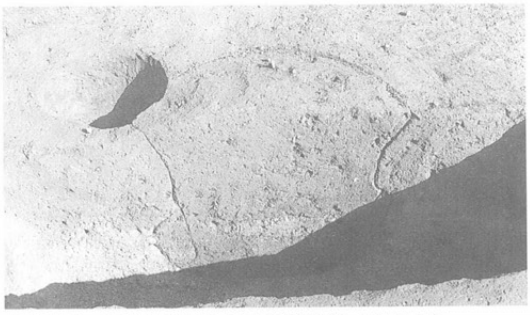
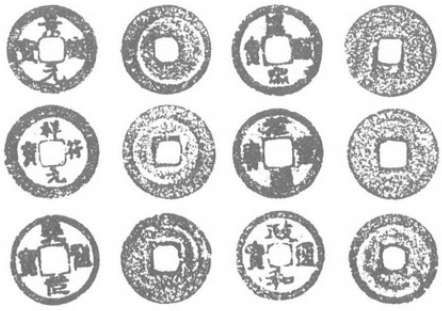
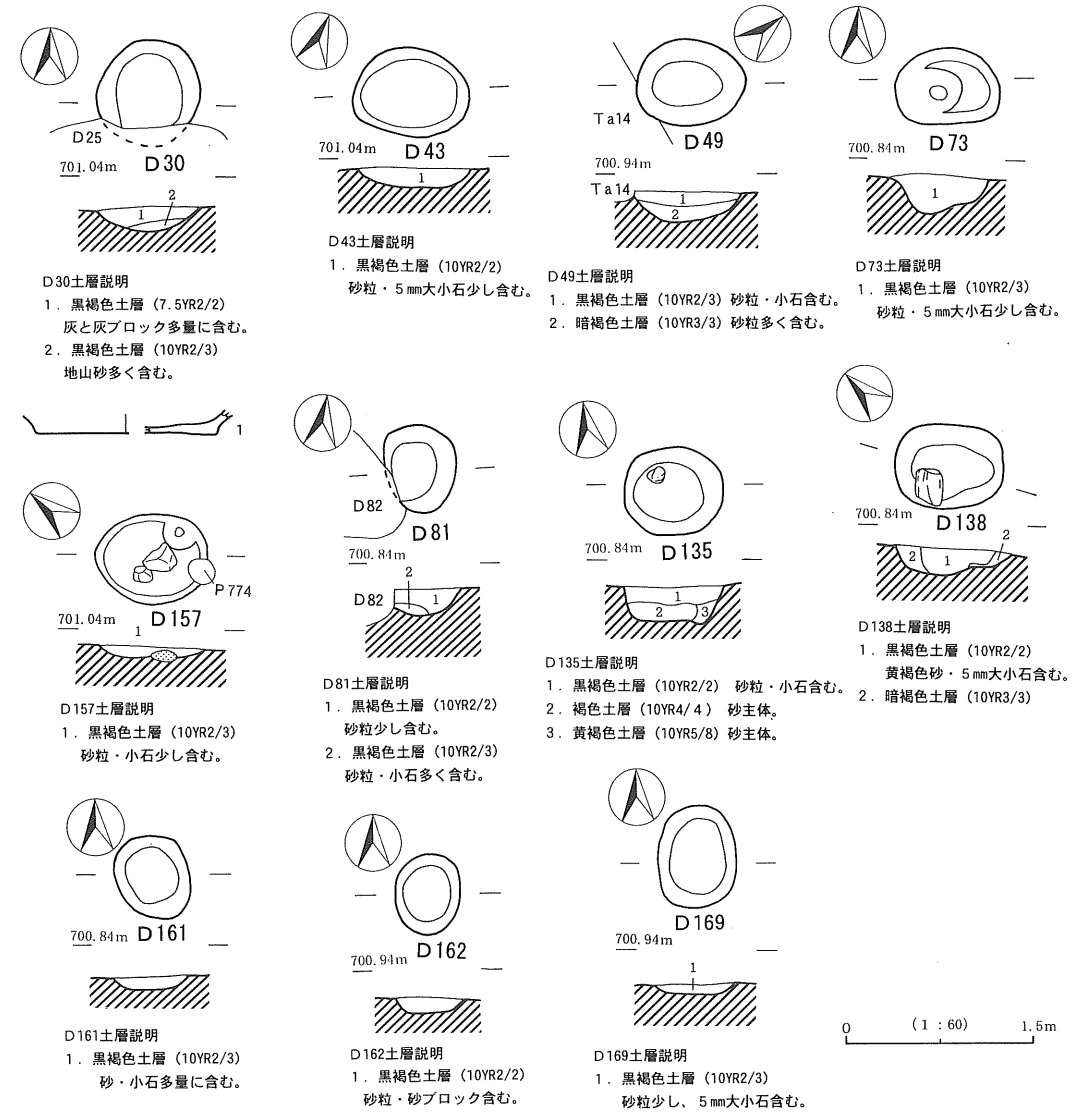


写真194　D127号土坑土層堆積状態（南より）



D162号土坑出土渡来銭拓影図

ⅡＢ２（やや楕円、小さい）



第53図ⅡＢ２土坑（D30・D43・D49・D73・D81・D135・D138・D157・D160・D161）

遺構名	出土位置	重　複　関　係	規　模(長×短×深さ)	長軸方位	遺　物
D30	Bく4	D25に切られる。	81×〈67〉×22(cm)	－	かわらけ
D43	Cく4	－	89×70×15	N－60°－E	－
D49	Bき8	Ta14に切られる。	88×70×24	N－18°－E	－
D73	Bけ3	－	84×60×49	N－89°－E	－
D81	Bけ4	D82に切られる。	70×54×21	N－13°－W	獣骨
D135	Eえ1	－	80×70×27	N－82°－W	礫1出土

遺構名	出土位置	重　複　関　係	規　模(長×短×深さ)	長軸方位	遺　物
D138	Eえ3	－	88×70×28(cm)	N－41°－W	礫1出土
D157	Fお1	P774に切られる。	88×72×8	N－41°－W	礫2出土
D161	Dあ9	－	70×60×12	N－20°－W	－
D162	Eい9	－	62×52×13	N－0°	渡来銭6枚
D169	Eお5	－	80×62×13	N－5°－E	アカニシ

写真195　D30号土坑土層堆積状態（北より）

写真196　D30号土坑（北より）

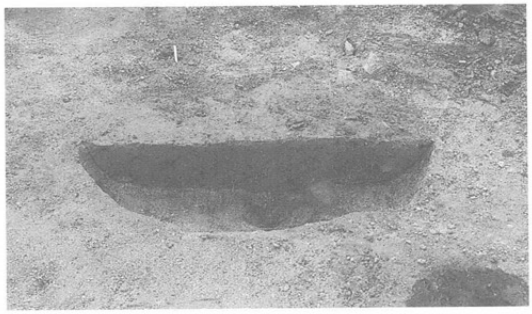


写真197　D43号土坑土層堆積状態（北より）

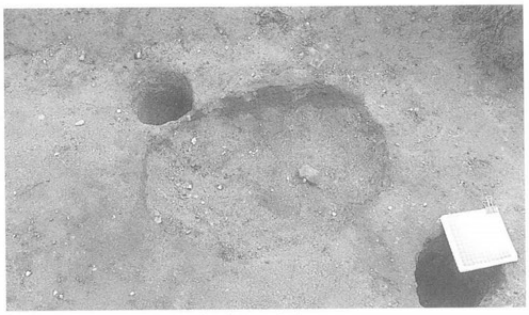


写真198　D43号土坑（北より）

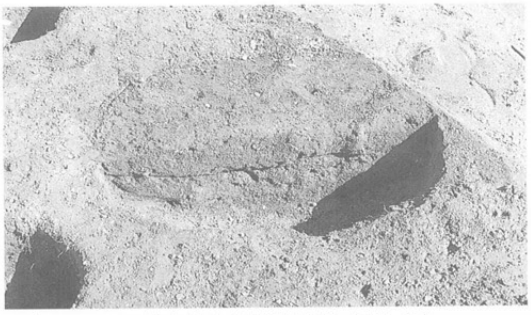


写真199　D49号土坑土層堆積状態（西より）

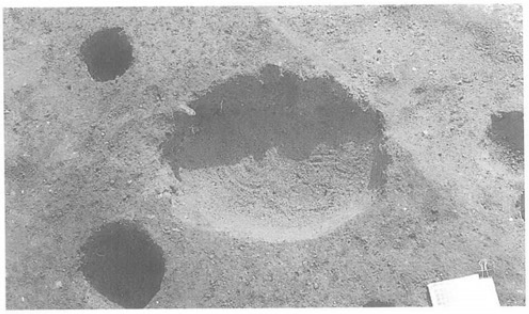


写真200　D49号土坑（西より）

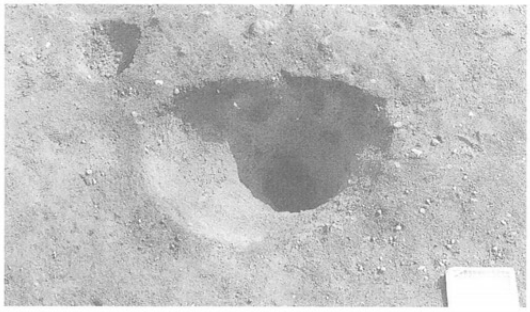


写真201　D73号土坑（北より）

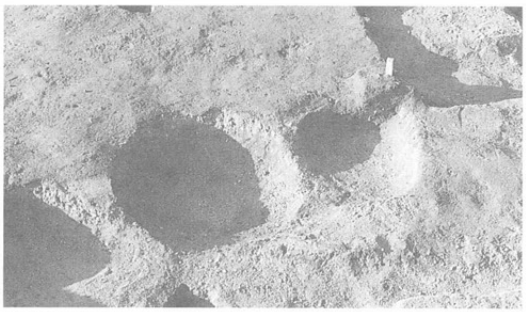


写真202　D81号土坑（北より）

写真203　D135号土坑土層堆積状態（南より）

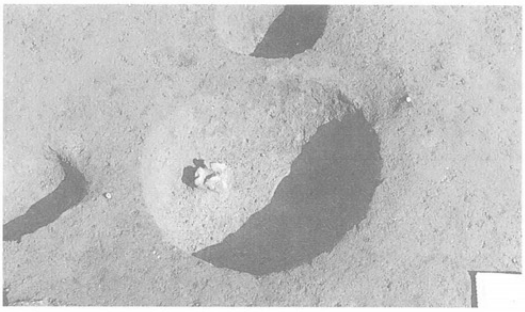


写真204　D135号土坑（南より）

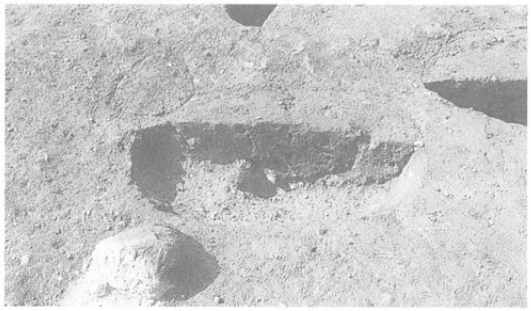


写真205　D138号土坑土層堆積状態（東より）

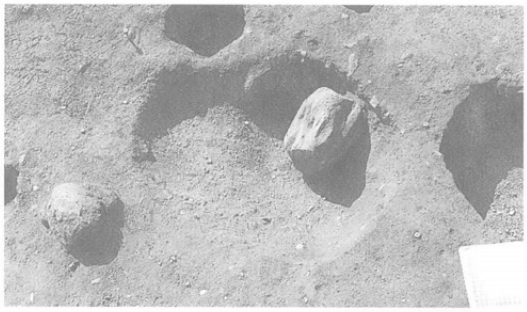


写真206　D138号土坑（東より）

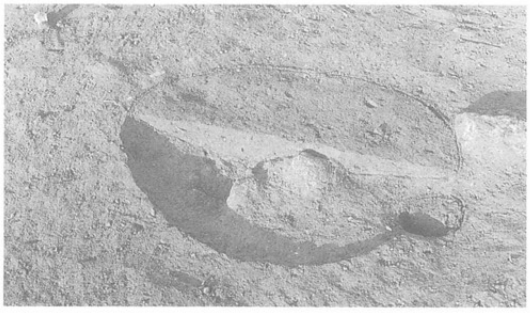


写真207　D157号土坑土層堆積状態（西より）

写真208　D157号土坑（南より）

第54図　ⅡＡ３土坑（D36・D78）

ⅡＡ３　（円形・中規模）

D36号土坑

検出位置　Ｂく３　重複関係　Ta17

規模　122cm×113cm×37cm

長軸方位　Ｎ－90°－Ｗ

出土遺物　１．かわらけ（他３）

２・３．飾り鋲

４～８．角釘

D78号土坑

検出位置　Ａけ８　重複関係　D94

規模　92cm×84cm×38cm

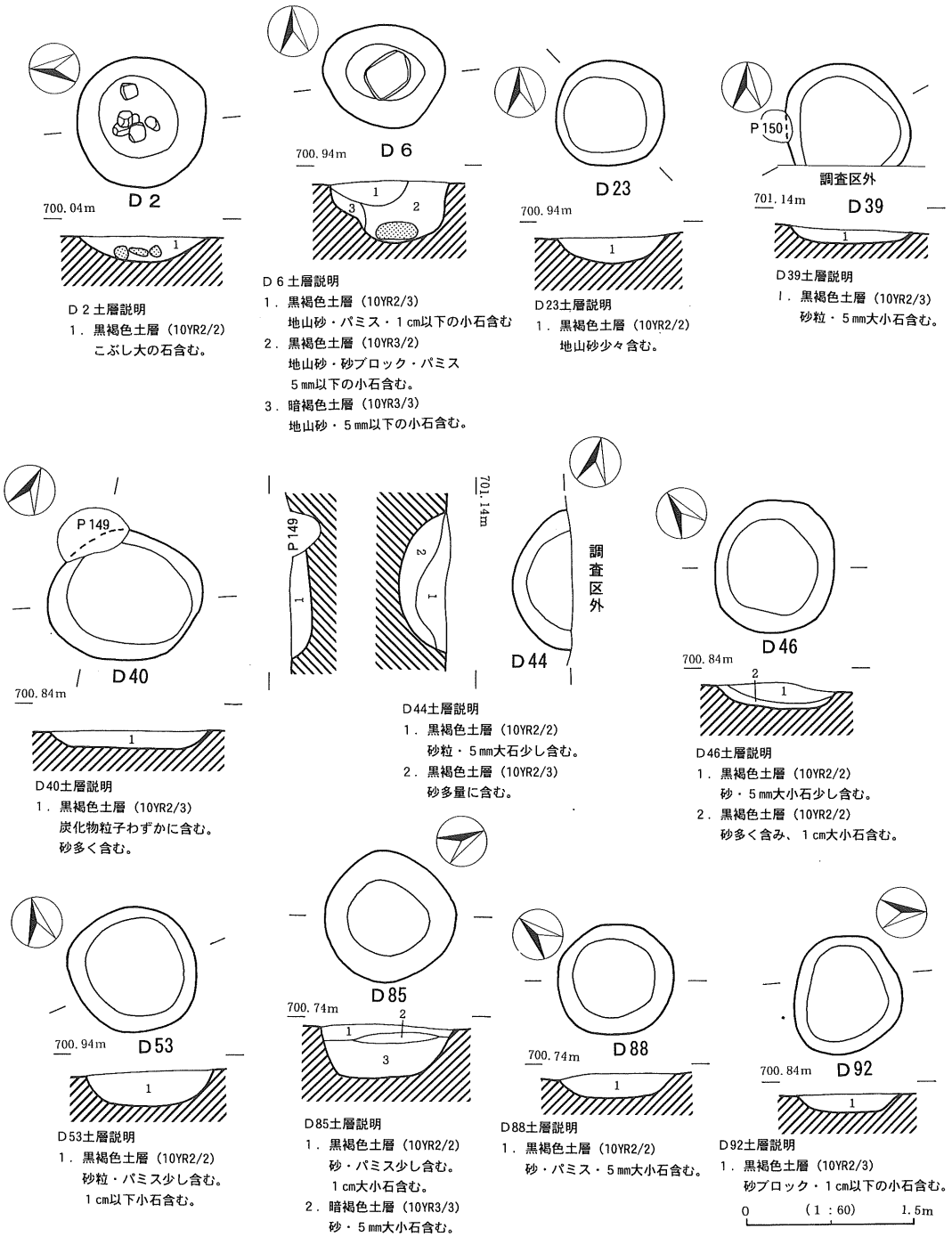
長軸方位　Ｎ－8°－Ｗ

出土遺物　１．山茶碗系捏鉢（13Ｃ）

２．瓦質擂鉢（在地13Ｃ末～14Ｃ前半）

３．角釘

遺構名	出土位置	重　複　関　係	規　模(長×短×深さ)	長軸方位	遺　物
Ｄ２	Ｂく９	－	114×114×20(cm)	－	礫出土
Ｄ６	Ｂこ８	Ta10を切る。	101×93×53	Ｎ－90°	扁平石
D23	Ｂけ６	－	96×92×25	Ｎ－90°	弥１、須１
D39	Ｃき１	Ｐ150に切られる。	116×107×19	Ｎ－45°－Ｗ	－
D40	Ｂく２	Ｐ149に切られる。	128×119×20	Ｎ－52°－Ｗ	－
D44	Ｂき４	東側区域外。	125×〈60〉×31	－	－
D46	Ｂく３	－	107×116×24	Ｎ－60°－Ｅ	かわらけ３
D53	Ｂこ６	－	118×110×31	Ｎ－56°－Ｗ	土鍋２
D85	Ｄあ10	－	119×119×51	－	－
D88	Ｄあ10	－	101×99×21	Ｎ－10°－Ｅ	－
D92	Ｅい１	D93を切る。	104×94×18	Ｎ－90°	－
D99	Ｅう３	Ｐ510を切る。	130×114×51	Ｎ－38°－Ｗ	－
D105	Ｅう４	－	110×106×26	Ｎ－11°－Ｅ	礫1出土
D106	Ｅう５	－	104×96×52	－	－
D116	Ｆあ１	－	99×98×21	－	－



D２土層説明
1．黒褐色土層（10YR2/2）
こぶし大の石含む。

D６土層説明
1．黒褐色土層（10YR2/3）
地山砂・パミス・１cm以下の小石含む
2．黒褐色土層（10YR3/2）
地山砂・砂ブロック・パミス
５mm以下の小石含む。
3．暗褐色土層（10YR3/3）
地山砂・５mm以下の小石含む。

D23土層説明
1．黒褐色土層（10YR2/2）
地山砂少々含む。

D39土層説明
1．黒褐色土層（10YR2/3）
砂粒・５mm大小石含む。

D40土層説明
1．黒褐色土層（10YR2/3）
炭化物粒子わずかに含む。
砂多く含む。

D44土層説明
1．黒褐色土層（10YR2/2）
砂粒・５mm大石少し含む。
2．黒褐色土層（10YR2/3）
砂多量に含む。

D46土層説明
1．黒褐色土層（10YR2/2）
砂・５mm大小石少し含む。
2．黒褐色土層（10YR2/2）
砂多く含み、１cm大小石含む。

D53土層説明
1．黒褐色土層（10YR2/2）
砂粒・パミス少し含む。
１cm以下小石含む。

D85土層説明
1．黒褐色土層（10YR2/2）
砂・パミス少し含む。
１cm大小石含む。
2．暗褐色土層（10YR3/3）
砂・５mm大小石含む。
3．黒褐色土層（10YR2/3）
砂・５mm大小石含む。
パミス含む。

D88土層説明
1．黒褐色土層（10YR2/2）
砂・パミス・５mm大小石含む。

D92土層説明
1．黒褐色土層（10YR2/3）
砂ブロック・１cm以下の小石含む。

第55図　ⅡA3土坑（D2・D6・D23・D39・D40・D44・D46・D53・D85・D88・D92）